魔法少女シャインハーツ

第二章『藤間アサヒ』

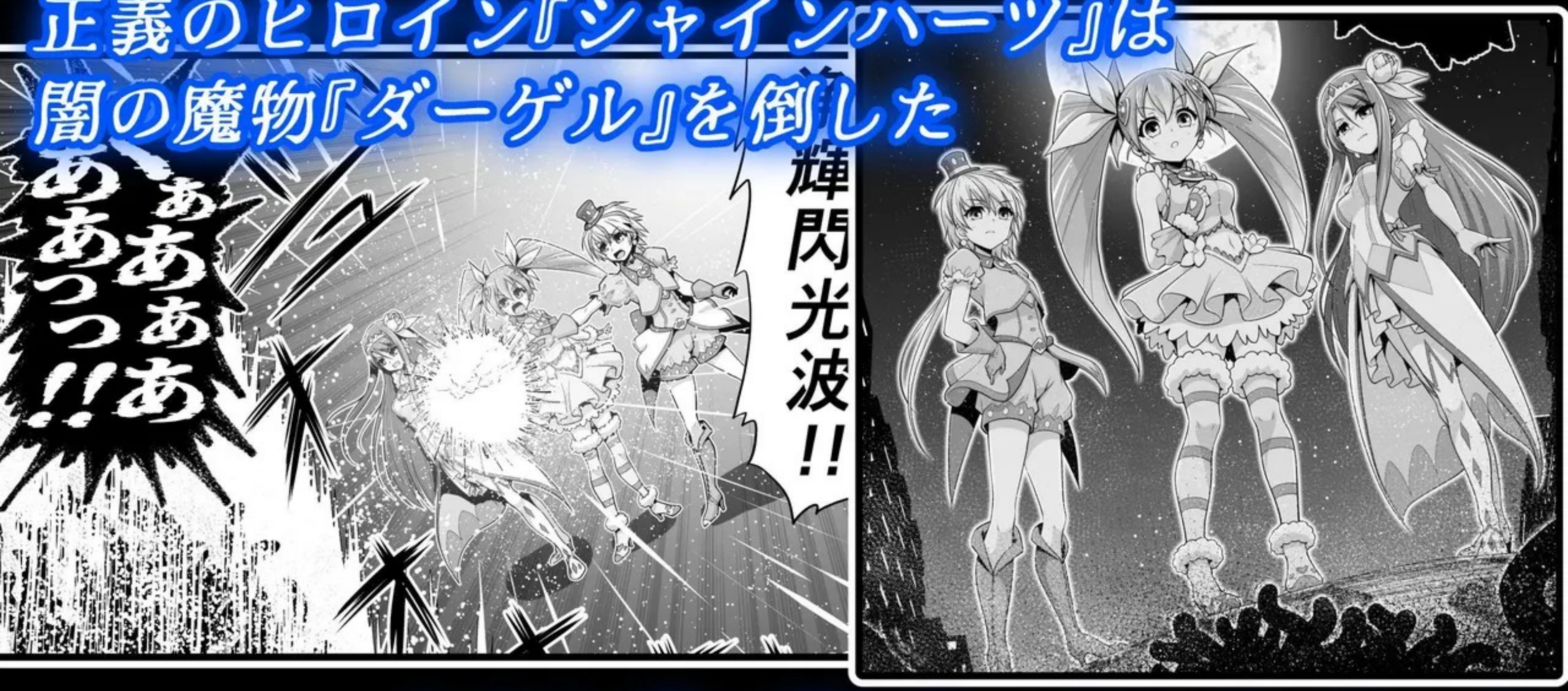
脳（こころ）と身体を浸食（しはい）して

王子様を雌奴隷（おんなのこ）に…

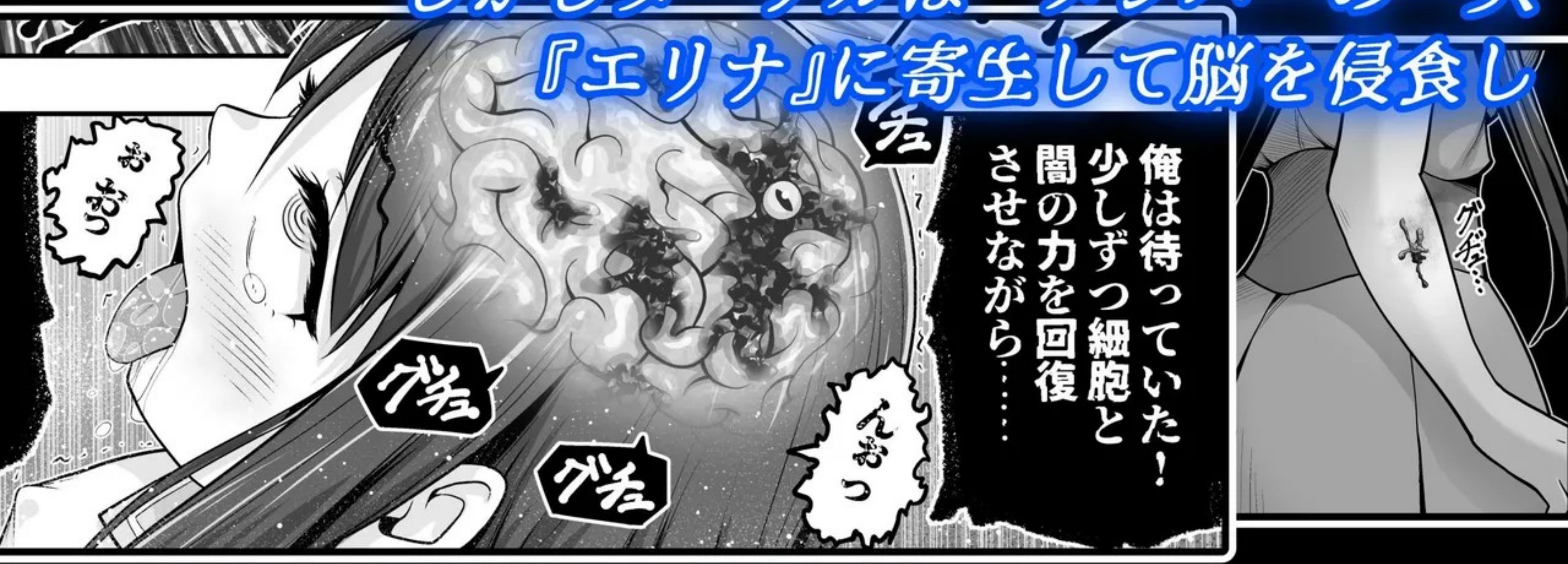
白黒漫画　本編68P

～第一章のあらすじ～

正義のヒロイン『シャインハーツ』は闇の魔物『ダーゲル』を倒した


浄輝閃光波!!
ああああああっっ!!

しかしダーゲルは　メンバーの一人『エリナ』に寄生して脳を侵食し


グヂュ…
俺は待っていた！少しずつ細胞と闇の力を回復させながら……
グチュ
んおっ
グチュ
グチュ
おおっ

エリナは洗脳され凌辱される

…お…オナニーは……
ま　毎日…して……ます……
んあっ
ペ…ペンとか……あと……机で……
こ…こうやって……グリグリ……押し付けて……
んっ
ふあぁ
グヂュッ
ヌチュッ
はああああっあああああっっ!!
ドビュ
ビクビクッ
あああっ
ドルルル

洗脳により生やされた触手で
自らを凌辱していくエリナ

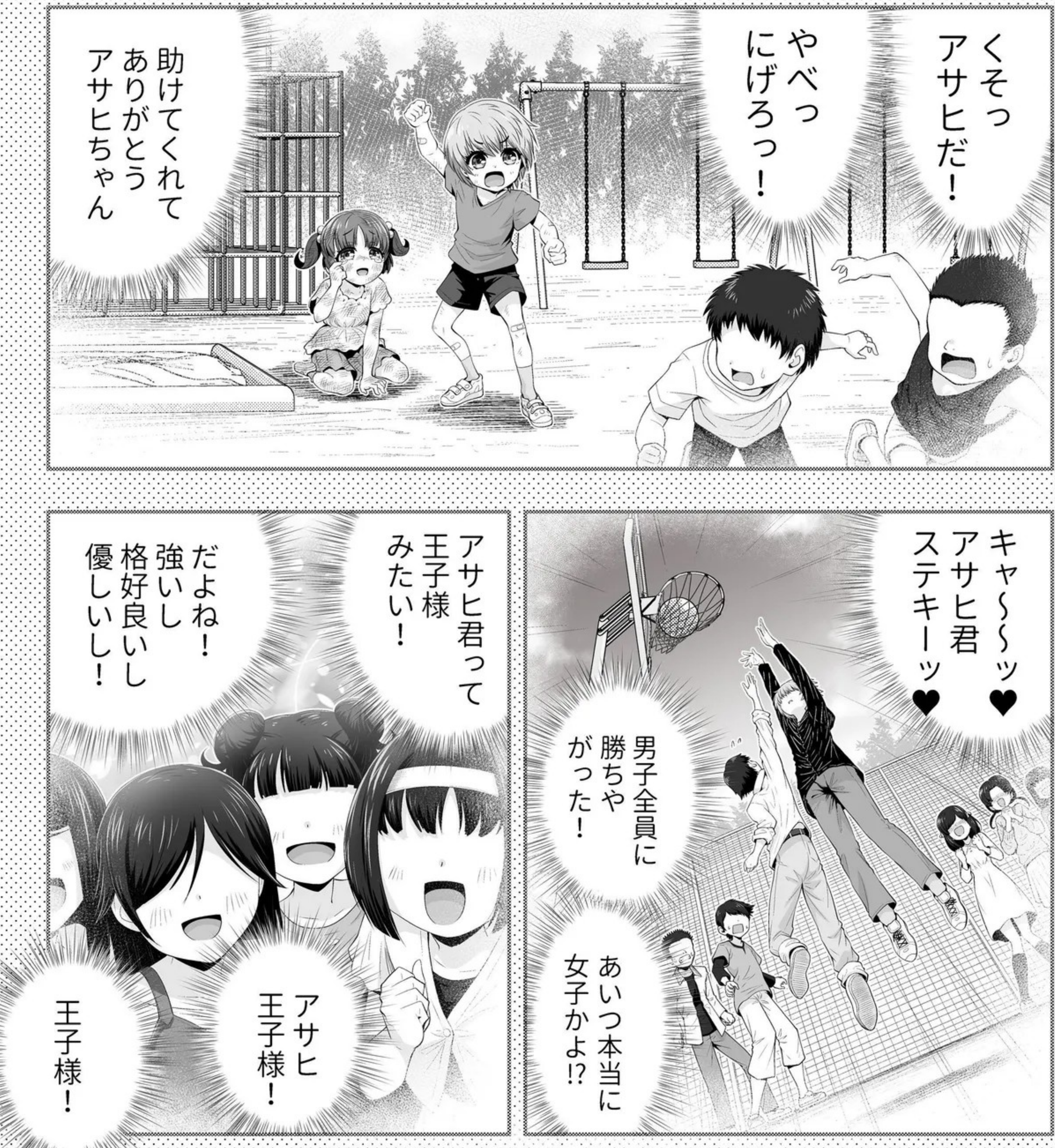
触手はこうしてちゃんとオマ○コの中に入れておかないと外に出しておくなんて考えられないわ……！
んぷっ
んむぉぉ
ズギュル
グチュグチュ
グギュル
んぷぅっ
どしたのエリナ!?
にっ二本の触手がっ!! オマ○コとお尻の中をおっ!!
あぁっ
グチュッ
ヌヂュッ
ズチョッ
んあっ
あっ
んはぁぁ……
あぁっ
も……もっと
あっ
きっ気持ちいいいいいっ!!
水原さんの口もっ!! オマ○コもぉおっ!!
グチョッ
ズブッ
ズボッ

やがて身も心も堕落し

いか
ボッ
あっ! いっ!! いいいのおおっ!!
ヌレ
グチュ
チ○ポしゅごいいいいっ最高なのおおっっ
完璧な女はっわたしの目指す……!
ご主人様の雌豚奴隷いいっ!!
ンおおッ
ビクンッ
ビクッ
クク……『完璧な自分』に生まれ変わった気分はどうだ? シャインハーツ……いや
『ダークハーツ』エリナよ……
はい……♥ ご主人様の雌奴隷としての悦びと幸福が
またすぐにイッてしまい

ダーゲルの雌奴隷へ
生まれ変わる……

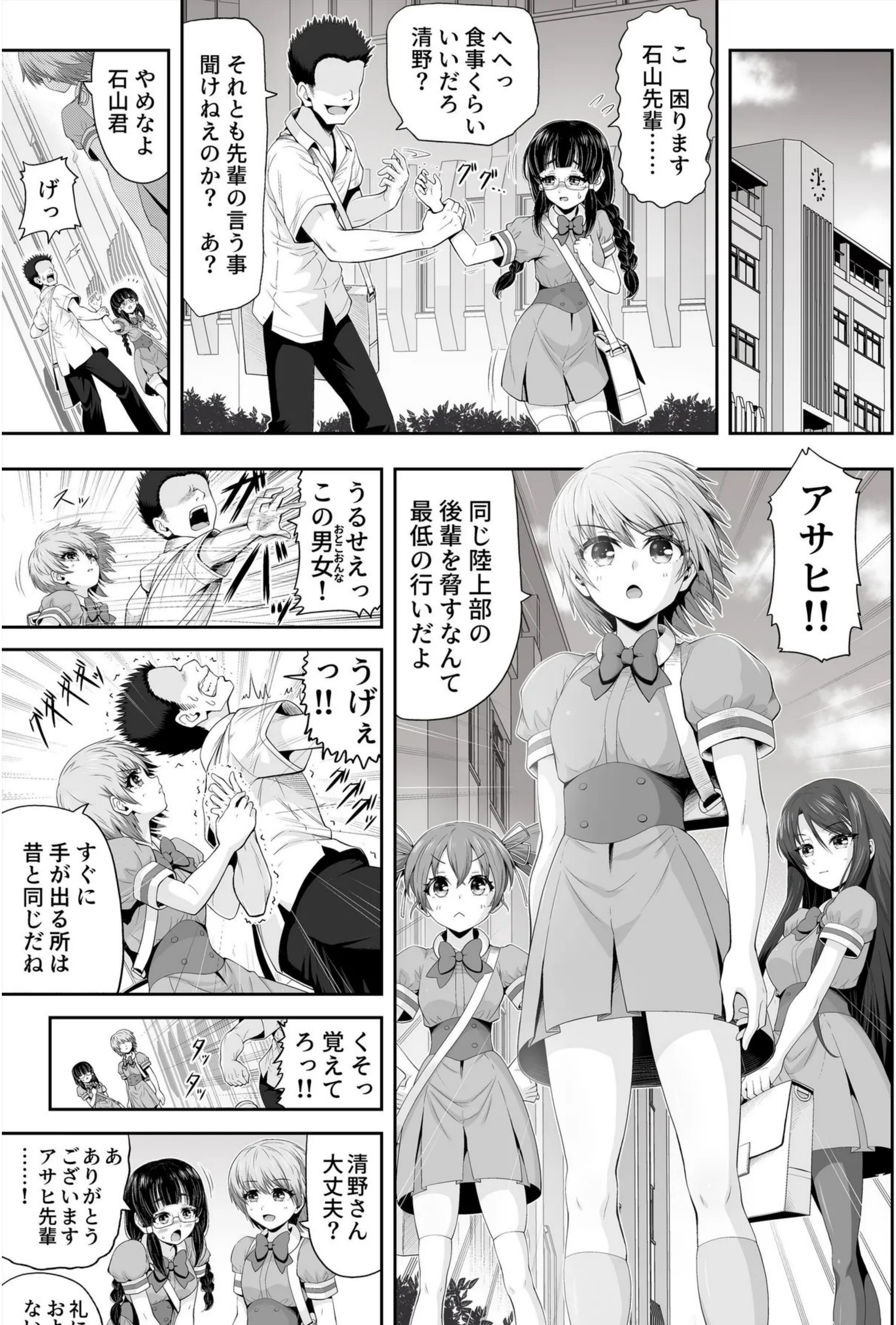
……そして次の標的は――

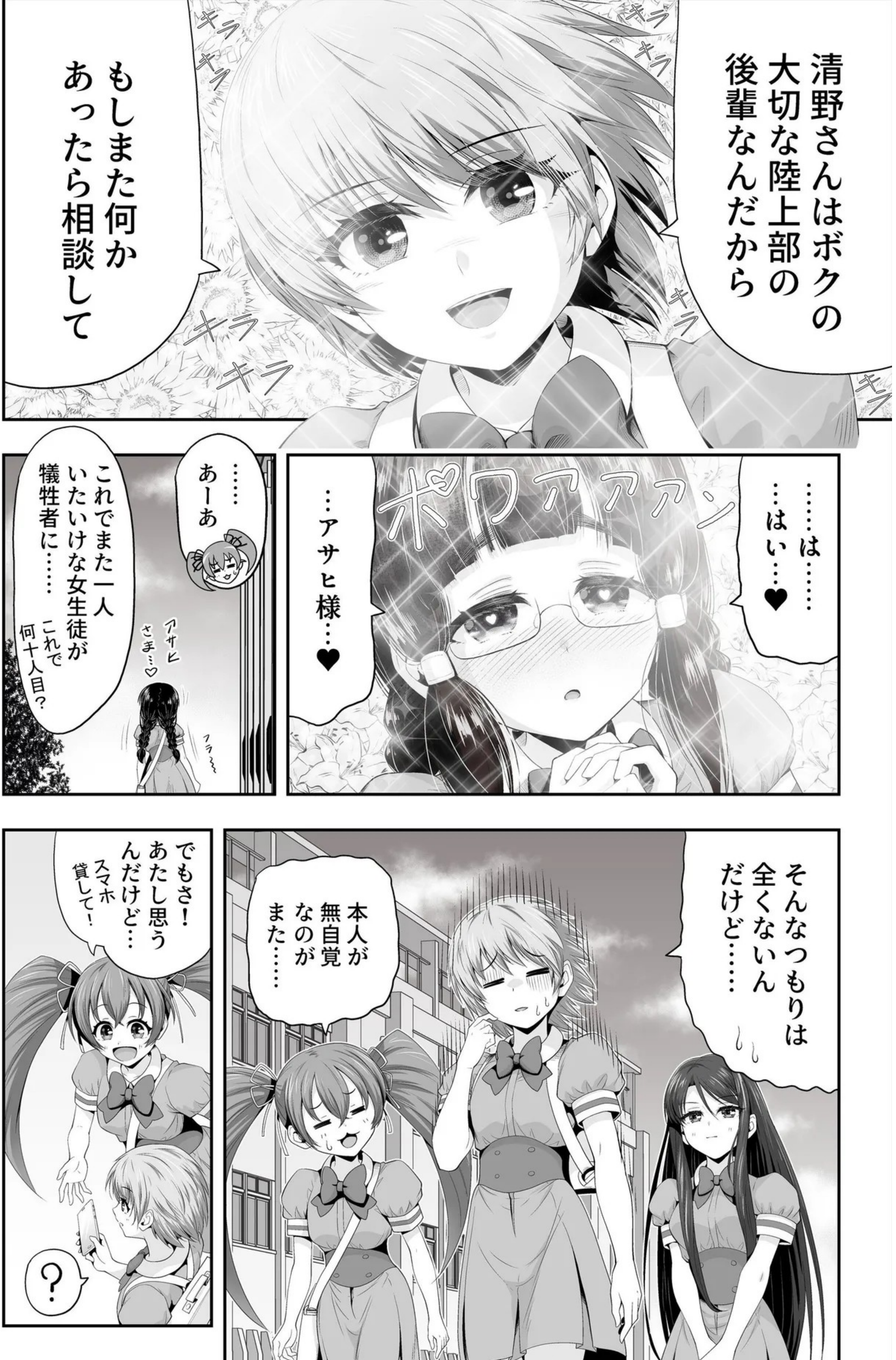

くそっ
アサヒだ！
やべっ
にげろっ！
助けてくれて
ありがとう
アサヒちゃん
キャ〜〜ッ♥
アサヒ君
ステキーッ♥
男子全員に
勝ちや
がった！
あいつ本当に
女子かよ!?
アサヒ君って
王子様
みたい！
だよね！
強いし
格好良いし
優しいし！
アサヒ
王子様！
王子様！

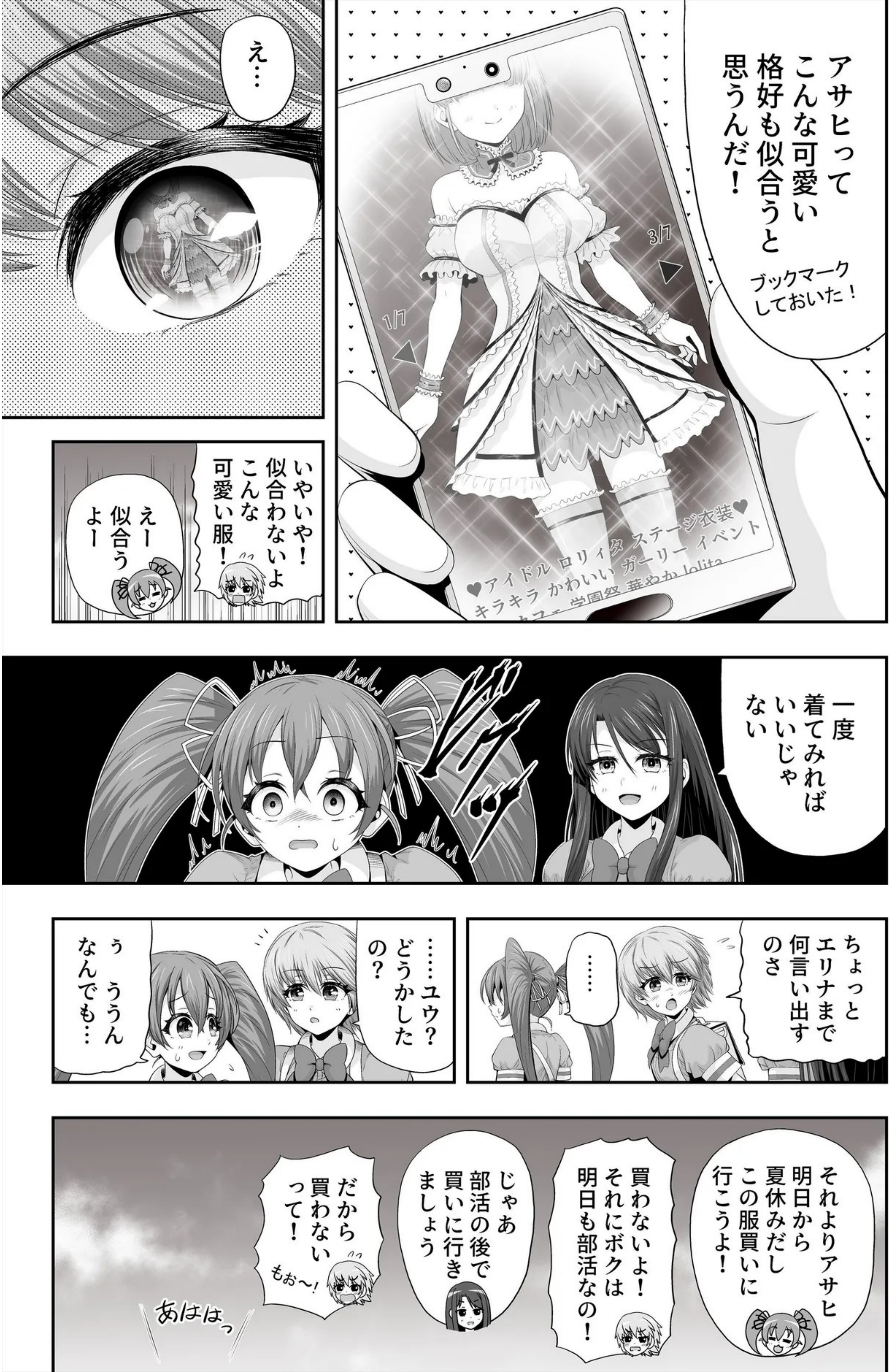
王子様――

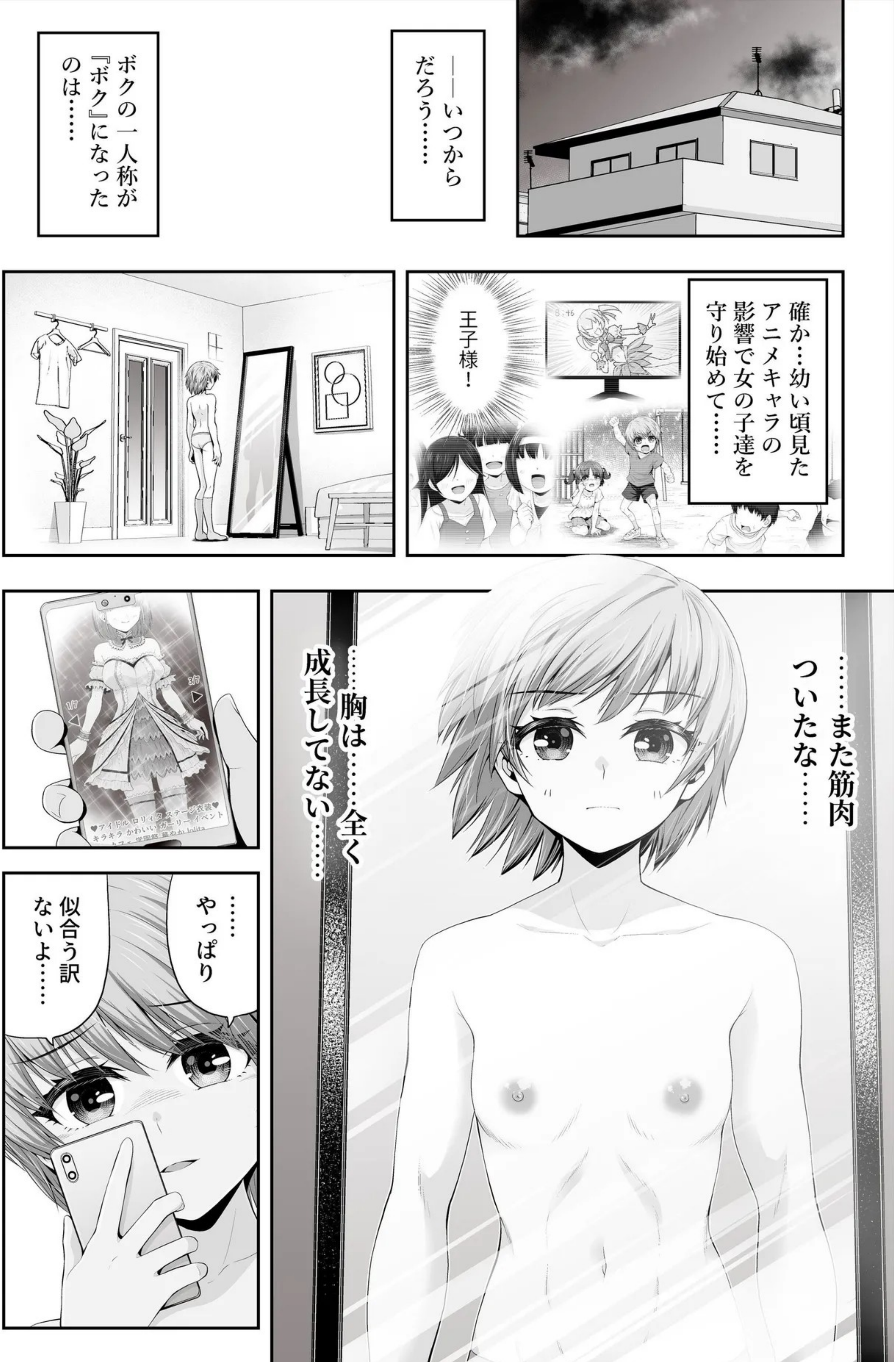
第二章

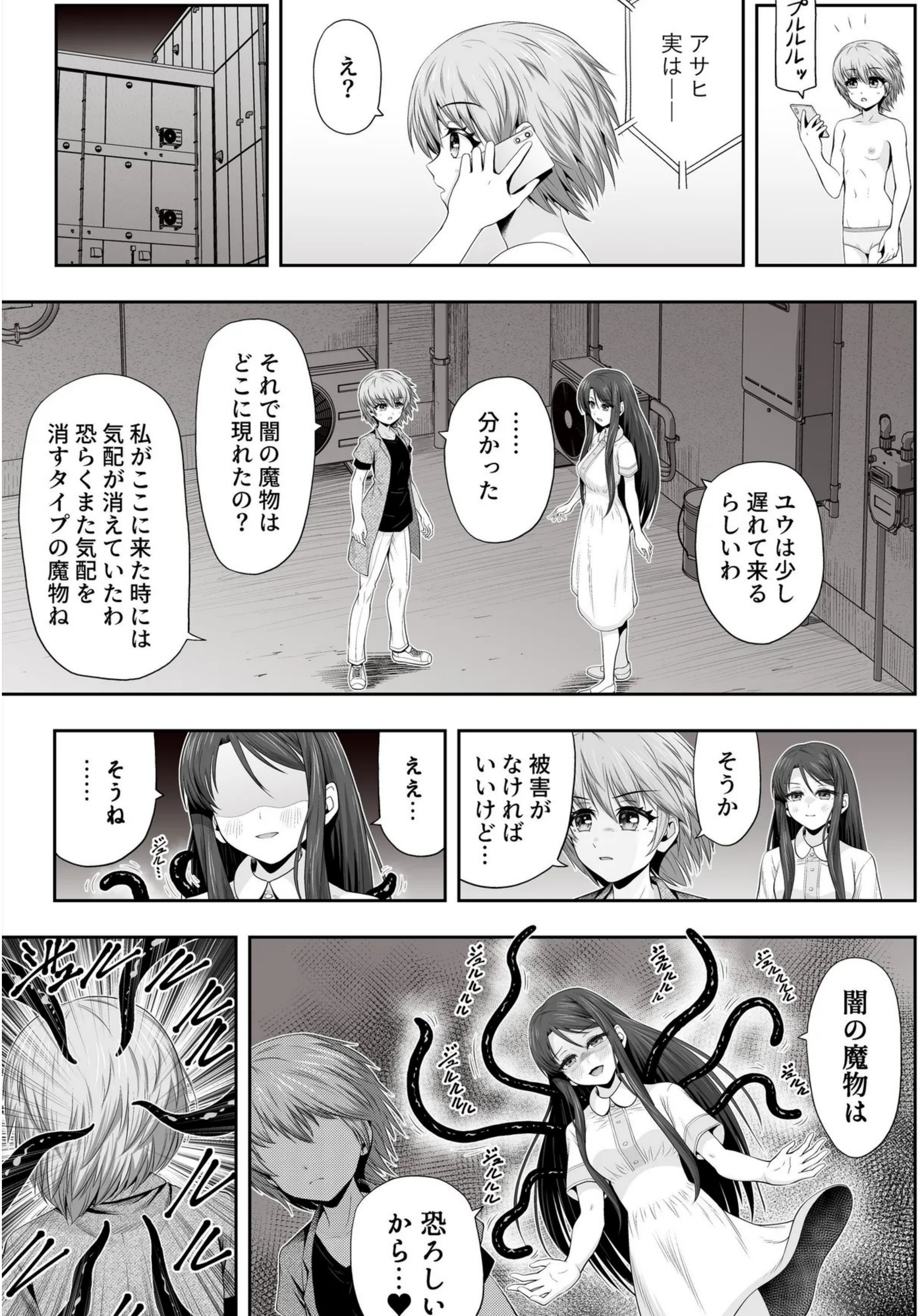
｛藤間アサヒ｝

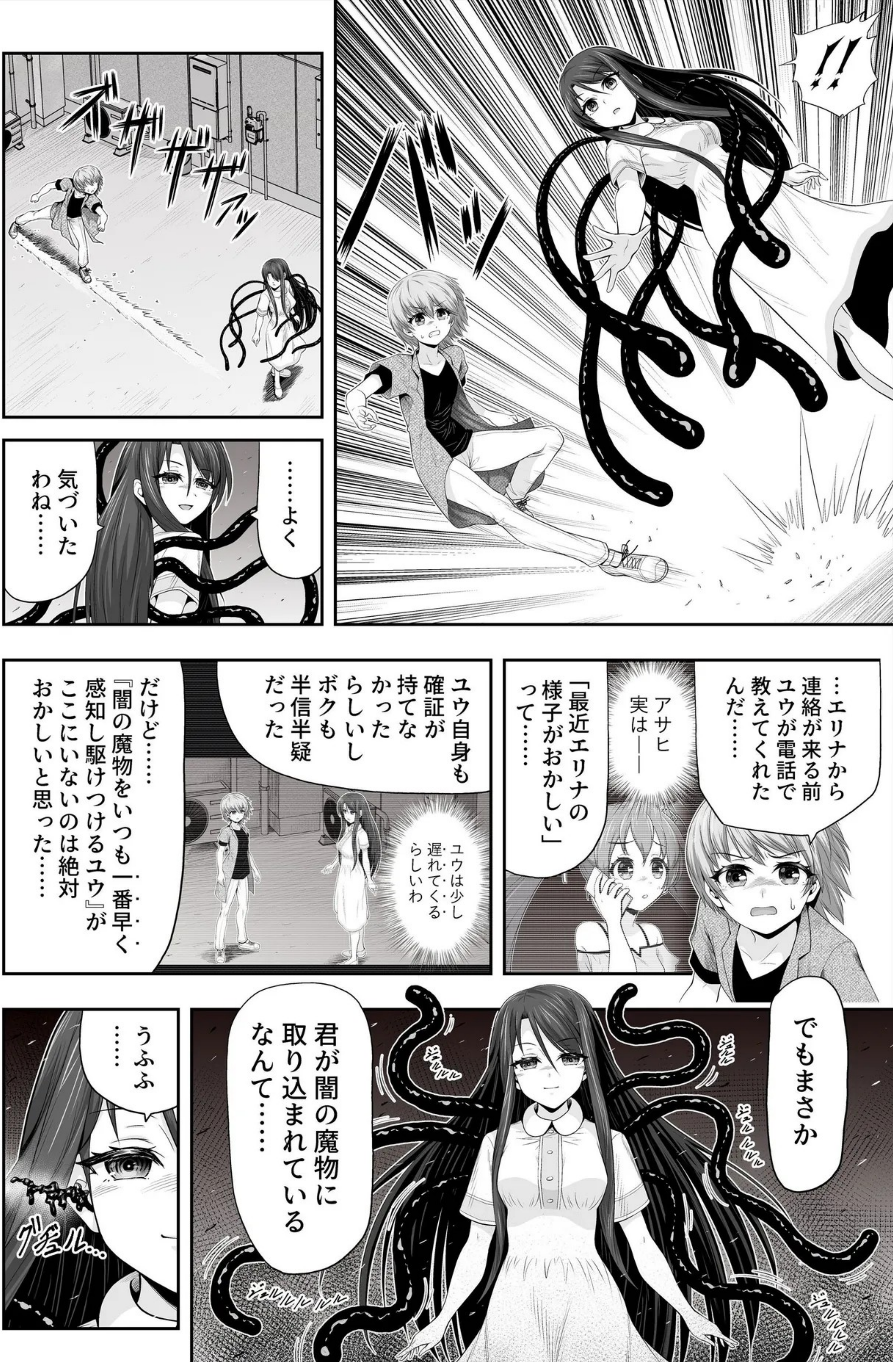

こ　困ります
石山先輩……
へへっ
食事くらい
いいだろ
清野？
グググ…
それとも先輩の言う事
聞けねえのか？　あ？
やめなよ
石山君
げっ
アサヒ!!
同じ陸上部の
後輩を脅すなんて
最低の行いだよ
うるせえっ
この男女（おとこおんな）！
ガッ
スッ
うげぇっ!!
グググ
すぐに
手が出る所は
昔と同じだね
くそっ
覚えてろっ!!
タッタッ
清野さん
大丈夫？
あ
ありがとう
ございます
アサヒ先輩
……！
礼には
およば
ないよ

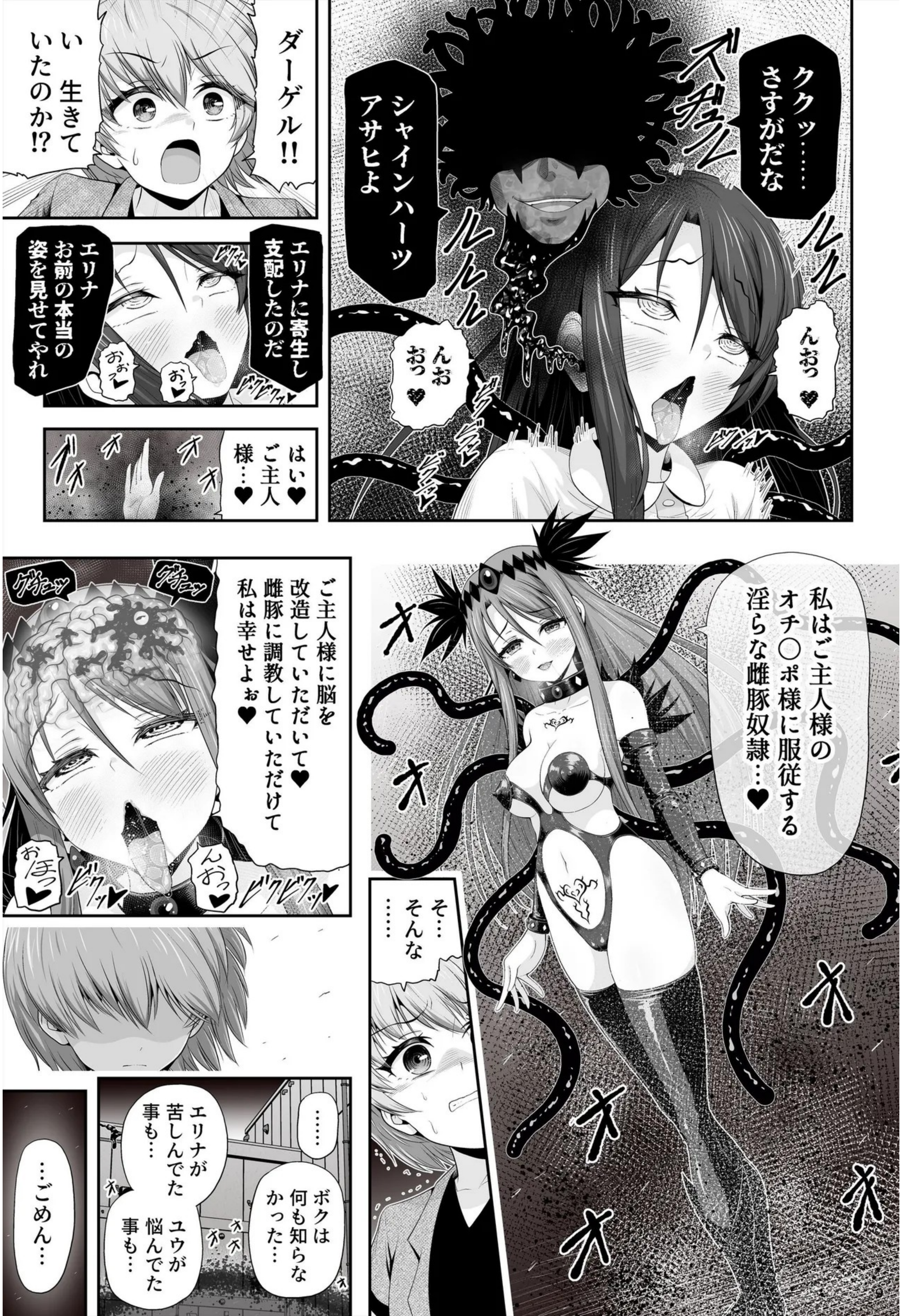

キラ
キラ
清野さんはボクの大切な陸上部の後輩なんだから
キラ
キラ
もしまた何かあったら相談して
キラ
キラ
キラ
……は……はい……♥
ポワァァァン
…アサヒ様…♥
……あーあ
これでまた一人いたいけな女生徒が犠牲者に……
これで何十人目?
アサヒさま…♡
フラ〜〜
そんなつもりは全くないんだけど……
本人が無自覚なのがまた……
でもさ！あたし思うんだけど…
スマホ貸して！
？

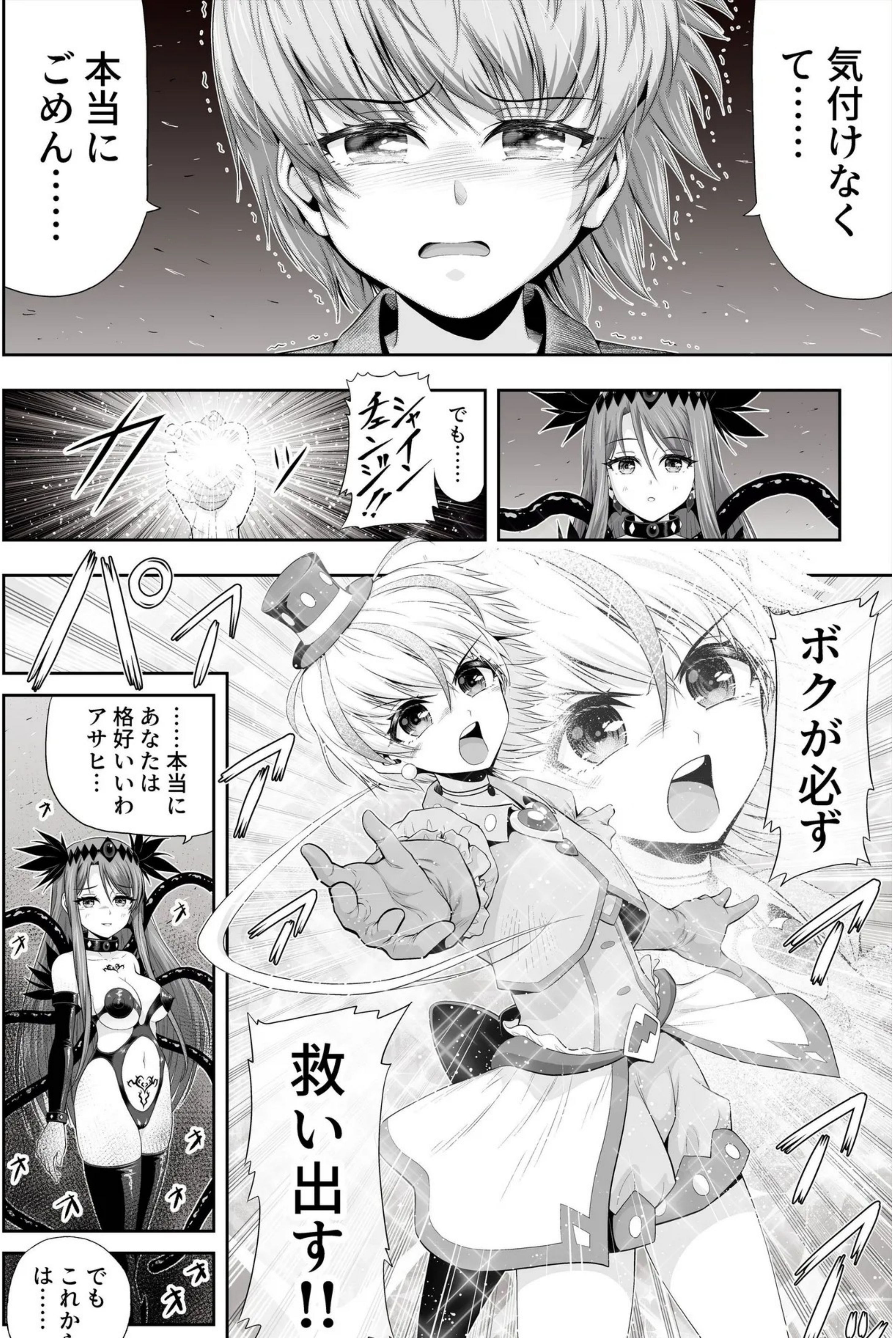

アサヒって こんな可愛い 格好も似合うと 思うんだ！
ブックマーク しておいた！
3/7
1/7
♥アイドル ロリィタ ステージ衣装♥
キラキラ かわいい ガーリー イベント
学園祭 華やか lolita
え…
いやいや！ 似合わないよ こんな 可愛い服！
えー 似合う よー
一度 着てみれば いいじゃ ない
ちょっと エリナまで 何言い出す のさ
……
……ユウ？ どうかした の？
ぅ ううん なんでも…
それよりアサヒ 明日から 夏休みだし この服買いに 行こうよ！
買わないよ！ それにボクは 明日も部活なの！
じゃあ 部活の後で 買いに行き ましょう
だから 買わない って！
もぉ～！
あははっ

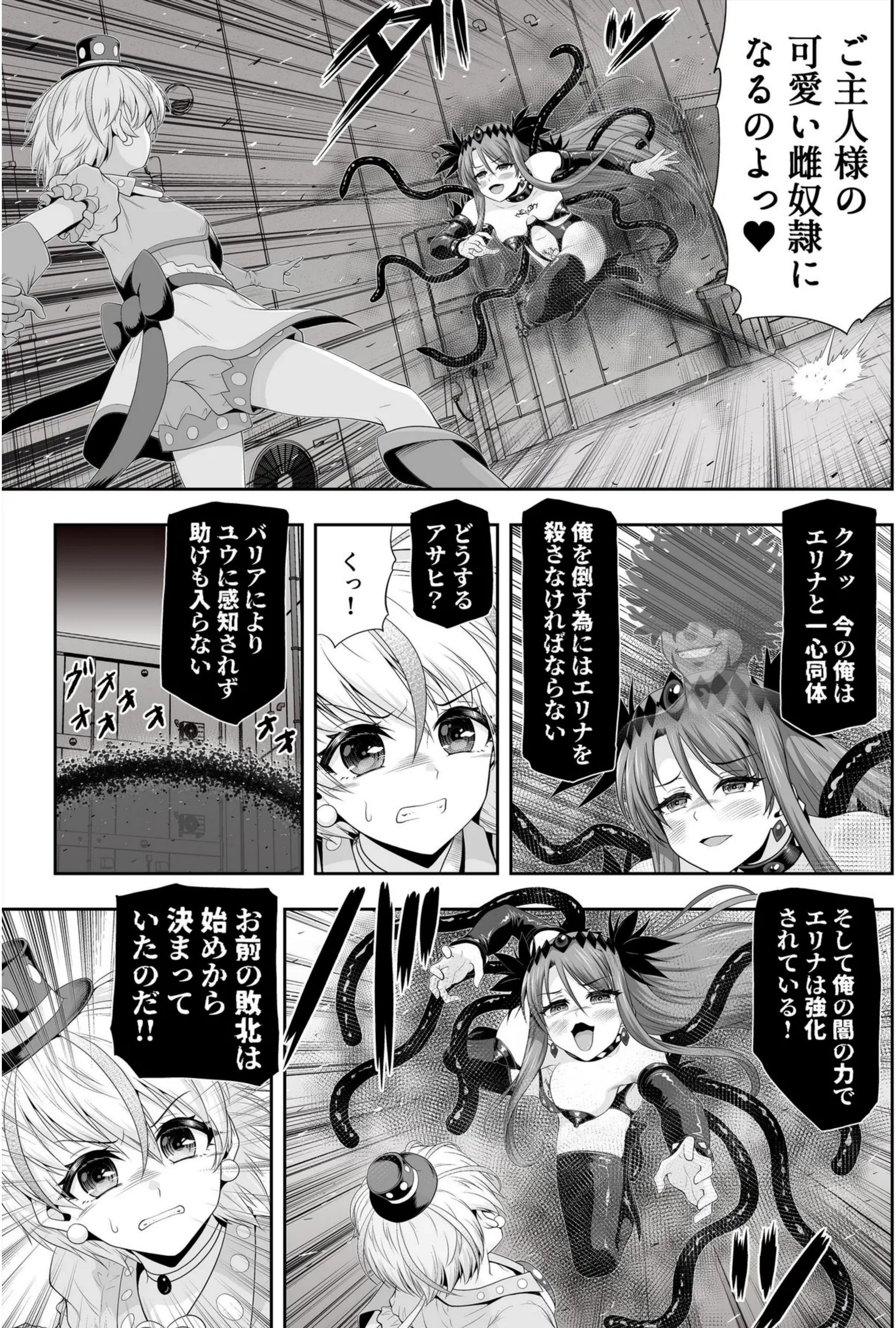

――いつからだろう……
ボクの一人称が『ボク』になったのは……
確か…幼い頃見たアニメキャラの影響で女の子達を守り始めて……
王子様！
……また筋肉ついたな……
……胸は……全く成長してない……
3/7
1/7
♥アイドル ロリィタ ステージ衣装♥
キラキラ かわいい ガーリー イベント
学園祭 華やか lolita
……やっぱり似合う訳ないよ……

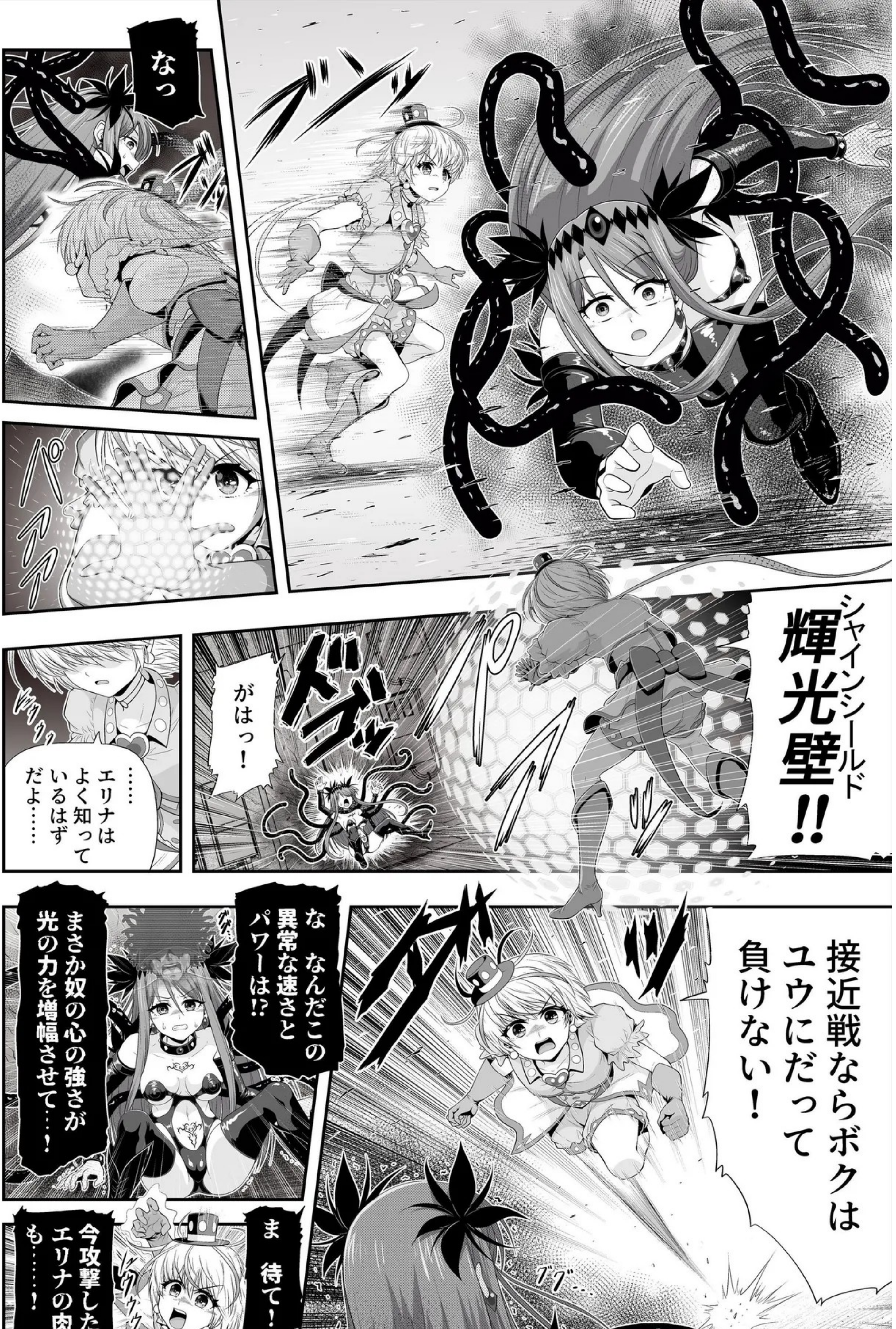

プルルルッ
アサヒ
実は――
え？
ユウは少し
遅れて来る
らしいわ
……
分かった
それで闇の魔物は
どこに現れたの？
私がここに来た時には
気配が消えていたわ
恐らくまた気配を
消すタイプの魔物ね
そうか
被害が
なければ
いいけど…
ええ…
そうね
……
ジュル…
闇の魔物は
ジュルルル
ジュルルル
ジュルルル
ジュルルル
ジュルルル
ジュルルル
恐ろしい
から…♥
ジュルルルルル

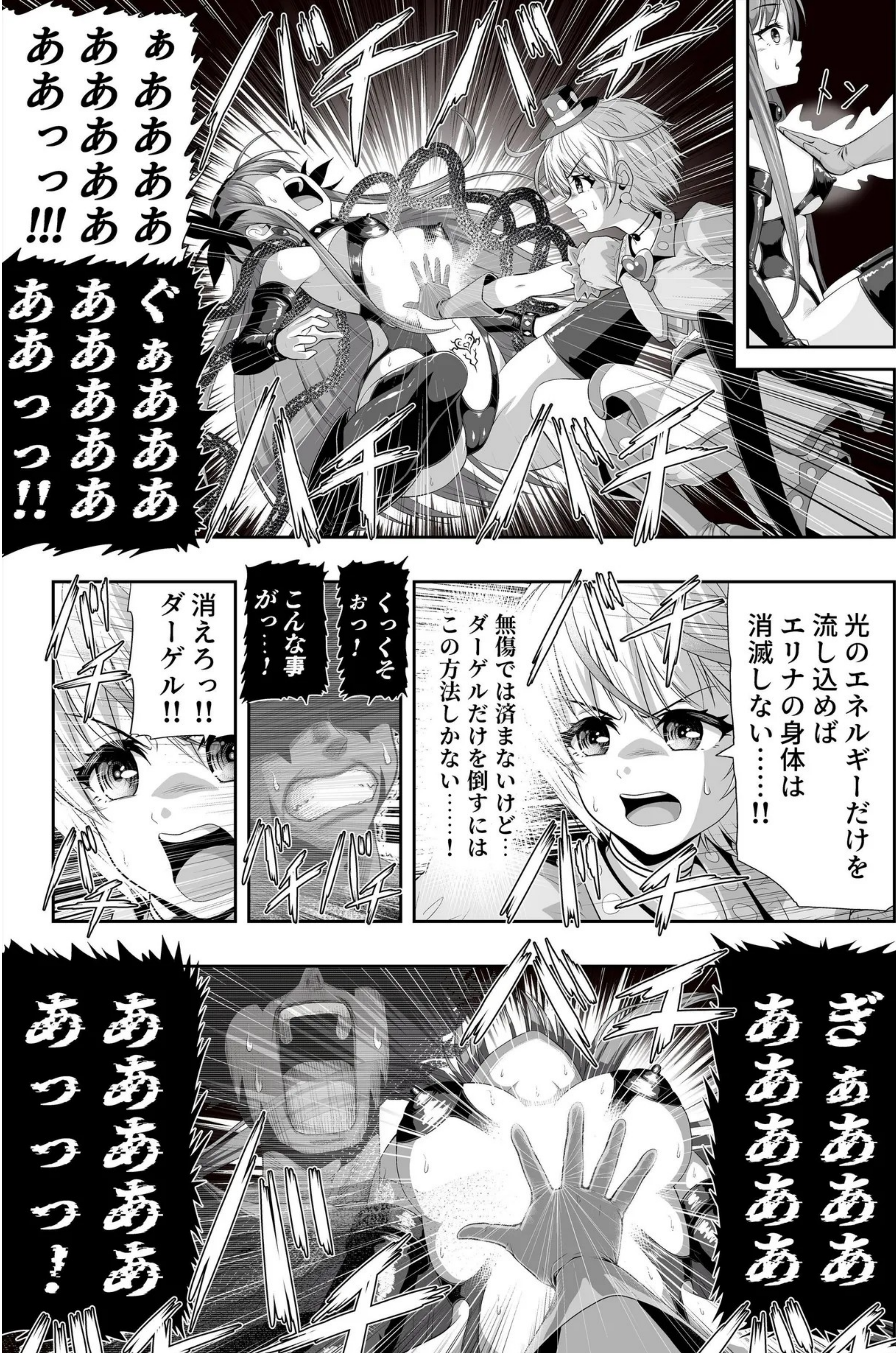

!!
バッ
ズザザザァッ
……よく気づいたわね……
…エリナから連絡が来る前ユウが電話で教えてくれたんだ……
アサヒ実は――
「最近エリナの様子がおかしい」って……
ユウ自身も確証が持てなかったらしいしボクも半信半疑だった
ユウは少し・遅れてくる・らしいわ
だけど……『闇の魔物をいつも一番早く感知し駆けつけるユウ』がここにいないのは絶対おかしいと思った……
でもまさか
君が闇の魔物に取り込まれているなんて……
ジュル
ジュルルル
うふふ……
グジュル…

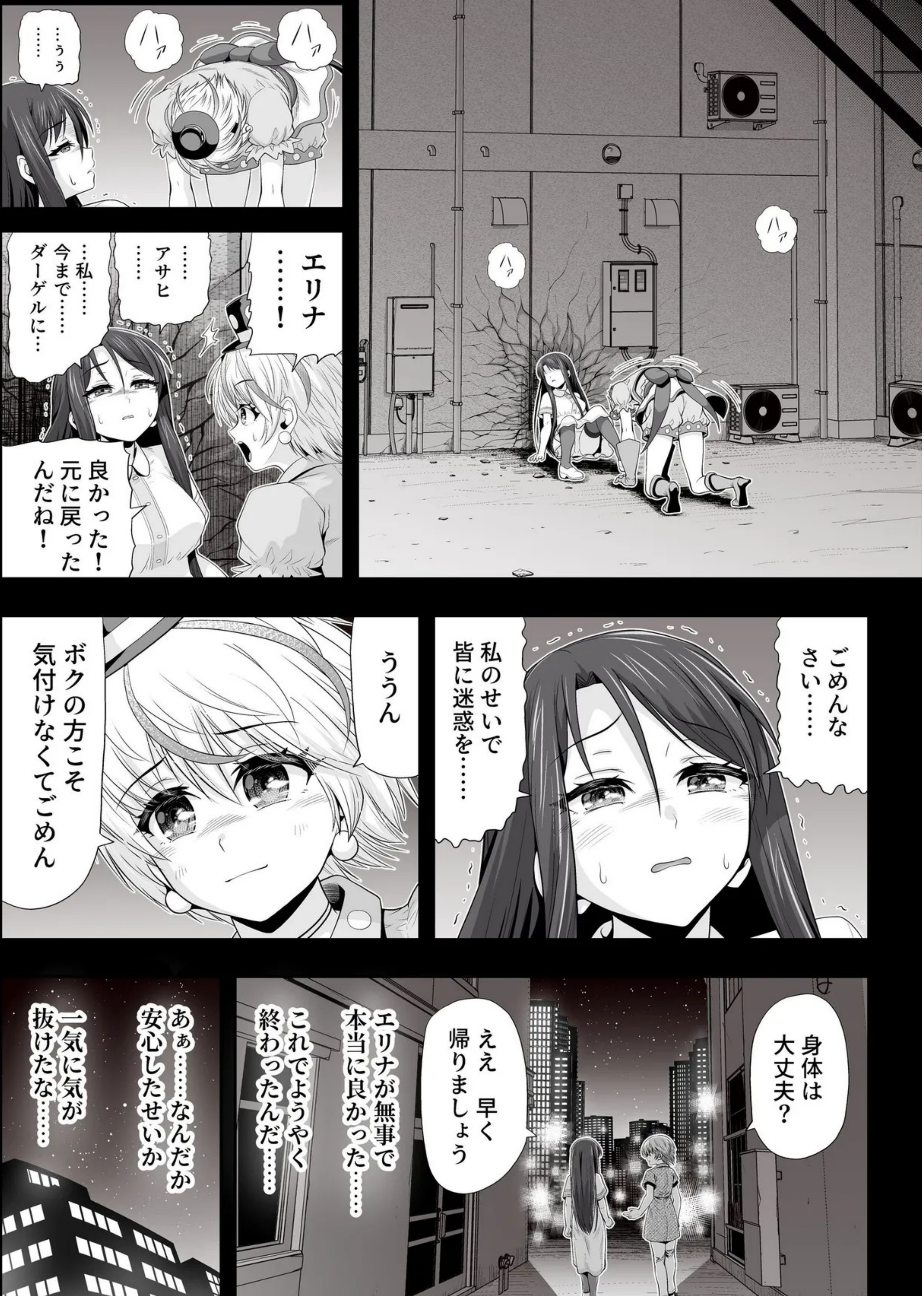

ククッ……さすがだな
ズルルルル
ルルルル
シャインハーツアサヒよ
んおっ♥
んおおっ♥
ダーゲル!!
い生きていたのか!?
エリナに寄生し支配したのだ
エリナお前の本当の姿を見せてやれ
おぉっ♥
おっ♥
ビクビクッ♥
はい♥ご主人様…♥
ズオオオオ
私はご主人様のオチ○ポ様に服従する淫らな雌豚奴隷…♥
オオオ
そ…そんな……
ご主人様に脳を改造していただいて♥雌豚に調教していただけて私は幸せよぉ♥
グチュッ
グチュッ
んおっ♥
おほっ♥
ビクッ♥
ビクビクッ♥
……
ボクは何も知らなかった…
エリナが苦しんでた事も…
ユウが悩んでた事も…
…ごめん…

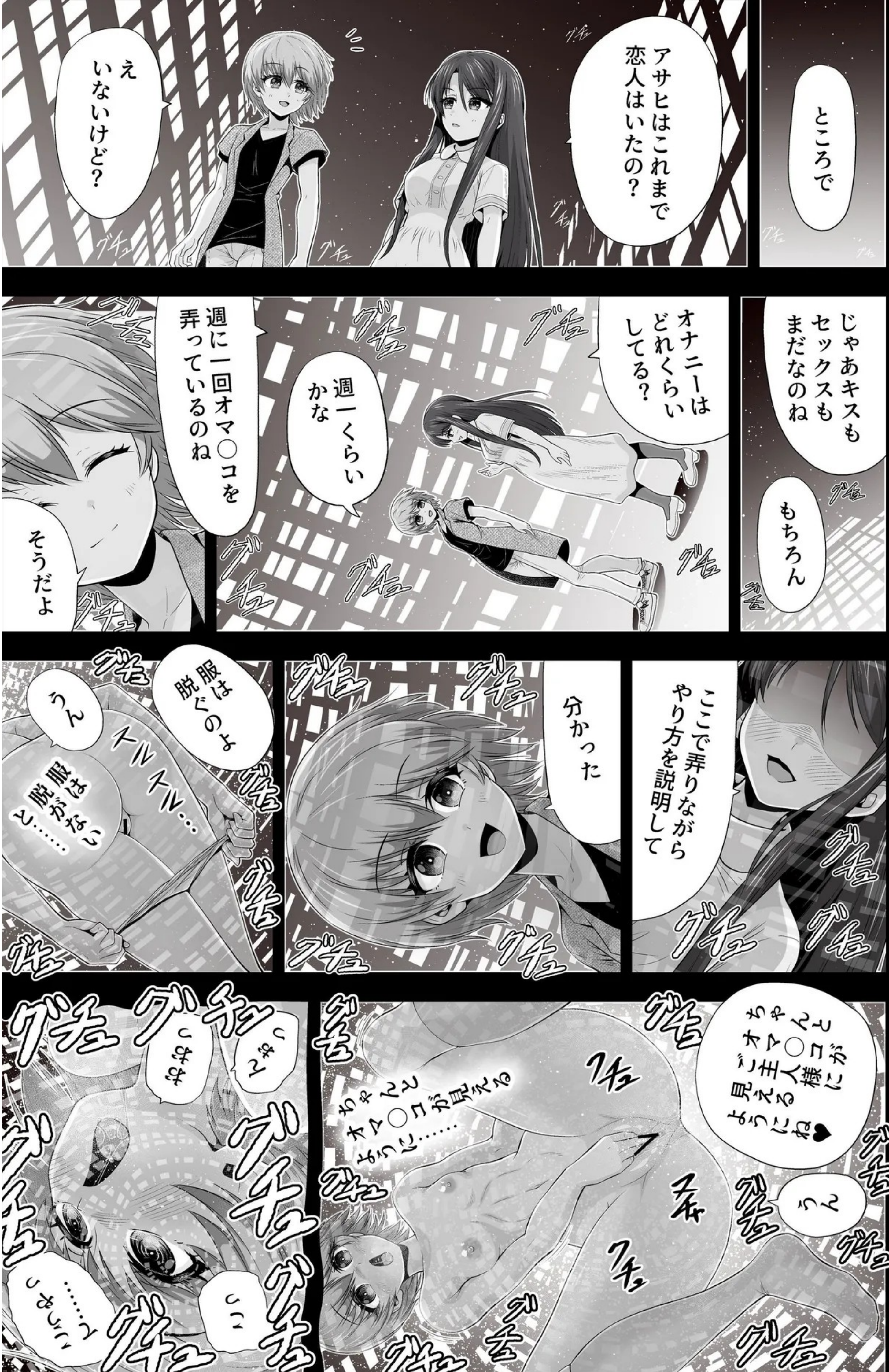

気付けなくて……
本当にごめん……
でも……
シャインチェンジ!!
カッ
パァァァァァァ
ボクが必ず
救い出す!!
……本当にあなたは格好いいわアサヒ…
オオオオオオオ
でもこれからは……

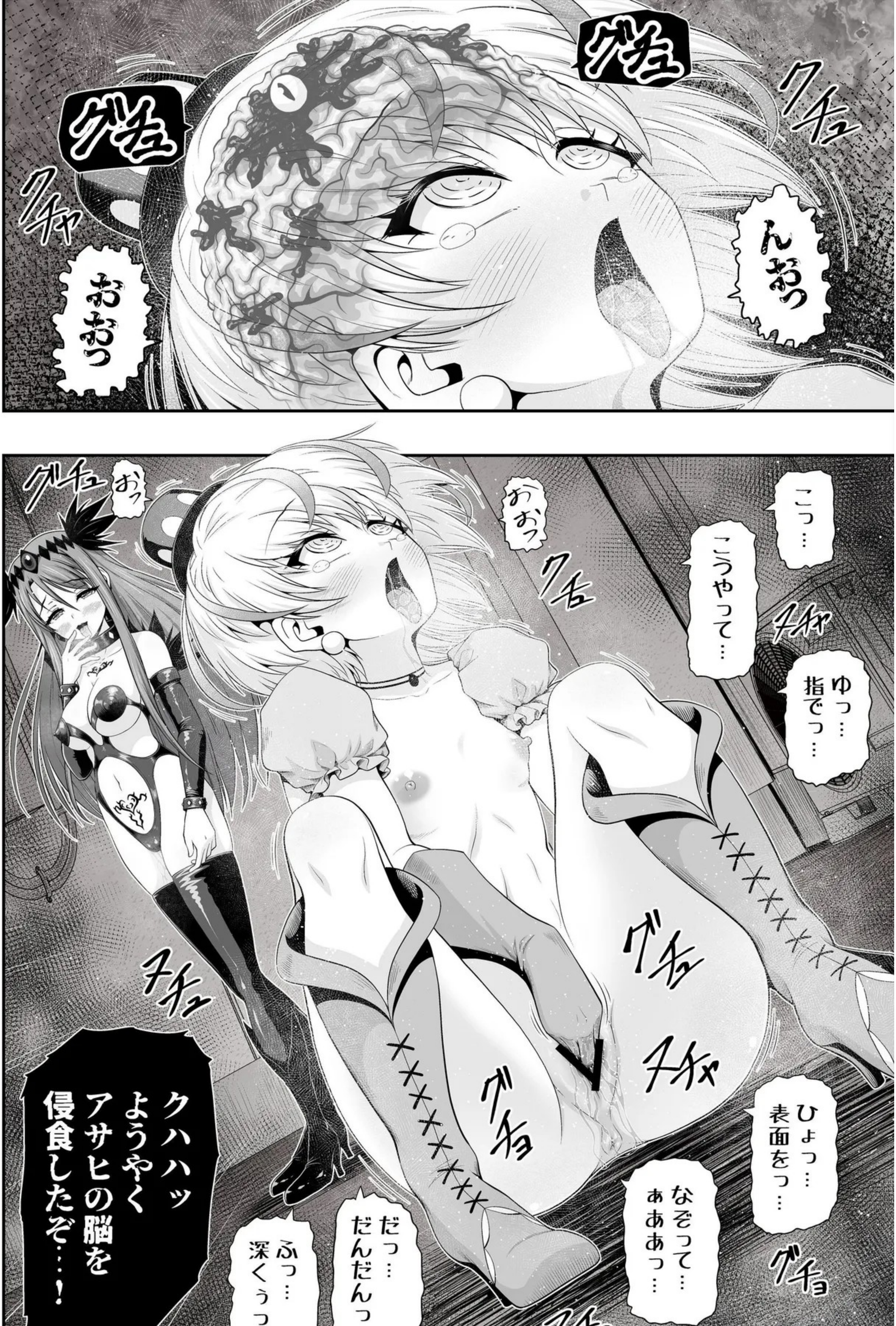

ダッ
ご主人様の可愛い雌奴隷になるのよっ♥
ククッ 今の俺はエリナと一心同体
俺を倒す為にはエリナを殺さなければならない
どうするアサヒ？
くっ！
バリアによりユウに感知されず助けも入らない
ブォォォォォォォ
そして俺の闇の力でエリナは強化されている！
お前の敗北は始めから決まっていたのだ!!

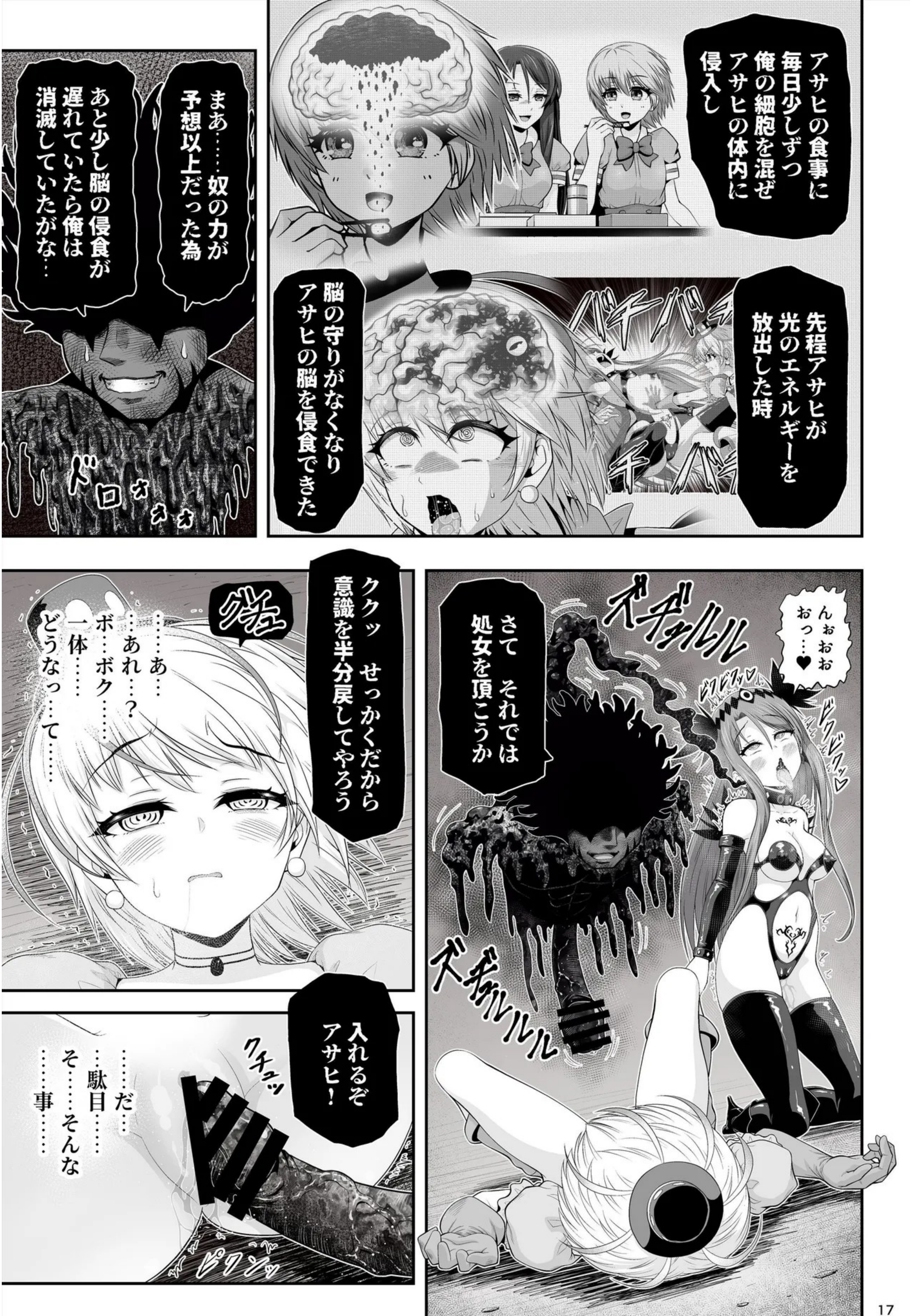

ブンッ
なっ
ズッ
パァァァ
シャインシールド
輝光壁!!
パァァ
ズグッ
がはっ！
……エリナはよく知っているはずだよ……
接近戦ならボクはユウにだって負けない！
ダッ
な なんだこの異常な速さとパワーは!?
まさか奴の心の強さが光の力を増幅させて……！
ま 待て！
今攻撃したらエリナの肉体も……！

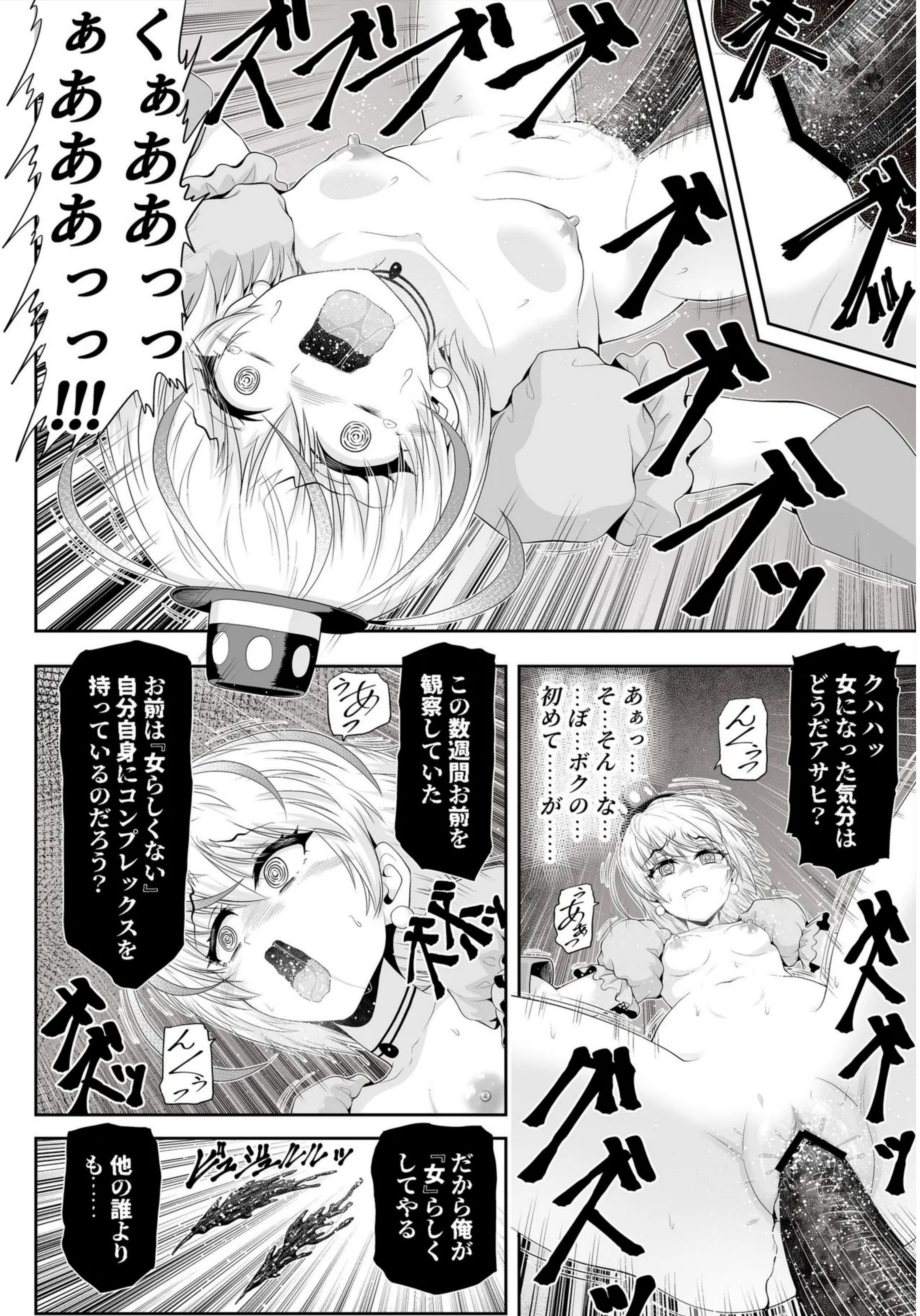

トン
バチバチ
ぁああああ
あああああ
ああっっ!!!
ぐぁあああ
あああああ
ああっっ!!
バチバチ
光のエネルギーだけを
流し込めば
エリナの身体は
消滅しない……!!
無傷では済まないけど…
ダーゲルだけを倒すには
この方法しかない……！
バチ
バチ
くっくそ
ぉっ！
こんな事
がっ……！
バチバチ
消えろっ!!
ダーゲル!!
バチ
ぎぁああああ
あああああ
あああああ
あっっっ！
バチ
バチ
バチ

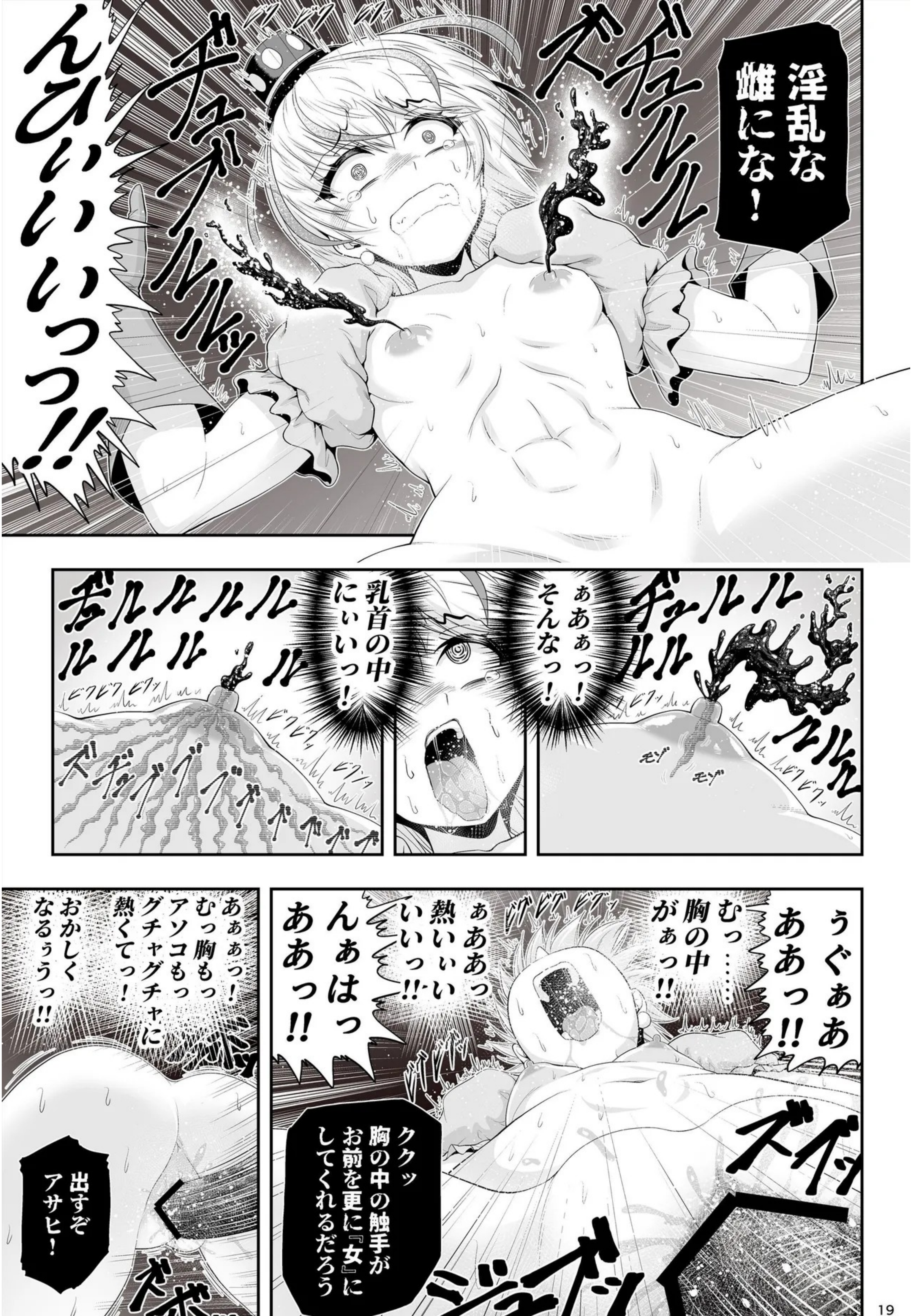

ハァ
ハァ
ハァ
ハァ
…うぅ……
エリナ……！
……アサヒ……
…私……今まで……ダーゲルに…
良かった！元に戻ったんだね！
ごめんなさい……
私のせいで皆に迷惑を……
ううん
ボクの方こそ気付けなくてごめん
身体は大丈夫？
ええ 早く帰りましょう
エリナが無事で本当に良かった……
これでようやく終わったんだ……
あぁ……なんだか安心したせいか
一気に気が抜けたな……


ところで
アサヒはこれまで恋人はいたの？
え
いないけど？
グチュ
じゃあキスもセックスもまだなのね
もちろん
オナニーはどれくらいしてる？
週一くらいかな
週に一回オマ○コを弄っているのね
そうだよ
グチュ
ここで弄りながらやり方を説明して
分かった
服は脱ぐのよ
うん
服は脱がないと……
スルスル…
グチュ
ちゃんとオマ○コがご主人様に見えるようにね♥
うん
ちゃんとオマ○コが見えるように……
ヌチ
クチュ
グチュ
こうやって……
こっ
おおっ
んおっ
グチュ グチュ グチュ

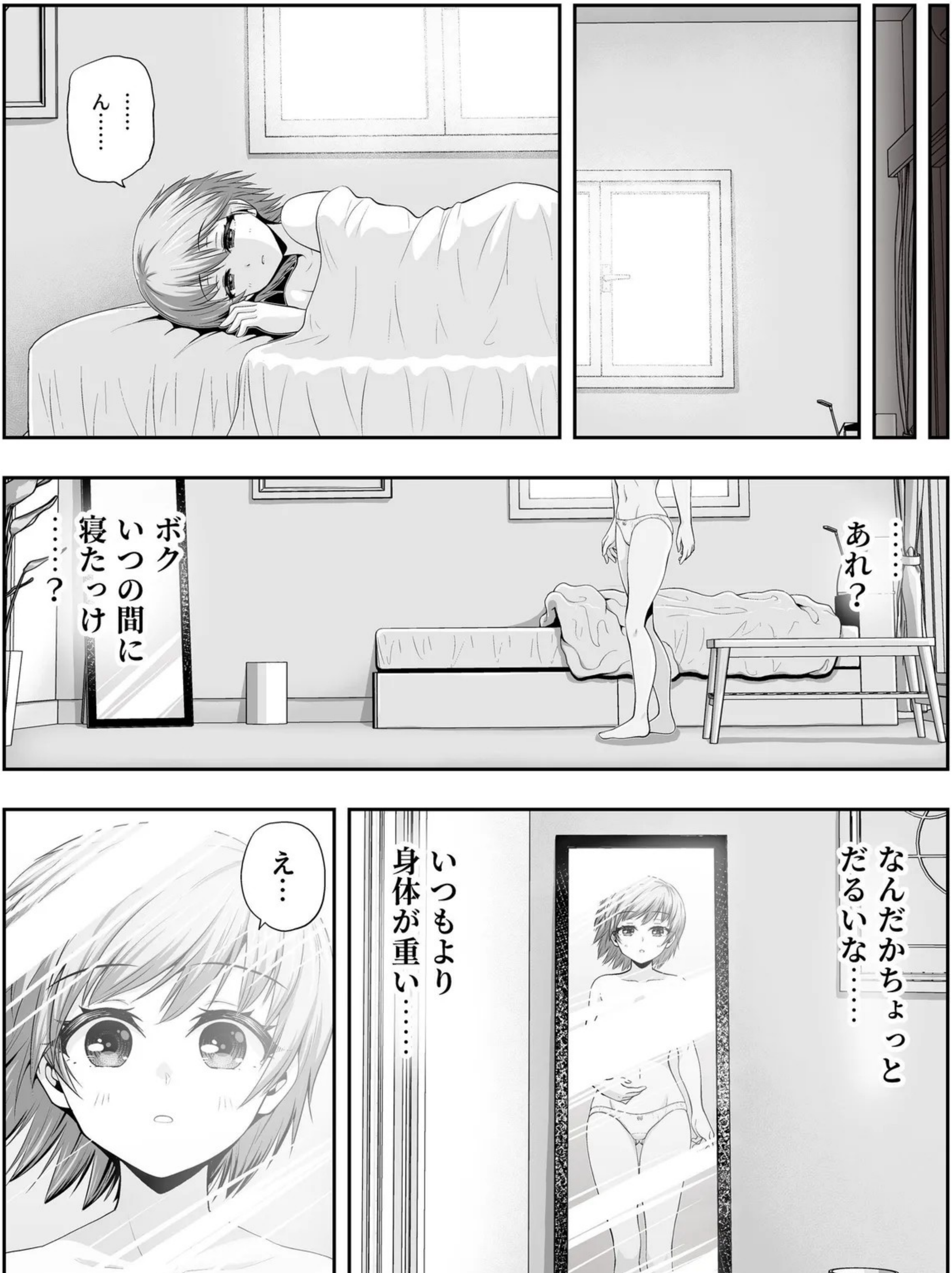

グチュ
クチュ
んおっ
グチュ
クチャ
おおっ
こっ…
こうやって…
ヌチャ
ゆっ…指でっ…
クチュ
おおっ
おっ
グチュ
ひょっ…表面をっ…
なぞって…ぁあぁあっ…
グチョ
ヌチャ
グチュ
だっ…だんだんっ…
ふっ…深くぅっ…
ヌチャ
グチョ
ヌチュ
クハハッ ようやくアサヒの脳を侵食したぞ…!

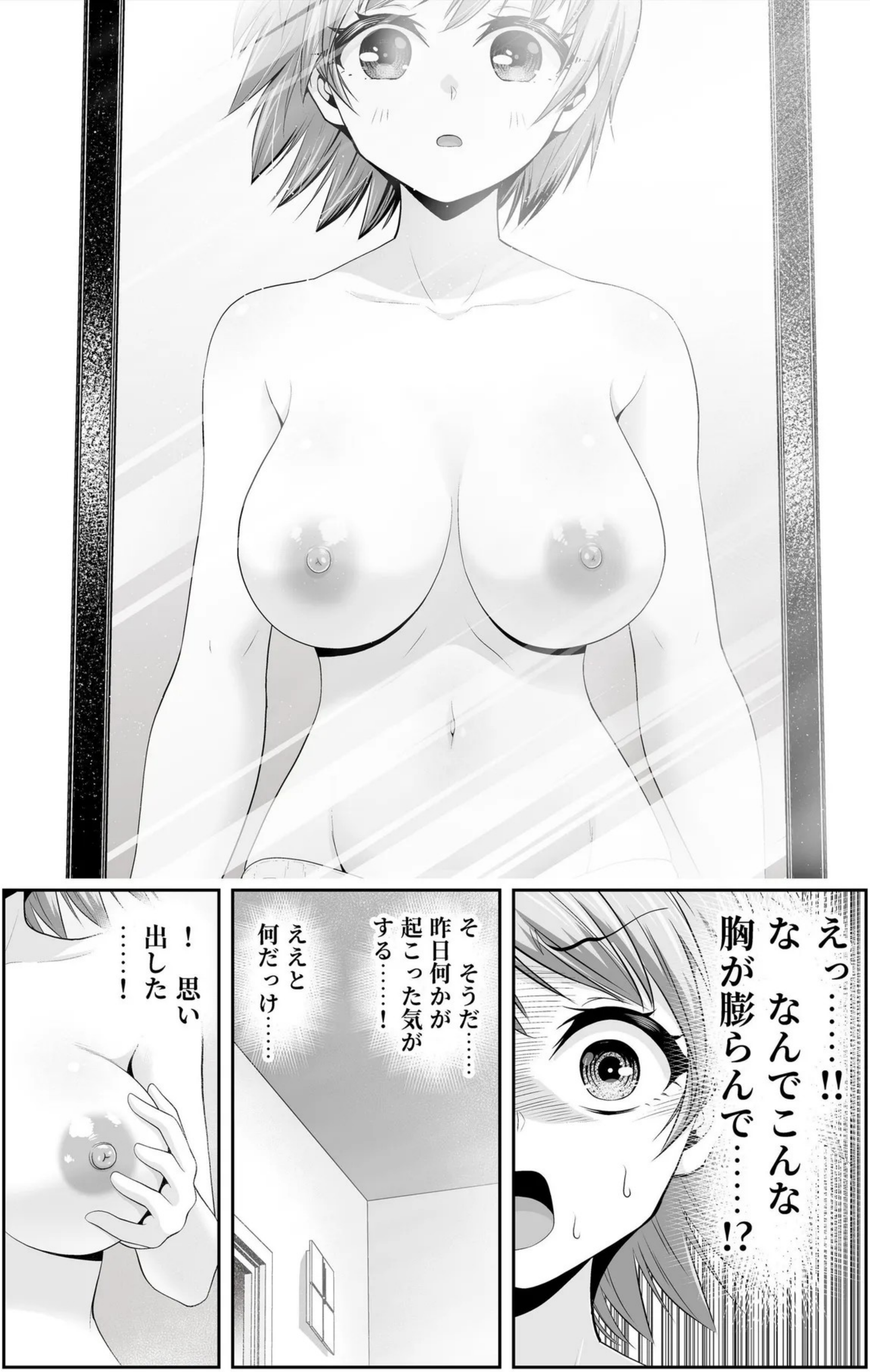

アサヒの食事に 毎日少しずつ 俺の細胞を混ぜ アサヒの体内に 侵入し
先程アサヒが 光のエネルギーを 放出した時
バチバチ
バチバチ
脳の守りがなくなり アサヒの脳を侵食できた
まあ……奴の力が 予想以上だった為
あと少し脳の侵食が 遅れていたら俺は 消滅していたがな…
ドロォォォ
んぉおお おっ……♥
ビクビクッ♥
ビクビクッ♥
ズヂュルル
さて それでは 処女を頂こうか
ズヂュルルル
ククッ せっかくだから 意識を半分戻してやろう
グイッ
……あ… …あれ…？ ボ…ボク…… 一体…… どうなっ…て……
入れるぞ アサヒ！
クチュッ
……だ… …駄目… そ……そんな ……事……
ピクンッ

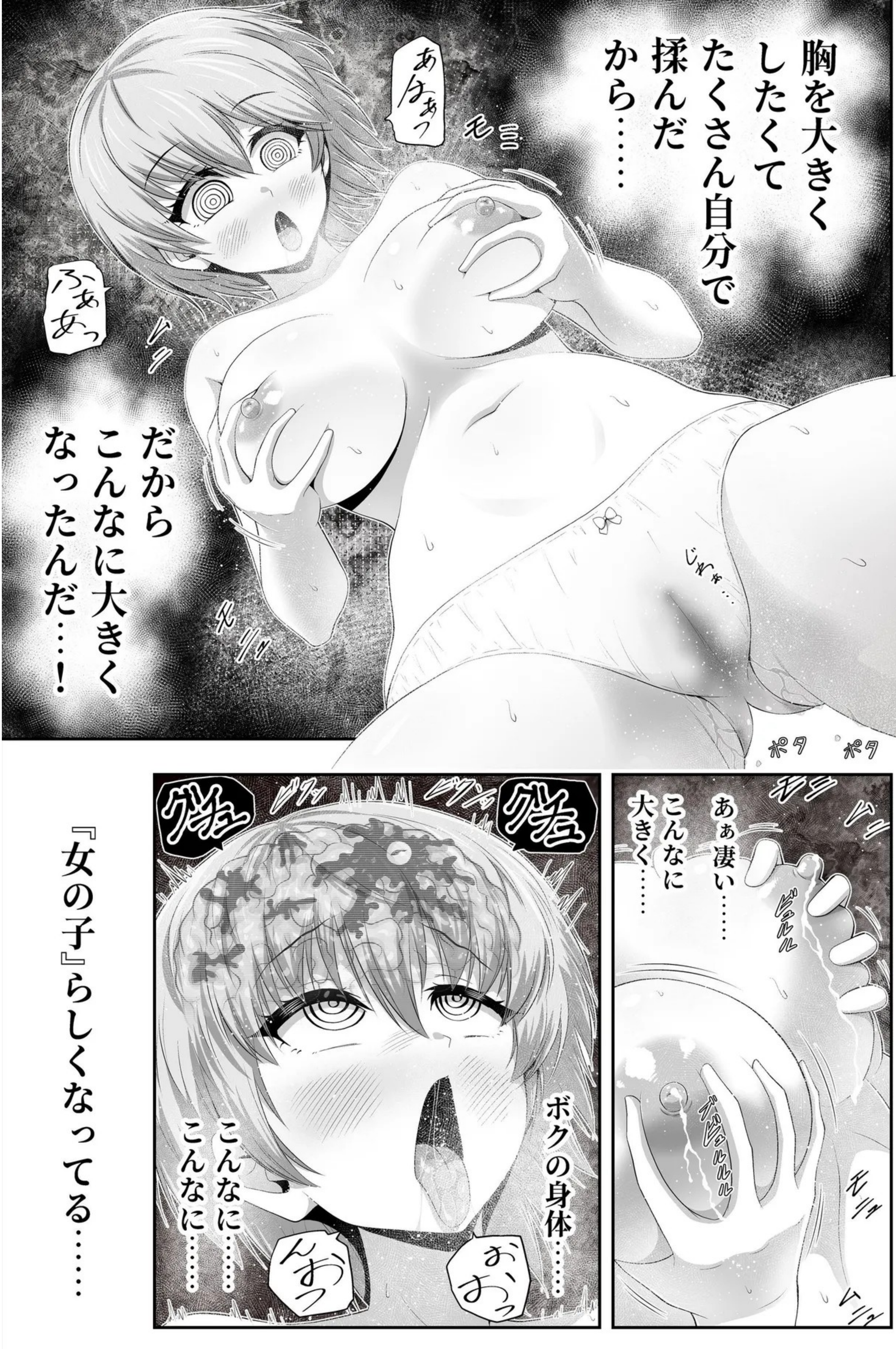

ズブッ
ズブッ
ズブズブッ
くぁあああっっ
ああああっっっ!!!
クハハッ
女になった気分は
どうだアサヒ？
んくぅっ
あぁっ……
そ…そん…な…
…ぼ…ボクの…
初めて……が
……
うあぁっ
ズンッ
ズンッ
グズッ
この数週間お前を
観察していた
うあっ
お前は『女らしくない』
自分自身にコンプレックスを
持っているのだろう？
ズズッ
んくぅっ
だから俺が
『女』らしく
してやる
ビュ ジュルルルッ
他の誰より
も……

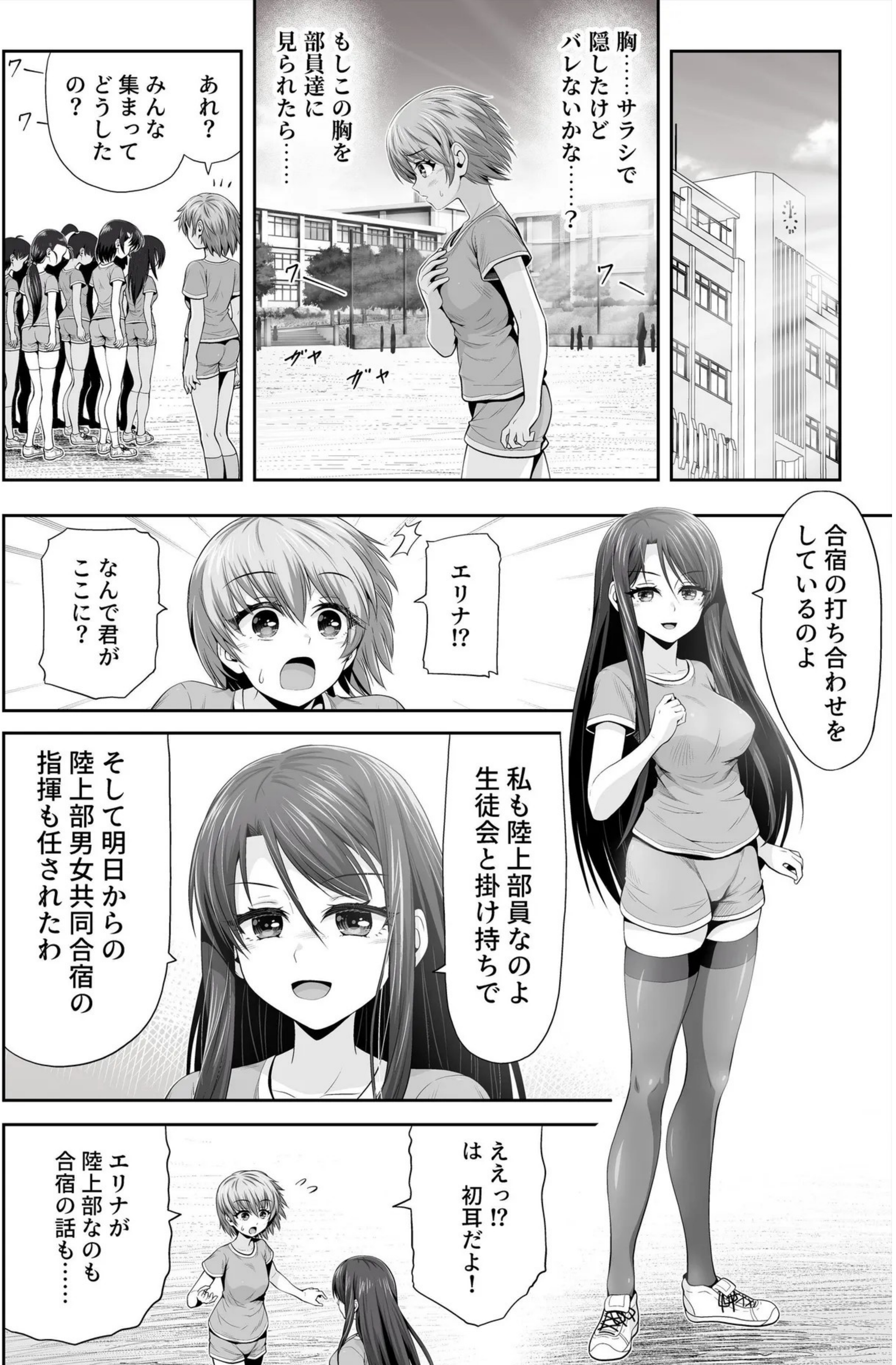

淫乱な雌にな！
ズヂュルルル
ヂュブルルルルッ
んひぃいいいっっ!!
チュルルル
ルルル
ぁあぁっ！
そんなっ！
乳首の中にぃいっ！
ズルルルルル
ルルルルル
ビクビク ビクッ
うぐぁあ
あぁっ!!
むっ……
胸の中
がぁっ!!
ぁあああっ
熱いぃいい
いいっ!!
んぁはっ
ああっ!!
ククッ
胸の中の触手が
お前を更に『女』に
してくれるだろう
ズイッ
ジュブッ
あぁぁっ！
むっ胸もっ
アソコもっ
グチャグチャに
熱くてっ！
おかしく
なるぅうっ!!
出すぞ
アサヒ！
ズボッ
ドッ

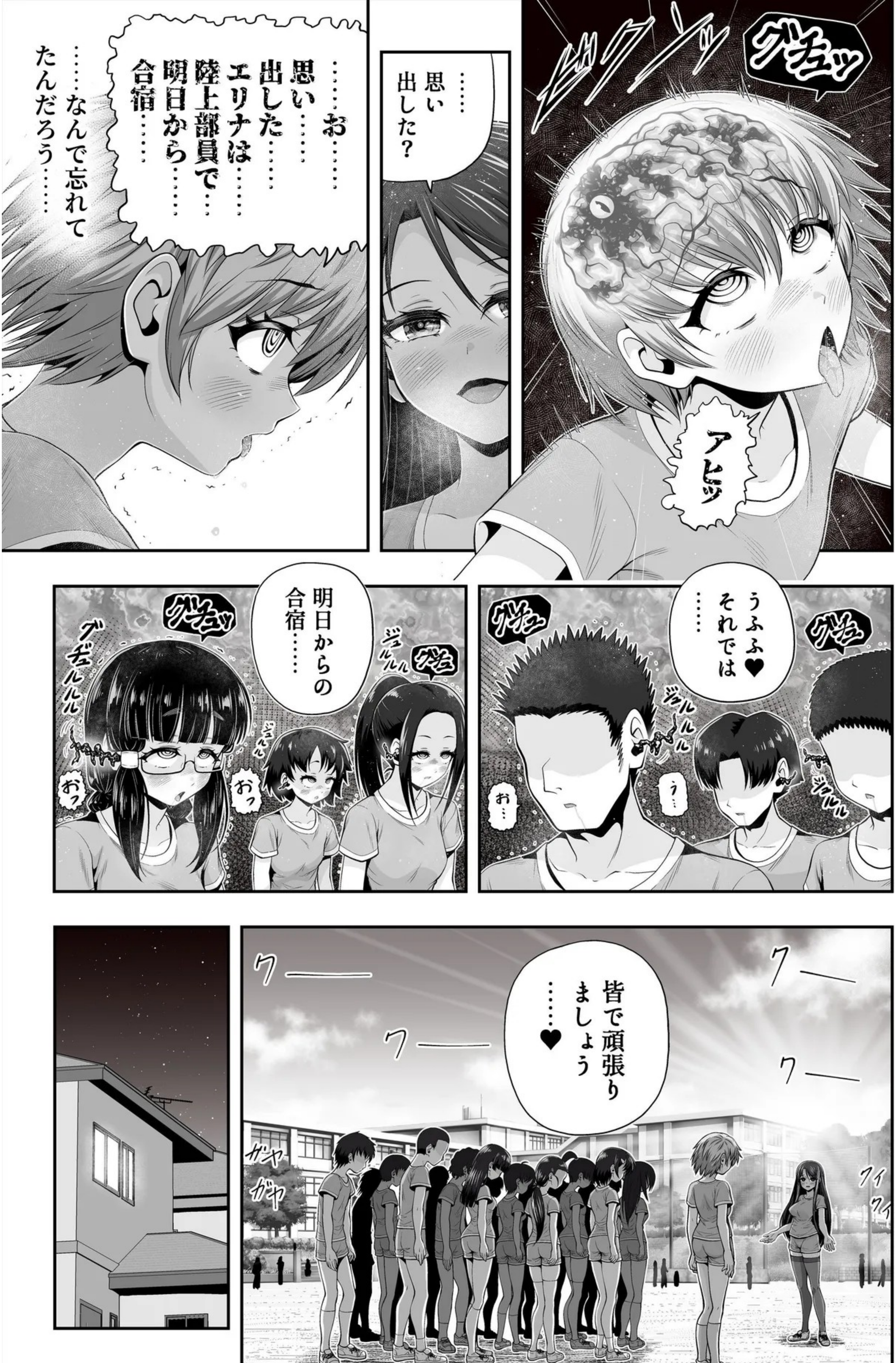
あぁぁあああっ
はぁあああっっ!!!
…う…
ククク
これからお前が
どんな雌に
堕ちていくのか
楽しみだ……
…あ…
明日から
最高の夏休みに
してやるぞ
アサヒ…
おっ
んおっ

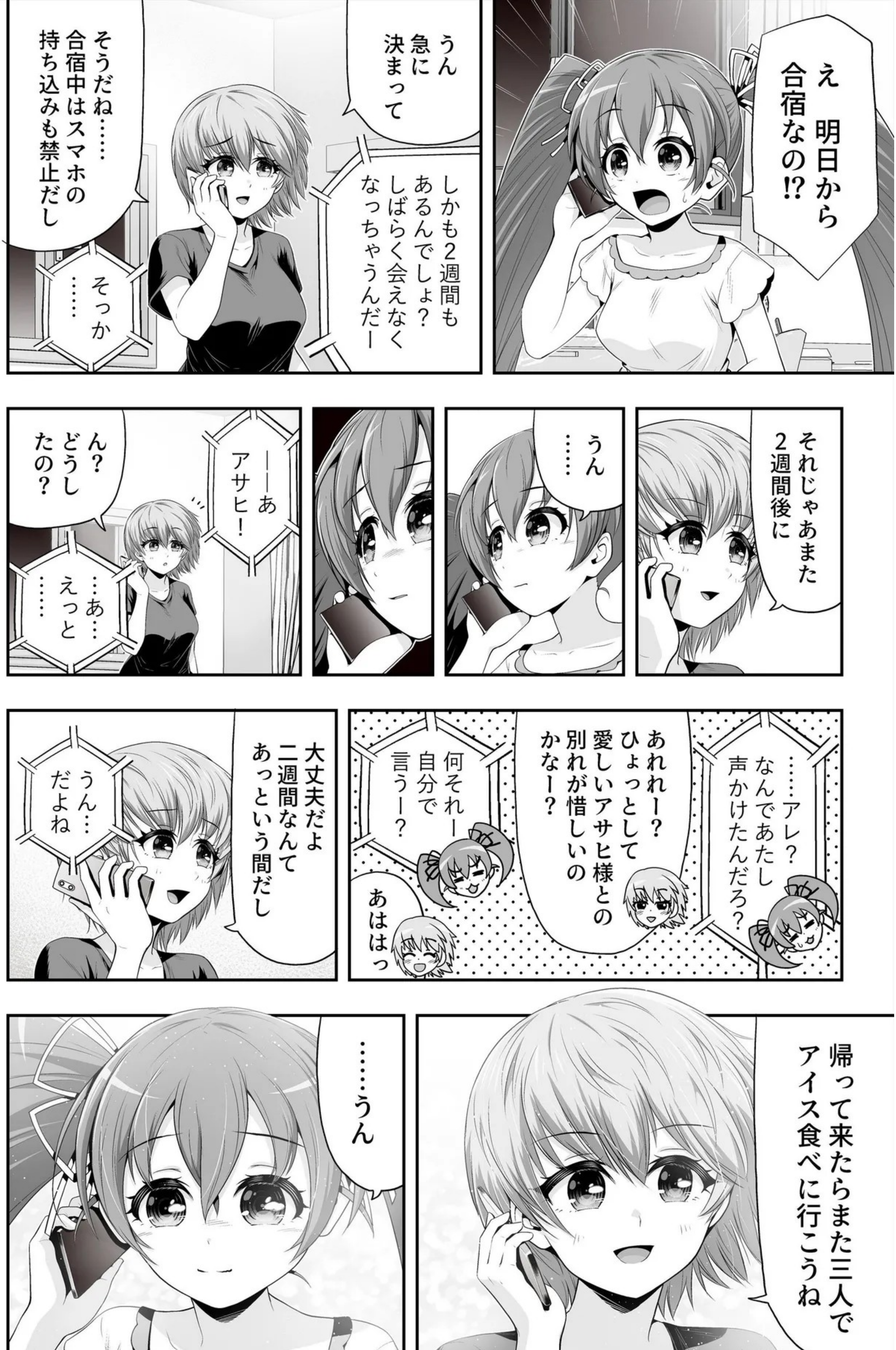

……ん……
……あれ？
ボク いつの間に寝たっけ……？
なんだかちょっと だるいな……
いつもより 身体が重い……
え…

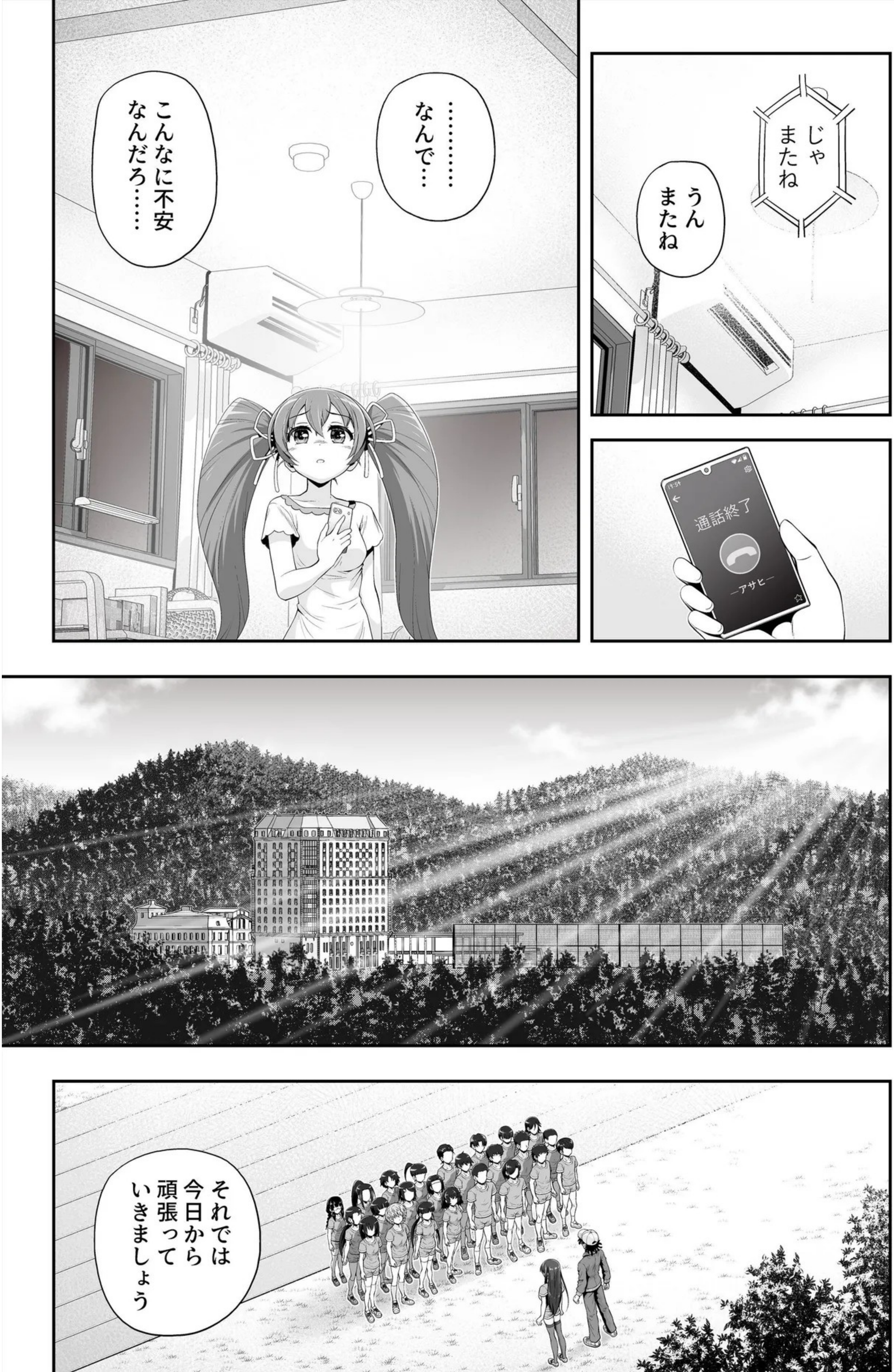

えっ……!!
な　なんでこんな
胸が膨らんで……!?
そ　そうだ……
昨日何かが
起こった気が
する……!
ええと
何だっけ……
！　思い
出した
……！

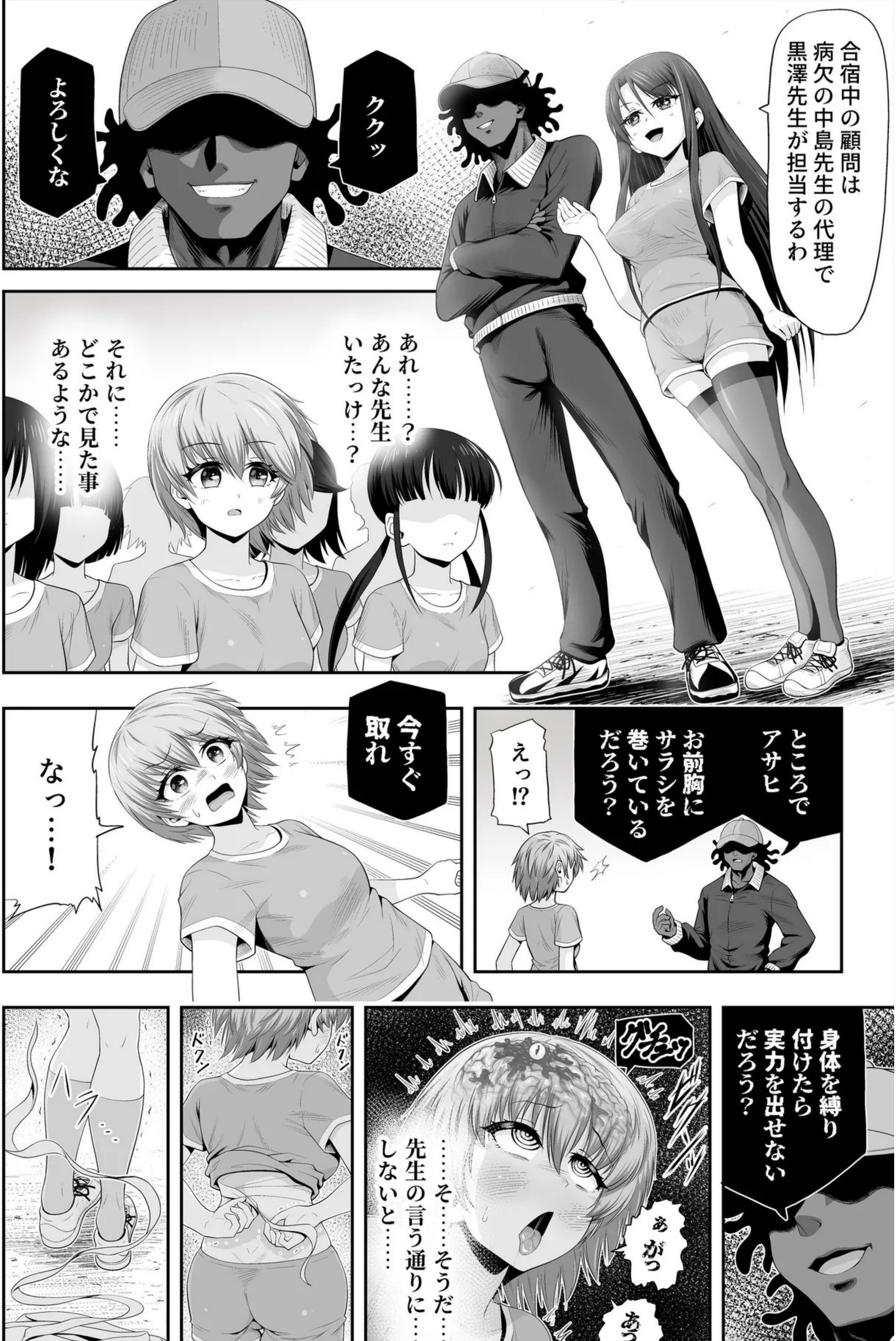

胸を大きくしたくてたくさん自分で揉んだから……
モミ
あぁあっ
ふぁあっ
ムニ
だからこんなに大きくなったんだ……！
じわぁ…
ポタ　ポタ
モミ
ムニ
あぁ凄い……こんなに大きく……
ビュルル
ブビュルルル
モニュ
ムニュ
グチュ
ドクッ
ドクンッ
グチュ
ボクの身体……
こんなに……こんなに……
おっ、おっ
んおっ
『女の子』らしくなってる……

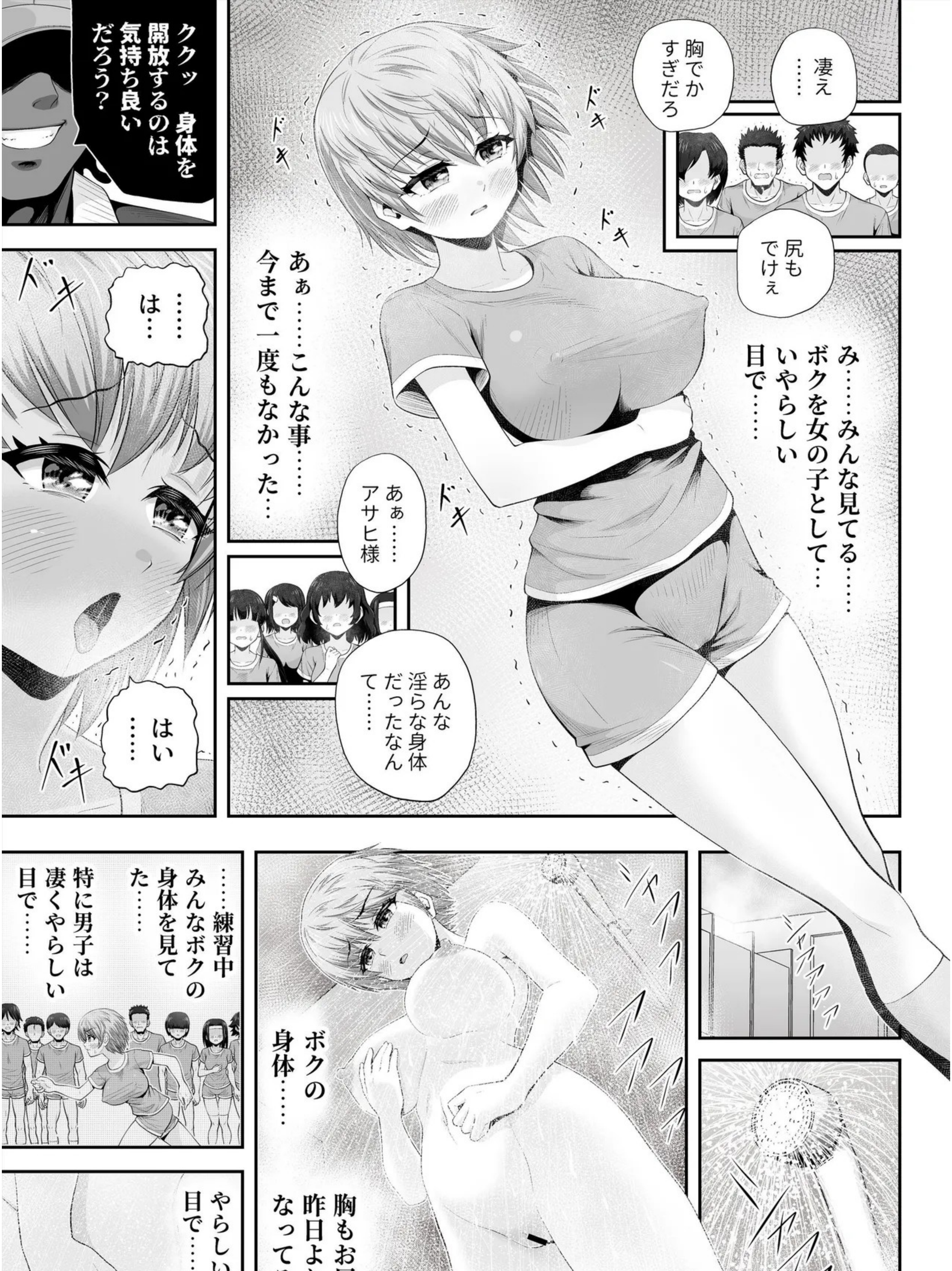

胸……サラシで
隠したけど
バレないかな……？
もしこの胸を
部員達に
見られたら……
ワー
ワー
ガヤ
ガヤ
あれ？
みんな
集まって
どうした
の？
ワー
ワー
合宿の打ち合わせを
しているのよ
エリナ!?
なんで君が
ここに？
私も陸上部員なのよ
生徒会と掛け持ちで
そして明日からの
陸上部男女共同合宿の
指揮も任されたわ
ええっ!?
は　初耳だよ！
エリナが
陸上部なのも
合宿の話も……

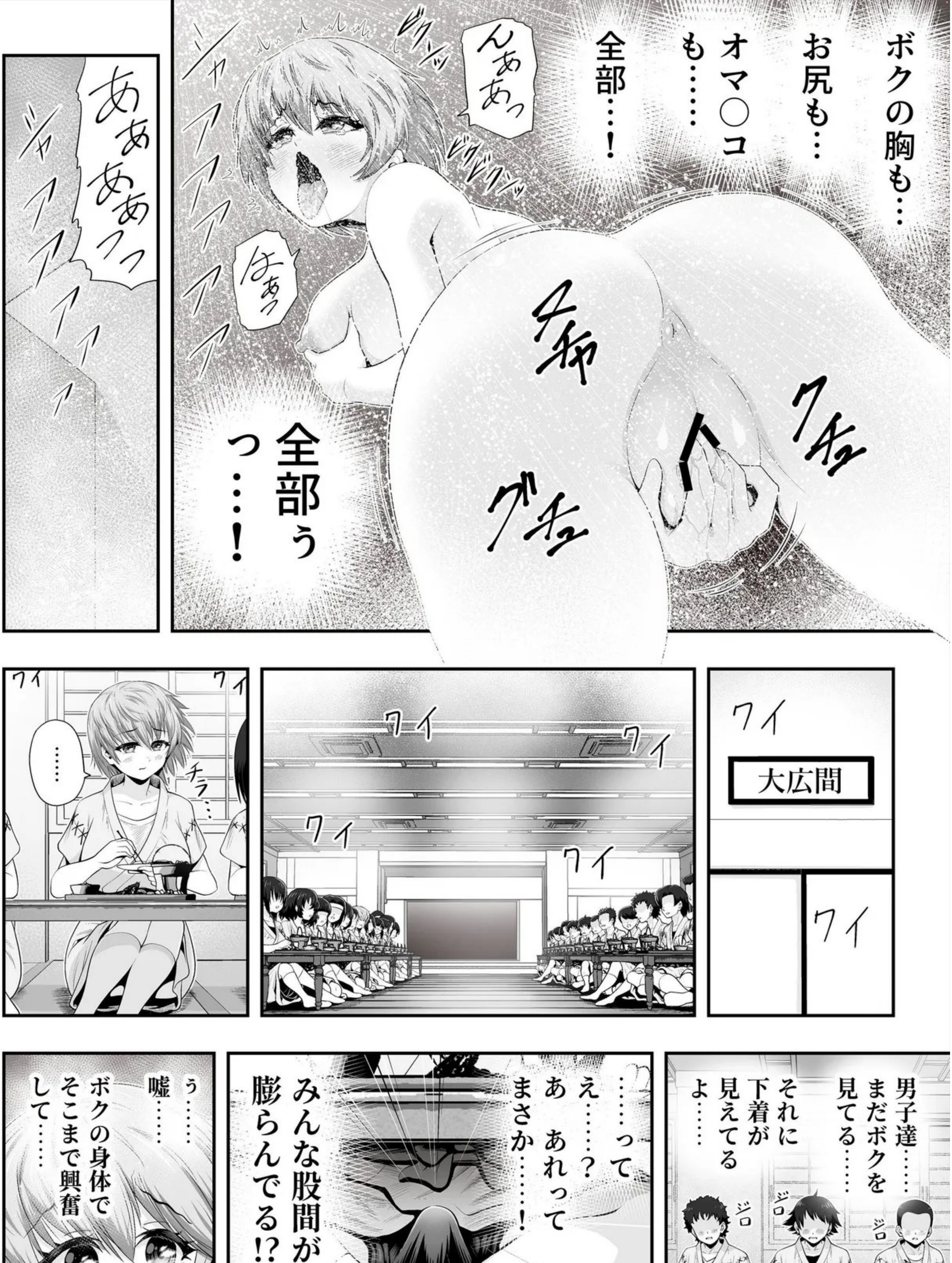

グチュッ
ビクンッ
アヒッ
……思い出した？
……お……思い……出した……エリナは……陸上部員で……明日から……合宿……
……なんで忘れてたんだろう……
うふふ♥それでは……
グチュ
グチュ
ジュルル
ジュルル
お…
う…
明日からの合宿……
グチュッ
グヂュルルル
グチュ
ジュルル
ジュル
おっ
おっ
クー
クー
クー
クー
皆で頑張りましょう……♥
ガヤガヤ
ワイワイ

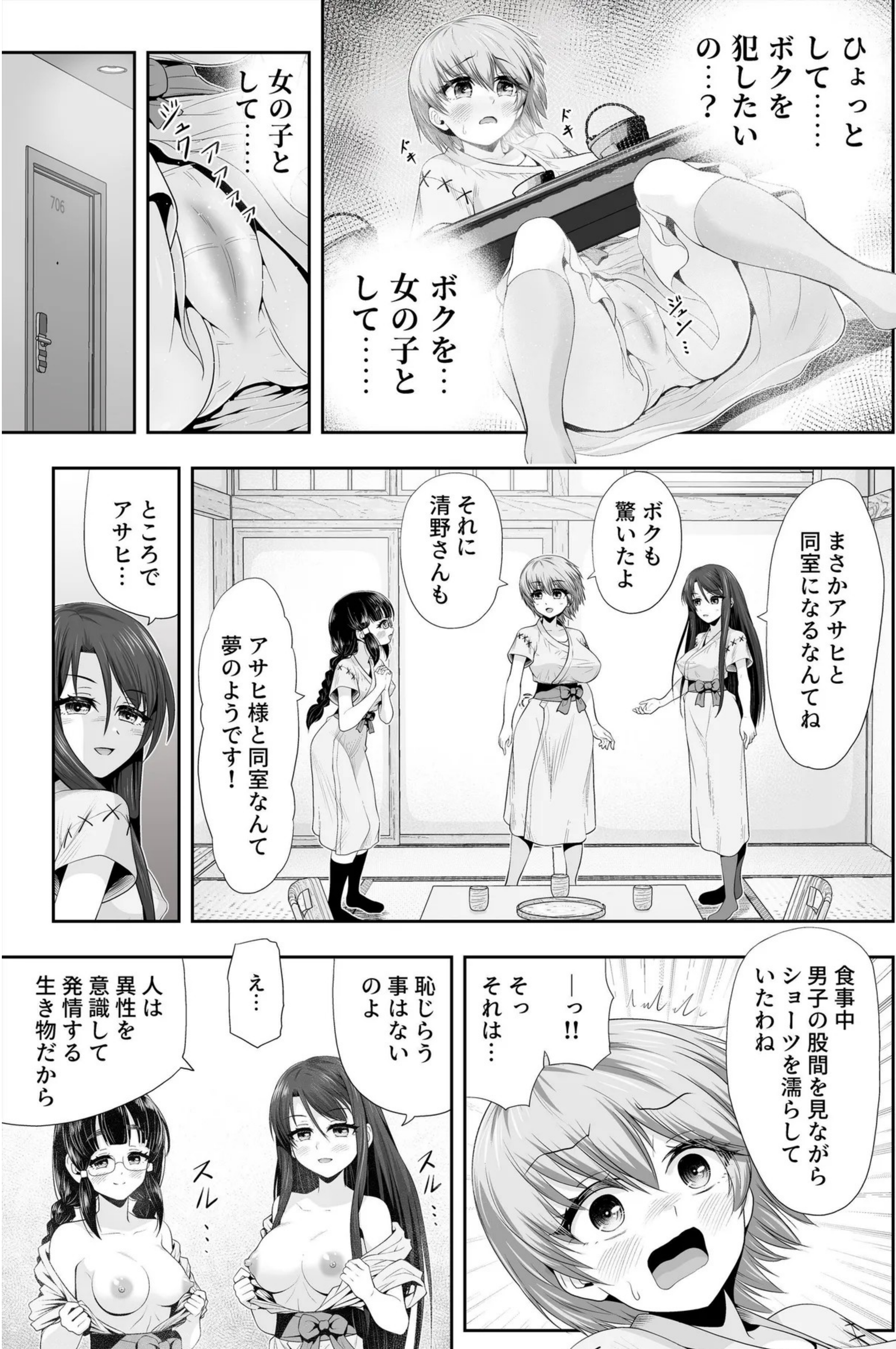

え　明日から合宿なの!?
うん　急に決まって
しかも2週間もあるんでしょ？しばらく会えなくなっちゃうんだー
そうだね……合宿中はスマホの持ち込みも禁止だし
そっか……
それじゃあまた2週間後に
うん……
——あ　アサヒ！
ん？どうしたの？
…あ…えっと……
……アレ？なんであたし声かけたんだろ？
あれれー？ひょっとして愛しいアサヒ様との別れが惜しいのかなー？
何それー　自分で言うー？
あははっ
大丈夫だよ　二週間なんてあっという間だし
うん…だよね
帰って来たらまた三人でアイス食べに行こうね
……うん

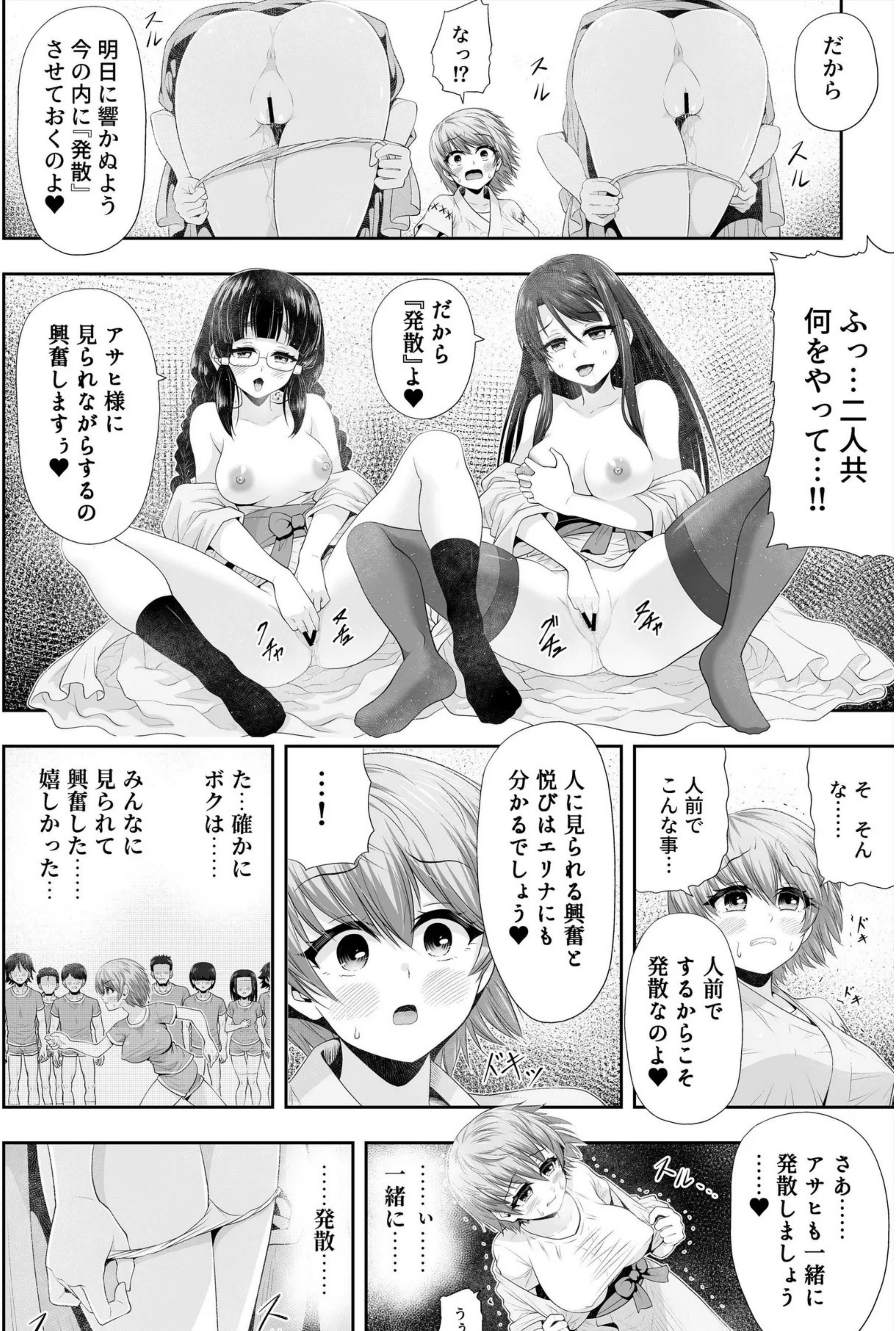

じゃ
またね
うん
またね
19:54
通話終了
―アサヒ―
………………
なんで……
こんなに不安
なんだろ……
それでは
今日から
頑張って
いきましょう

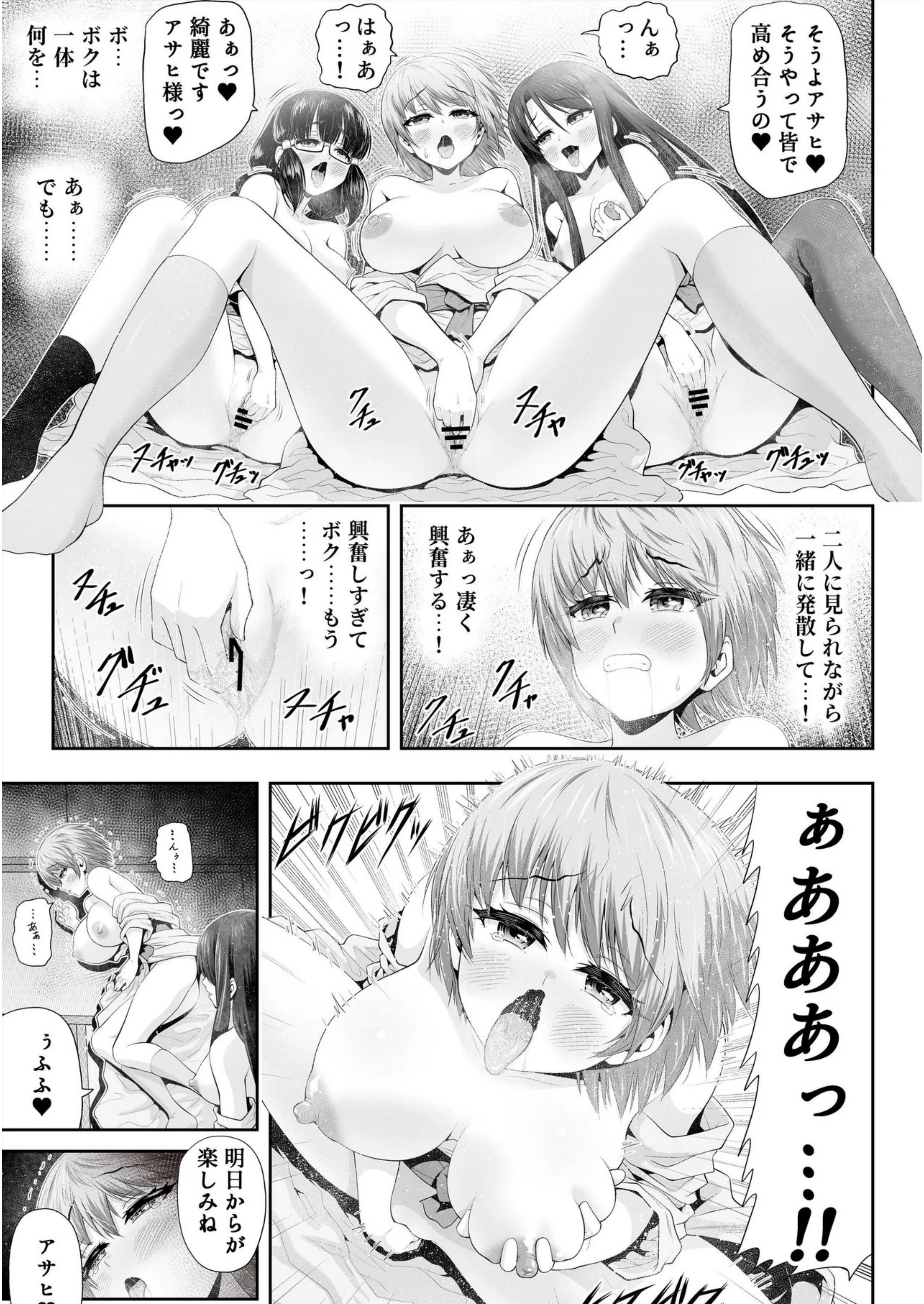

合宿中の顧問は病欠の中島先生の代理で黒澤先生が担当するわ
ククッ
よろしくな
あれ……？あんな先生いたっけ…？
それに……どこかで見た事あるような……
ところでアサヒお前胸にサラシを巻いているだろう？
えっ!?
今すぐ取れ
なっ……!
身体を縛り付けたら実力を出せないだろう？
グチュッ
あがっ
あっ
……そ……そうだ先生の言う通りにしないと……
ドクン
ドクン
ハラ…

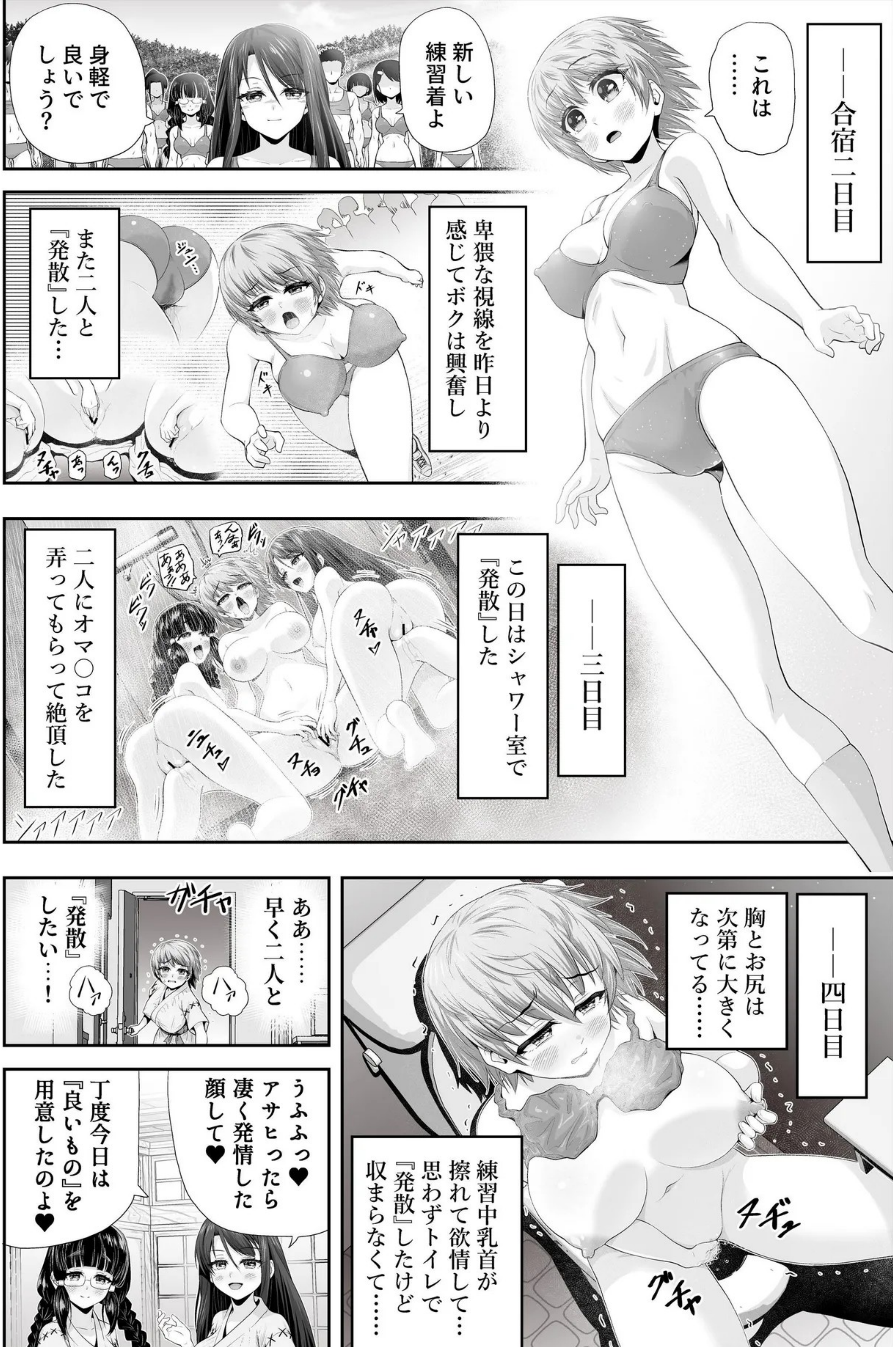

凄え……
胸でかすぎだろ
尻もでけぇ
ドキ
ドキ
ドキ
み……みんな見てる……ボクを女の子として……いやらしい目で……
あぁ……こんな事……今まで一度もなかった…
ドキ
あぁ……アサヒ様
あんな淫らな身体だったなんて……
ククッ 身体を開放するのは気持ち良いだろう?
ドキ
……は……
はい……
ドキ
シャアアア
シャアアア
ボクの身体……
胸もお尻も昨日より大きくなってる……
……練習中みんなボクの身体を見てた……特に男子は凄くやらしい目で……
やらしい…目で……
クチュ…

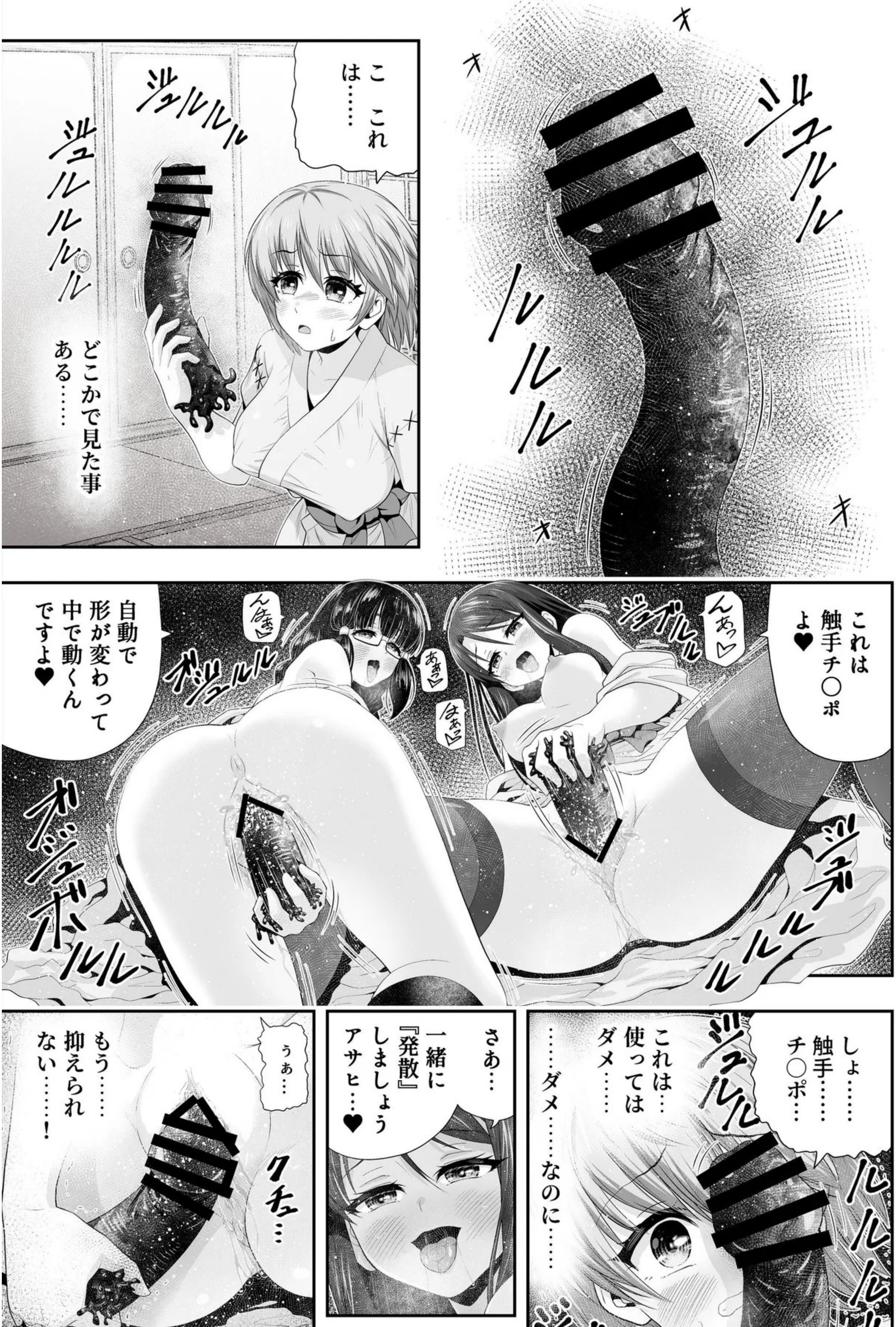

ボクの胸も……
お尻も……
オマ○コも……
全部……！
んああっ
ビクッ
ビクビクッ
ジャアアアアアア
ほぁっ
ヌチャ
クチュ
グチュ
全部ぅっ……！
ああああっっ
ジャアアアアア
ワイ
大広間
ワイ
ワイ
ワイ
ワイ
ワイ
ワイ
ワイ
……
チラ……
男子達……まだボクを見てる……
それに下着が見えてるよ……
ジロ
ジロ
ジロ
……って
え……？
あ あれって
まさか……！
みんな股間が膨らんでる!?
う……
嘘……
ボクの身体でそこまで興奮して……
ドキ
ドキ

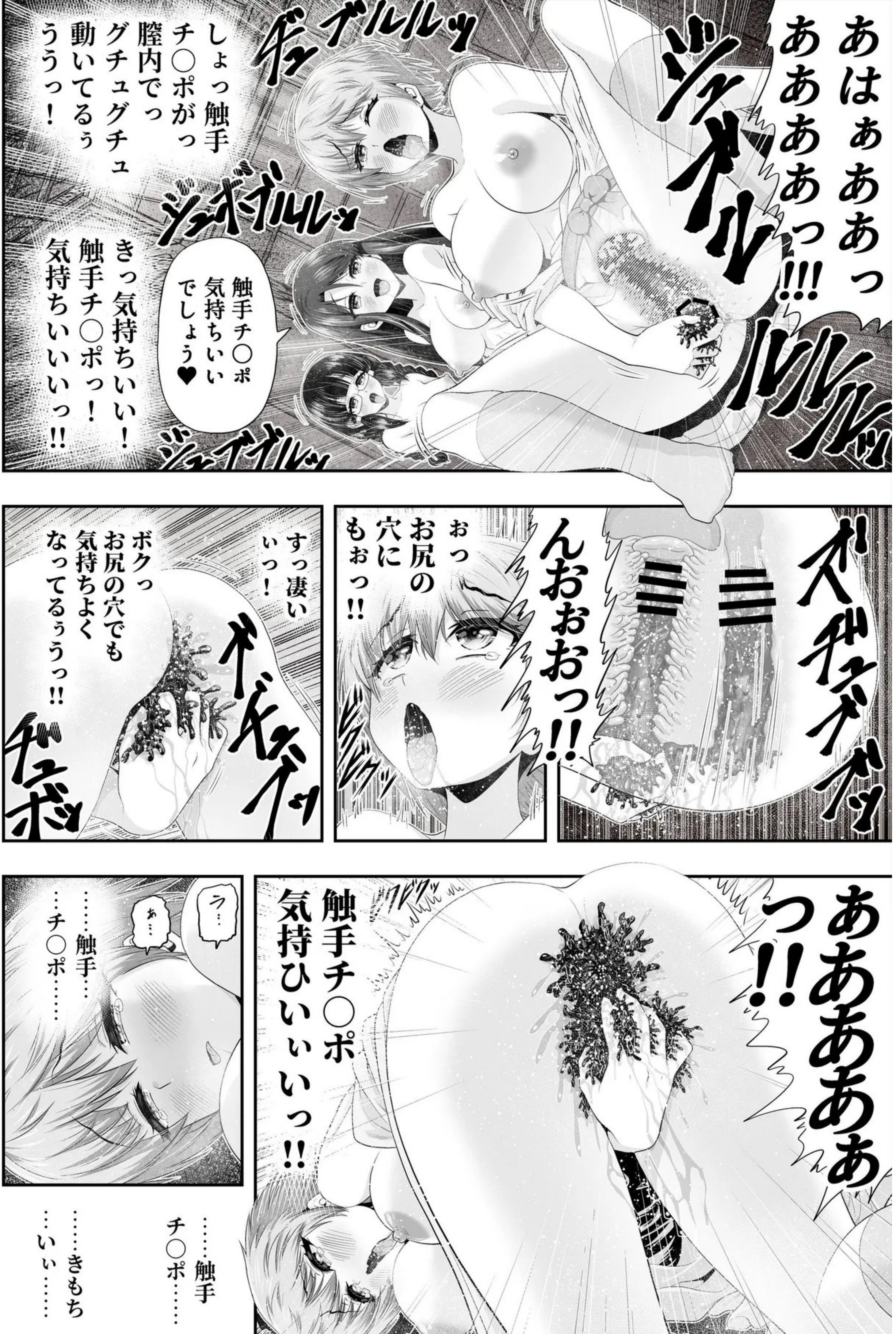

ひょっとして……ボクを犯したいの…？
ドキ
ドキ
ジュン…
ボクを…女の子として……
女の子として……
ジュワアアアア
706
まさかアサヒと同室になるなんてね
ボクも驚いたよ
それに清野さんも
アサヒ様と同室なんて夢のようです！
ところでアサヒ…
食事中男子の股間を見ながらショーツを濡らしていたわね
―っ!!
そっそれは…
恥じらう事はないのよ
え…
人は異性を意識して発情する生き物だから
スル…
スル…

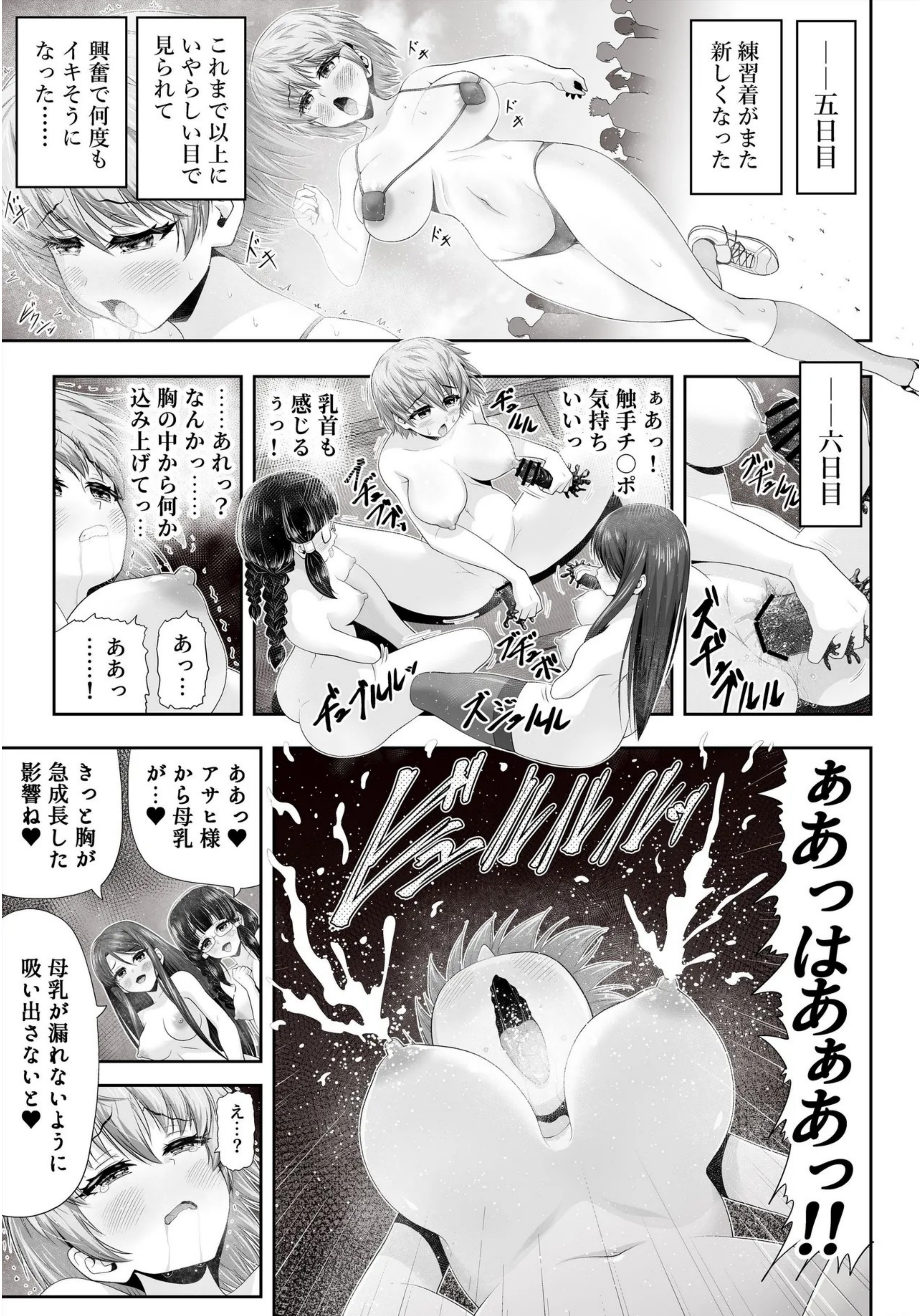

だから
スル
スル
なっ⁉
スル
スル
明日に響かぬよう今の内に『発散』させておくのよ♥
ふっ…二人共何をやって…!!
だから『発散』よ♥
アサヒ様に見られながらするの興奮しますぅ♥
ヌチャ
グチュ
ヌチ
クチュ
そ そんな……
人前でこんな事…
ドキ
ドキ
人前でするからこそ発散なのよ♥
人に見られる興奮と悦びはエリナにも分かるでしょう♥
……!
ドキッ
た…確かにボクは……
みんなに見られて興奮した……
嬉しかった…
さあ……アサヒも一緒に発散しましょう……♥
スル…
うぅ…
……い…一緒に……
……発散……
スル
スル

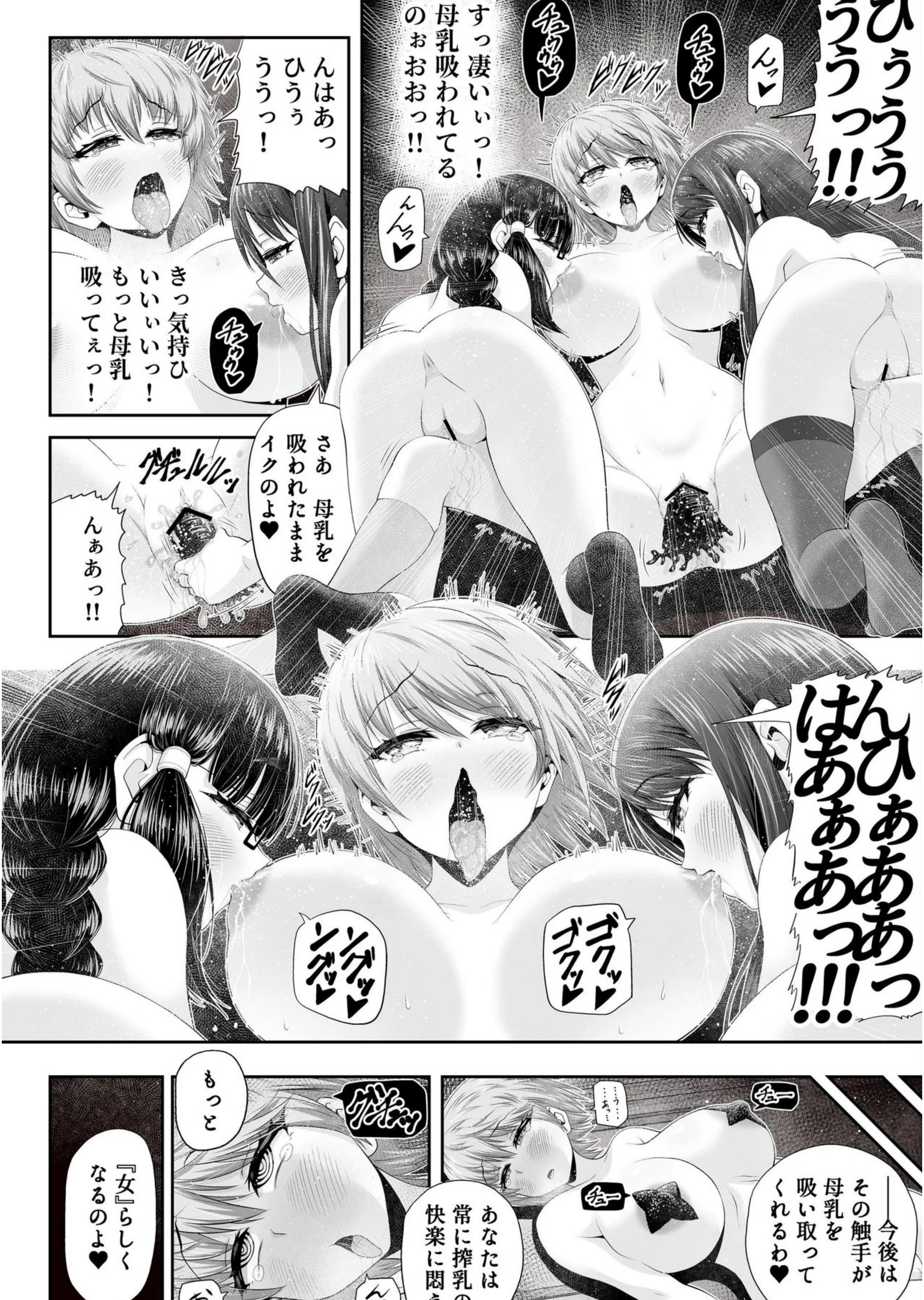

そうよアサヒ♥そうやって皆で高め合うの♥
んぁっ…
はぁあっ…！
あぁっ♥綺麗ですアサヒ様っ♥
ボ…ボクは一体何を…
あぁ……でも……
ヌチャ
ヌチュ
グチュッ
グチャッ
グチュッ
ヌチャッ
二人に見られながら一緒に発散して…！
あぁっ凄く興奮する…！
クチャ
クチュ
興奮しすぎてボク……もう……っ！
ヌチュ
グヂュ
ヌチャ
ビクビクッ
ああああっ…！！
ビクビクッ
…んぅ…
…あぁ…
うふふ♥
明日からが楽しみね
アサヒ♥

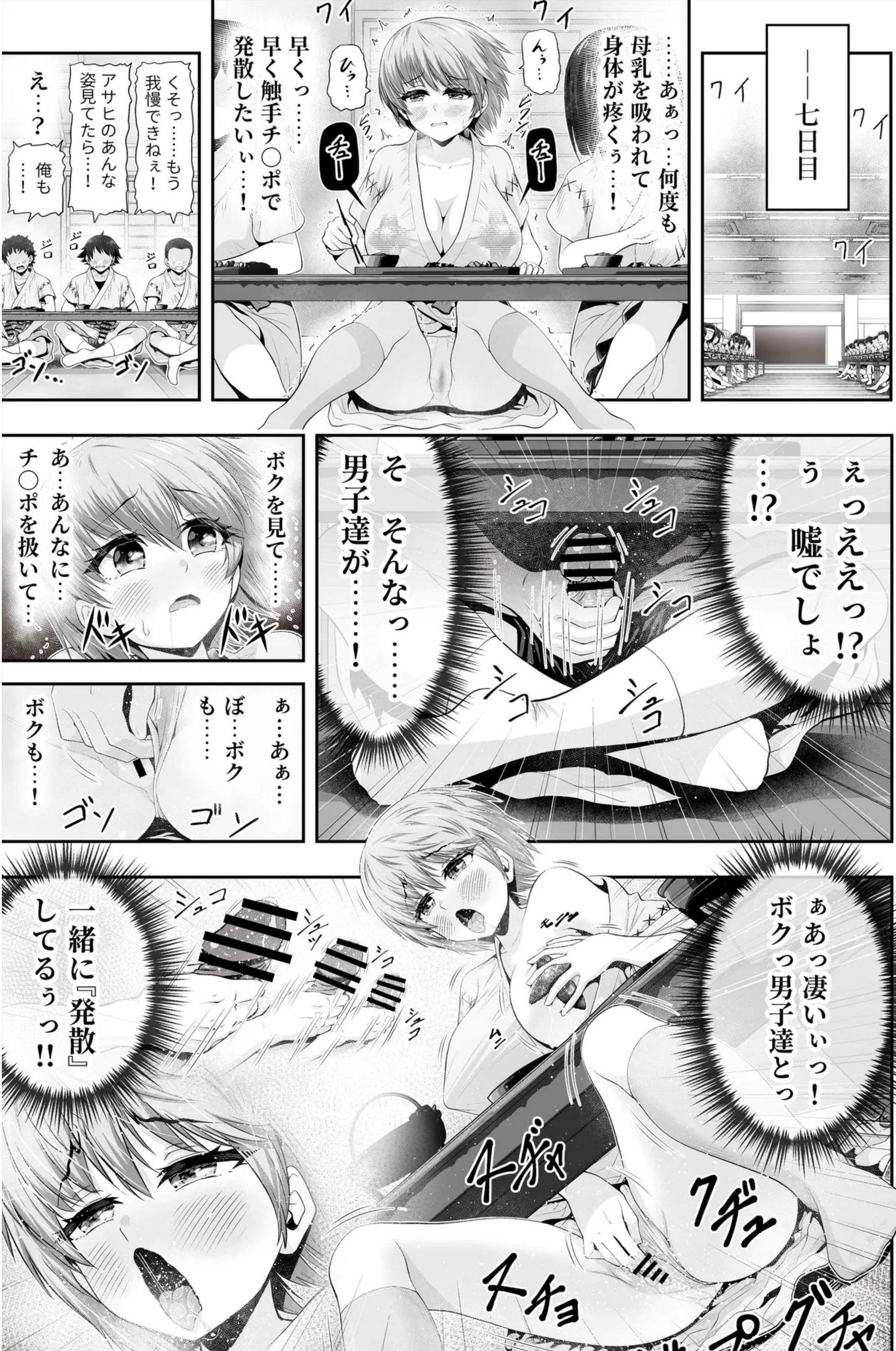

――合宿二日目
これは……
新しい練習着よ
身軽で良いでしょう？
卑猥な視線を昨日より感じてボクは興奮し
ドキ
ドキ
また二人と『発散』した…
ジュン…
ヌチャ
あっ
う
くぅ
――三日目
この日はシャワー室で『発散』した
シャアアアア
二人にオマ○コを弄ってもらって絶頂した
ヌチャ♥
グチュ
ヌチョ
グチャ
シャアアアア
――四日目
胸とお尻は次第に大きくなってる……
練習中乳首が擦れて欲情して…思わずトイレで『発散』したけど収まらなくて……
ヌチュ
グチャ
ガチャ
ああ……早く二人と『発散』したい…！
ハァ
ハァ
うふふっ♥アサヒったら凄く発情した顔して♥
丁度今日は『良いもの』を用意したのよ♥

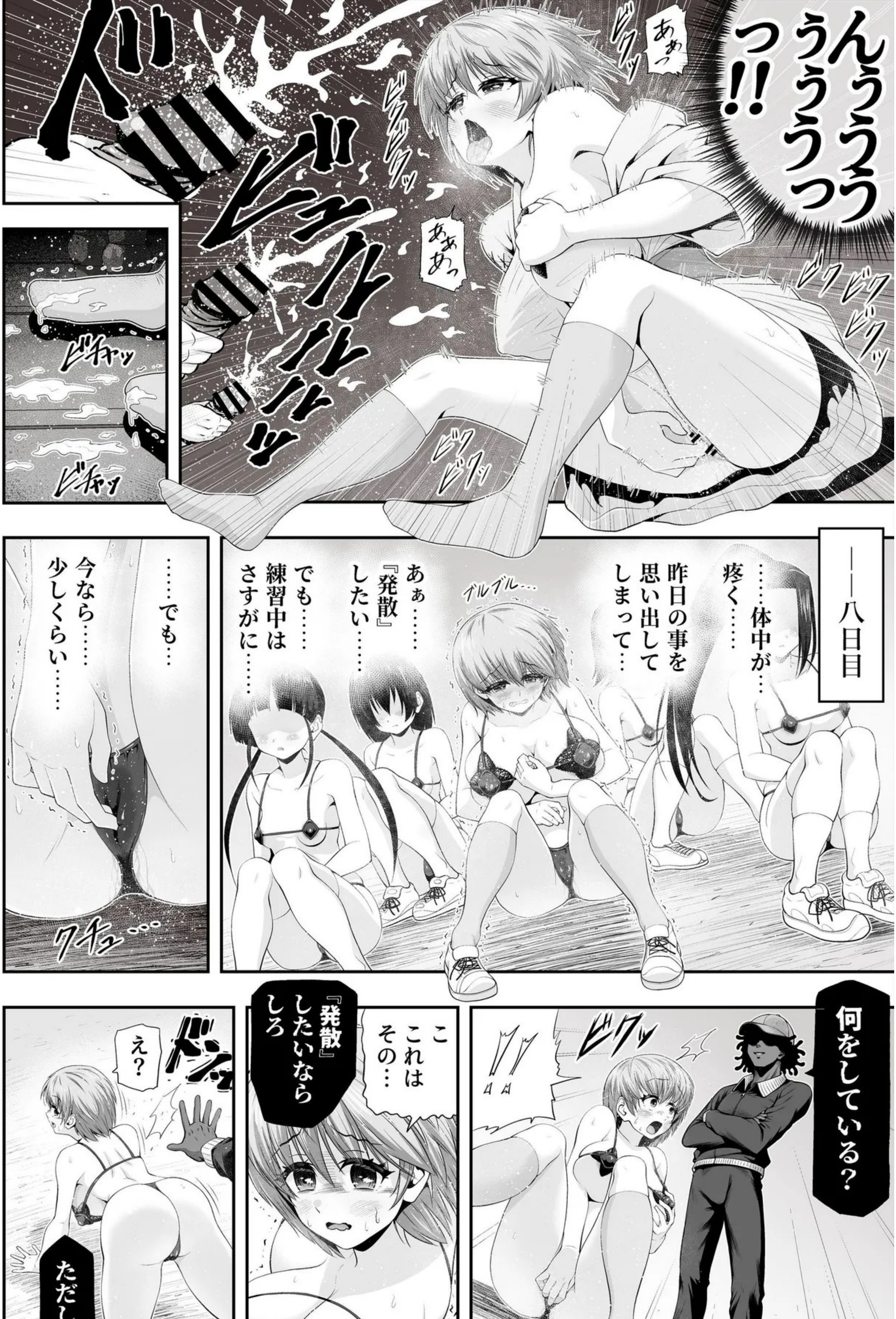

キ
ジュルルル
ルルルル
キ
キ
キ
こ これは……
ジュルルル
ジュルルルルルルル
どこかで見た事ある……
これは触手チ○ポよ♥
んあっ♡
ジュブルル
んはぁっ♡
あぁっ♡
はぁっ♡
自動で形が変わって中で動くんですよ♥
オジュルル
オジュボルルル
ジュボルルルル
しょ……触手チ○ポ……
これは…使ってはダメ……
……ダメ……なのに
ジュルルルルルルル
ジュルルル
さあ…一緒に『発散』しましょうアサヒ…♥
うぁ……
もう……抑えられない……！
クチュ……

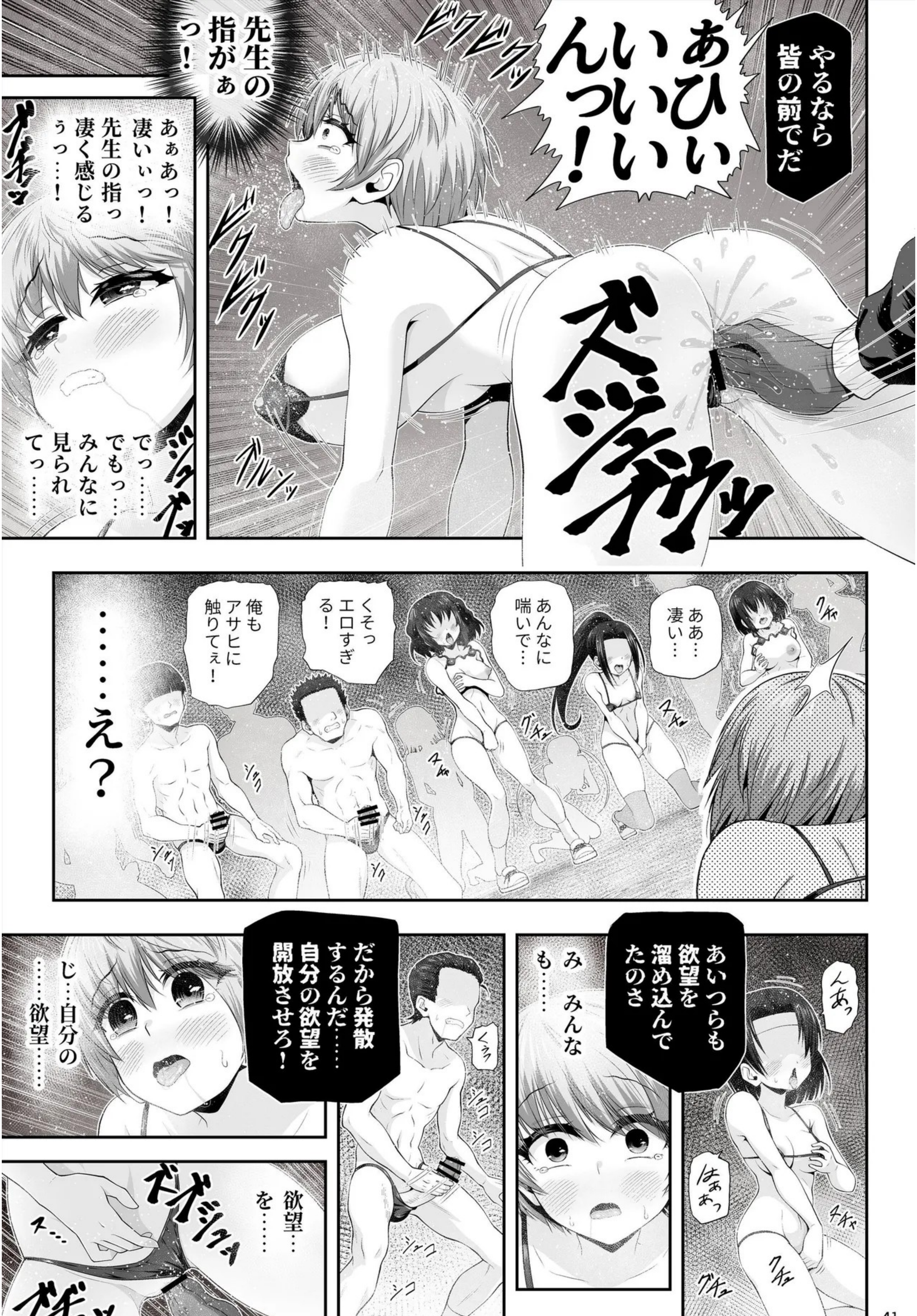

あはぁああっ
ああああっ!!!
ジュブルルルルルッ
ギュブルルッ
しょっ触手チ○ポがっ膣内でっグチュグチュ動いてるぅううっ!
ジュボブルルッ
触手チ○ポ気持ちいいでしょう♥
きっ気持ちいい!触手チ○ポっ!気持ちいいいっ!!
ジュブブルッ
ズチュズチュッ
んおぉおっ!!
おっお尻の穴にもぉおっ!!
すっ凄いぃっ!
ボクっお尻の穴でも気持ちよくなってるぅうっ!!
ズボブッ
ヂュボッ
ああああぁっ!!
触手チ○ポ気持ちひぃいぃいっ!!
……触手チ○ポ……
……きもち……いぃ……
ビクビクッ
ラ…
あ…
……触手…
…チ○ポ……

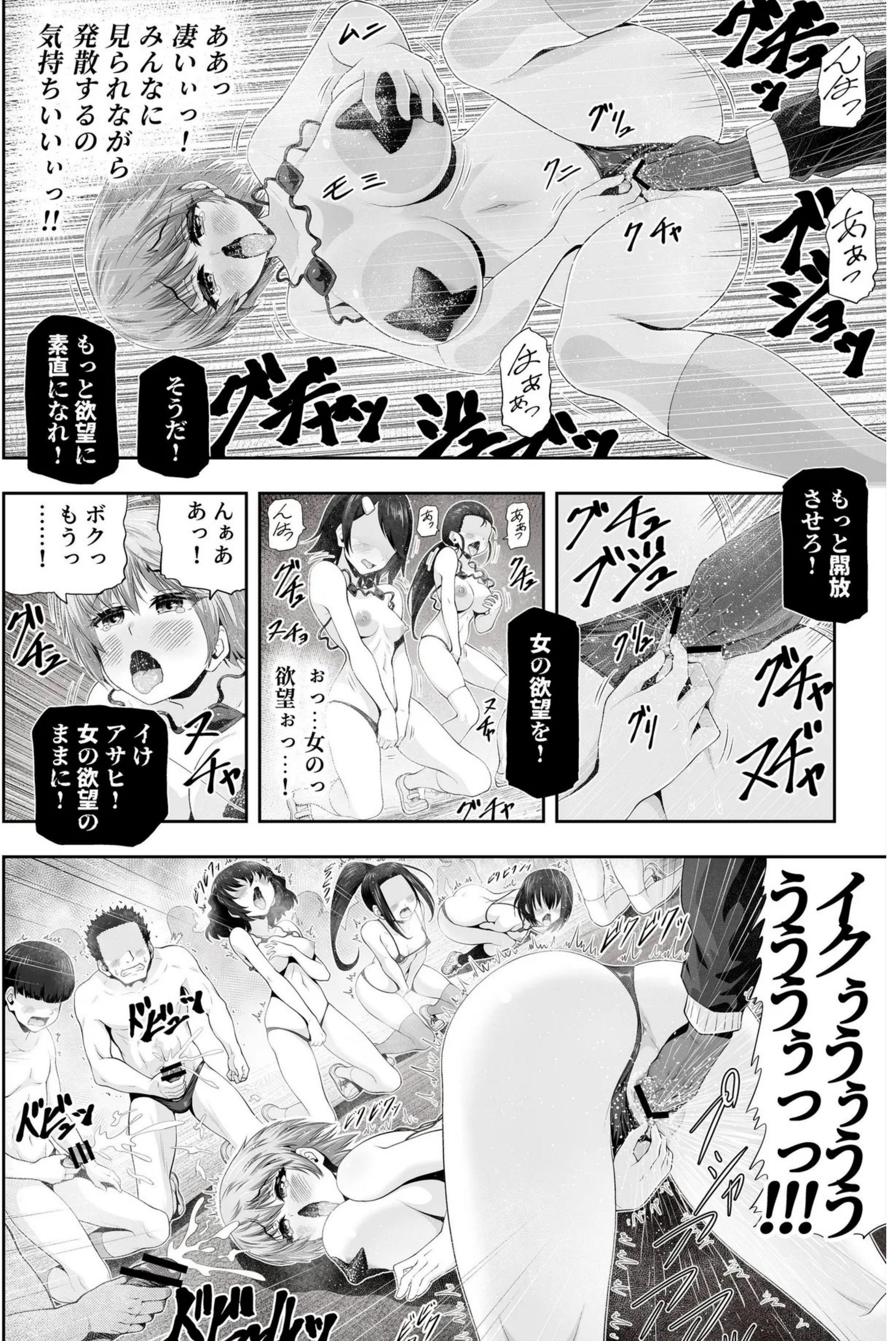

——五日目
練習着がまた新しくなった
ドキ
ドキ
ドキ
これまで以上にいやらしい目で見られて
ドキ
興奮で何度もイキそうになった……
ドキ
ドクン
——六日目
ブヂュルル
ズヂュルル
ぁあっ！触手チ○ポ気持ちいいっ
乳首も感じるぅっ！
ギュルルル
ズヂュブヂュ
ブヂュボ
ヂュブルルッ
ズジュルル
……あれっ？なんかっ……胸の中から何か込み上げてっ……
あっ……
ああっ……！
ああっはあぁぁあっ!!
ビュルルルル
ああっ♥アサヒ様から母乳が…♥
きっと胸が急成長した影響ね♥
母乳が漏れないように吸い出さないと♥
え…？

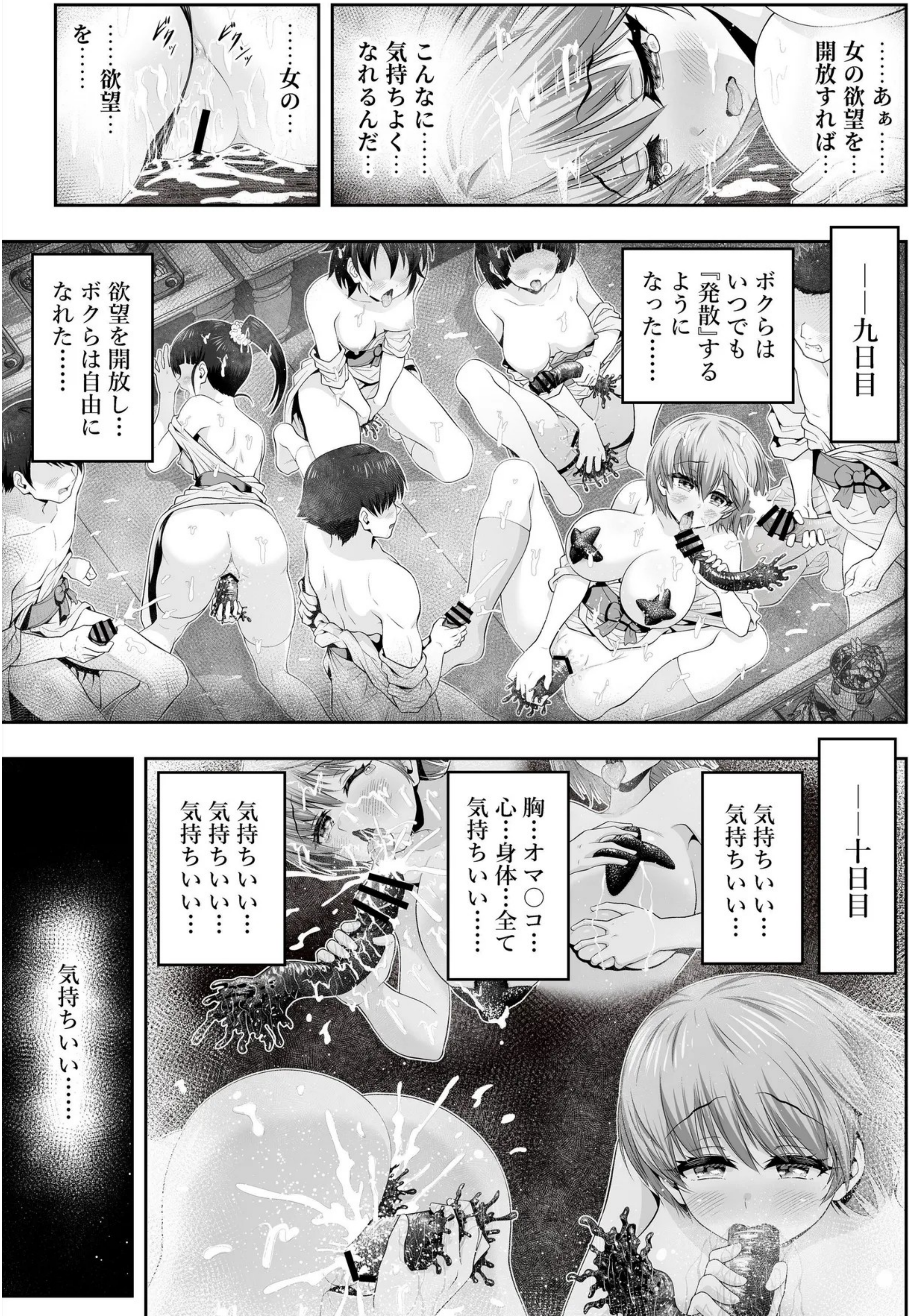

ひぅううう
うううっ!!
んっ♥
チュゥ♥
ビクビクッ
チュゥゥ♥
すっ凄いぃっ！
母乳吸われてる
のぉおおっ!!
んんっ♥
ビクビクッ
んはあっ
ひぅぅ
ううっ！
チュゥ♥
きっ気持ひ
いいぃぃいっ！
もっと母乳
吸ってぇっ！
さぁ 母乳を
吸われたまま
イクのよ♥
グチュルルッ
んぁあっ!!
んひぁあああっ
はあぁあっ!!!
ゴクッ
ゴクッ♥
ングッ
ングッ♥
チュー
…う…
…あっ…
──今後は
その触手が
母乳を
吸い取って
くれるわ♥
チュー
あなたは
常に搾乳の
快楽に悶え
グチュッ
もっと
『女』らしく
なるのよ♥
んおっ
おっ

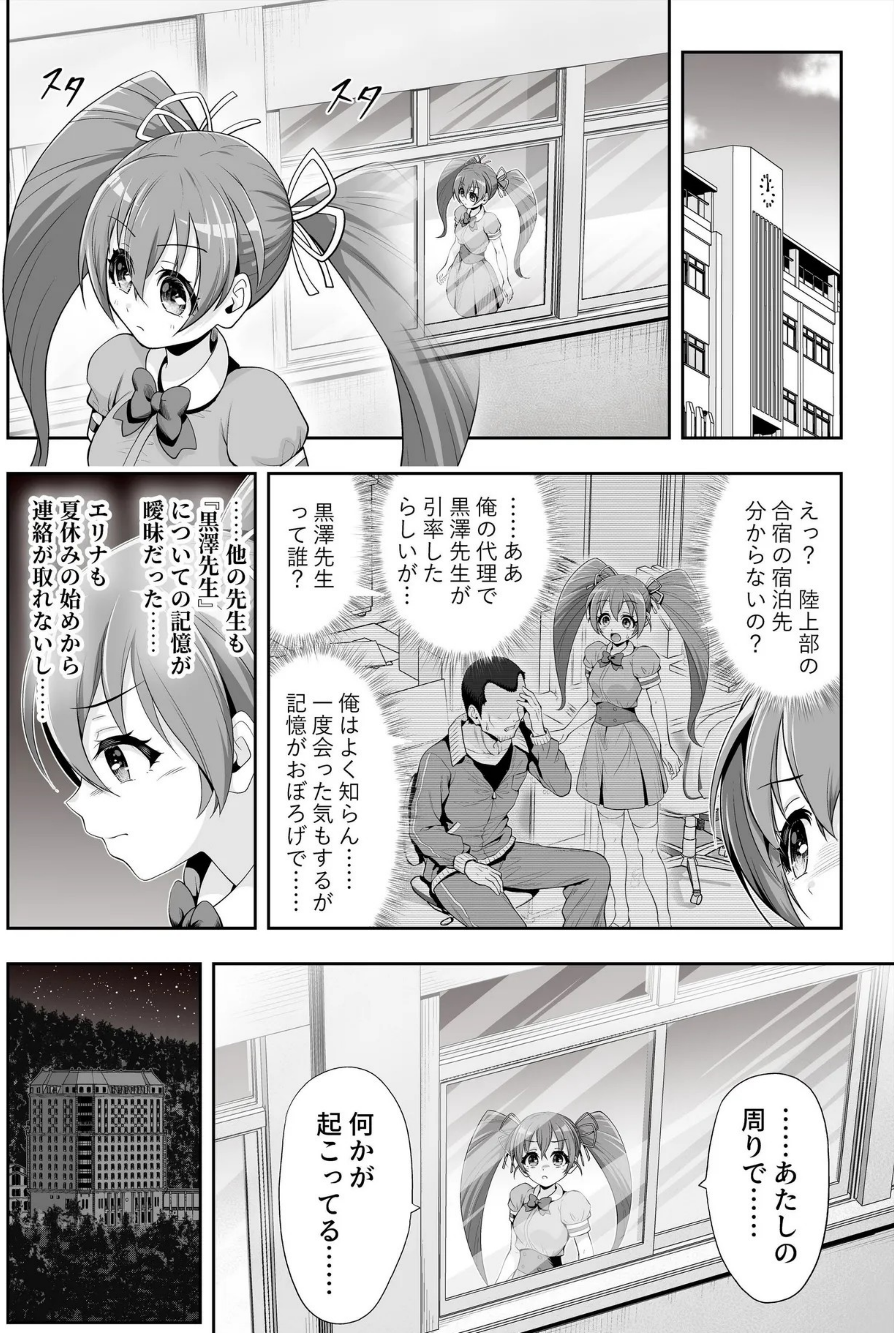

――七日目
ワイ
ワイ
ワイ
ワイ
ワイ
ワイ
……あぁっ…何度も母乳を吸われて身体が疼くぅ……！
んぅ…
ひっ…
チュー
チュー
早くっ……早く触手チ○ポで発散したいぃ……！
くそっ……もう我慢できねぇ！
アサヒのあんな姿見てたら……！
え…？俺も…！
ジロ
ジロ
ジロ
ゴソ…
ゴソ
えっえぇっ!? う…嘘でしょ…!?
そ そんなっ……男子達が……！
シュコ
シュコ
シュコ
シュコ
シュコ
ボクを見て……
あ…あんなに…チ○ポを扱いて…
ドキ
ドキ
ぁ…あぁ…
ぼ…ボクも……
ボクも…！
ゴソ
ゴソ
ぁあっ凄いぃぃっ！ボクっ男子達とっ
一緒に『発散』してるぅっ!!
シュコ
シュッ
シコ
シコ
モミュ
ムニ
ヌチャ
クチュ
ヌチョ
ジュプ
グチャ

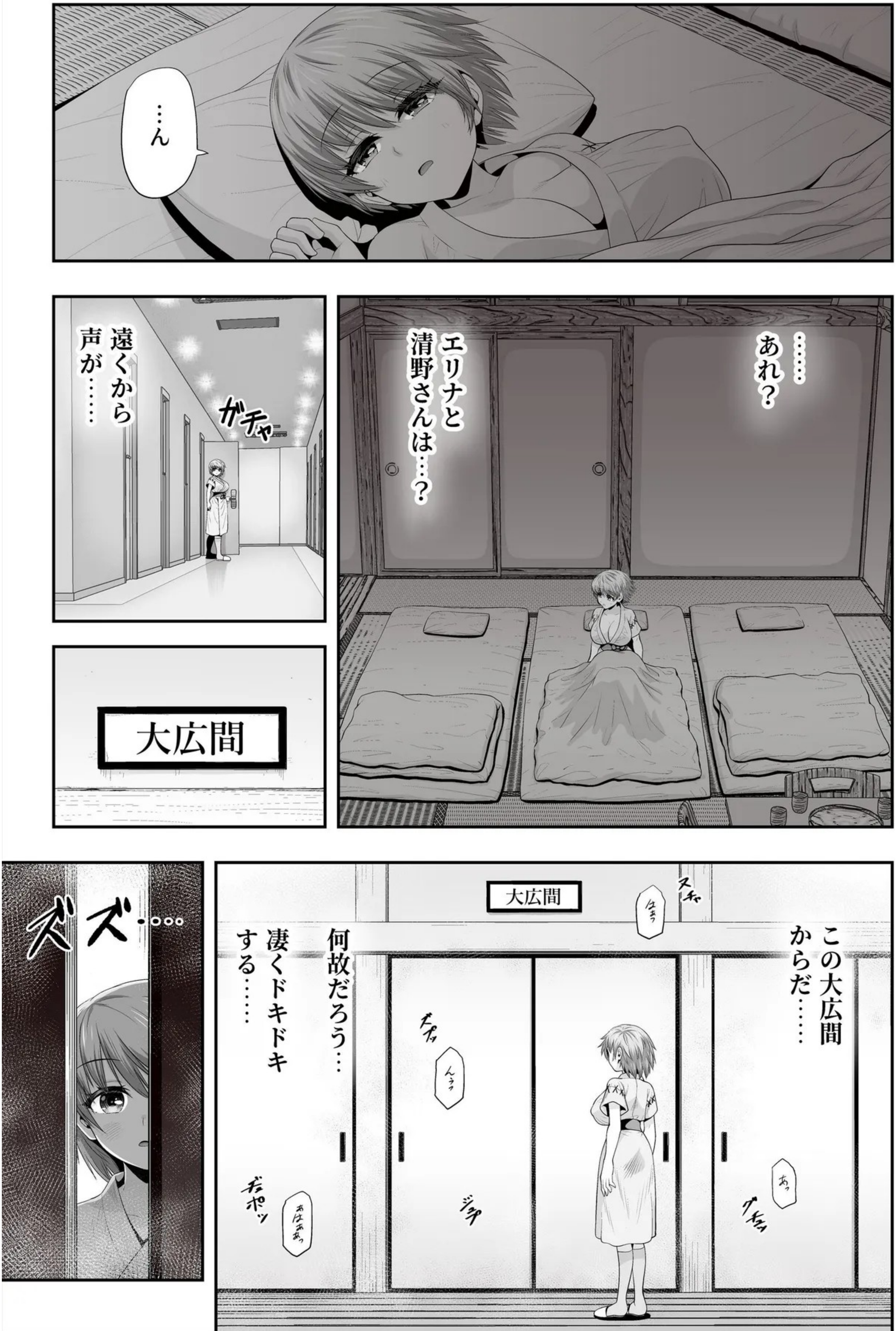

んうううううううっっ!!
あぁっ
ビクッ
ビクビクッ
ビクビクッ
ドビュルルルルルッ
あぁあっ
ビクッビクッ
ビチャッ
ビチャッ
――八日目
……体中が……疼く……
昨日の事を思い出してしまって…
ブルブル…
あぁ……『発散』したい……
でも……練習中はさすがに……
……でも……
今なら……少しくらい……
クチュ…
何をしている？
ビクッ
こ これは その…
『発散』したいならしろ
え？
ドンッ
ただし…

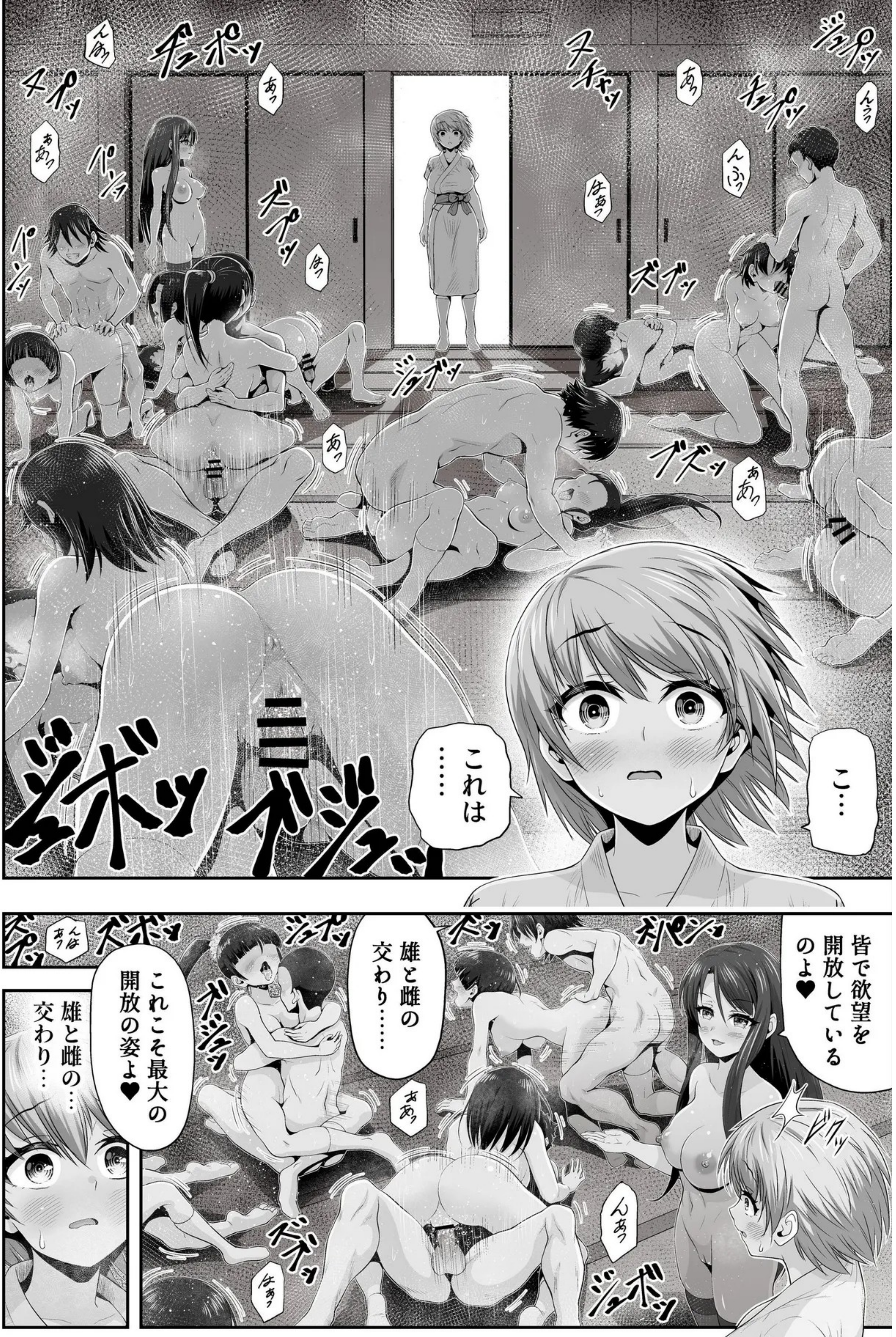

やるなら皆の前でだ
あひいいいんっ！
ビクビクッ
先生の指がぁっ！
ズブチュウッ
ビクビクッ
ブルンッ
あぁあっ！凄いぃっ！先生の指っ凄く感じるぅっ……！
でっ……でもっ……みんなに見られてっ……
オホォッ
ジュポッ
クチャ
ああ…凄い…
あんなに喘いで…
スチ
グチュ
くそっエロすぎる！
俺もアサヒに触りてぇ！
シコ
……え？
んあっ
あいつらも欲望を溜め込んでたのさ
み　みんなも……
はぁあっ
クチュ
グチュ
だから発散するんだ……自分の欲望を開放させろ！
くっ
シコ
じ…自分の……欲望……
欲望…を……
ズボジュッ
ス…
ズチュッ

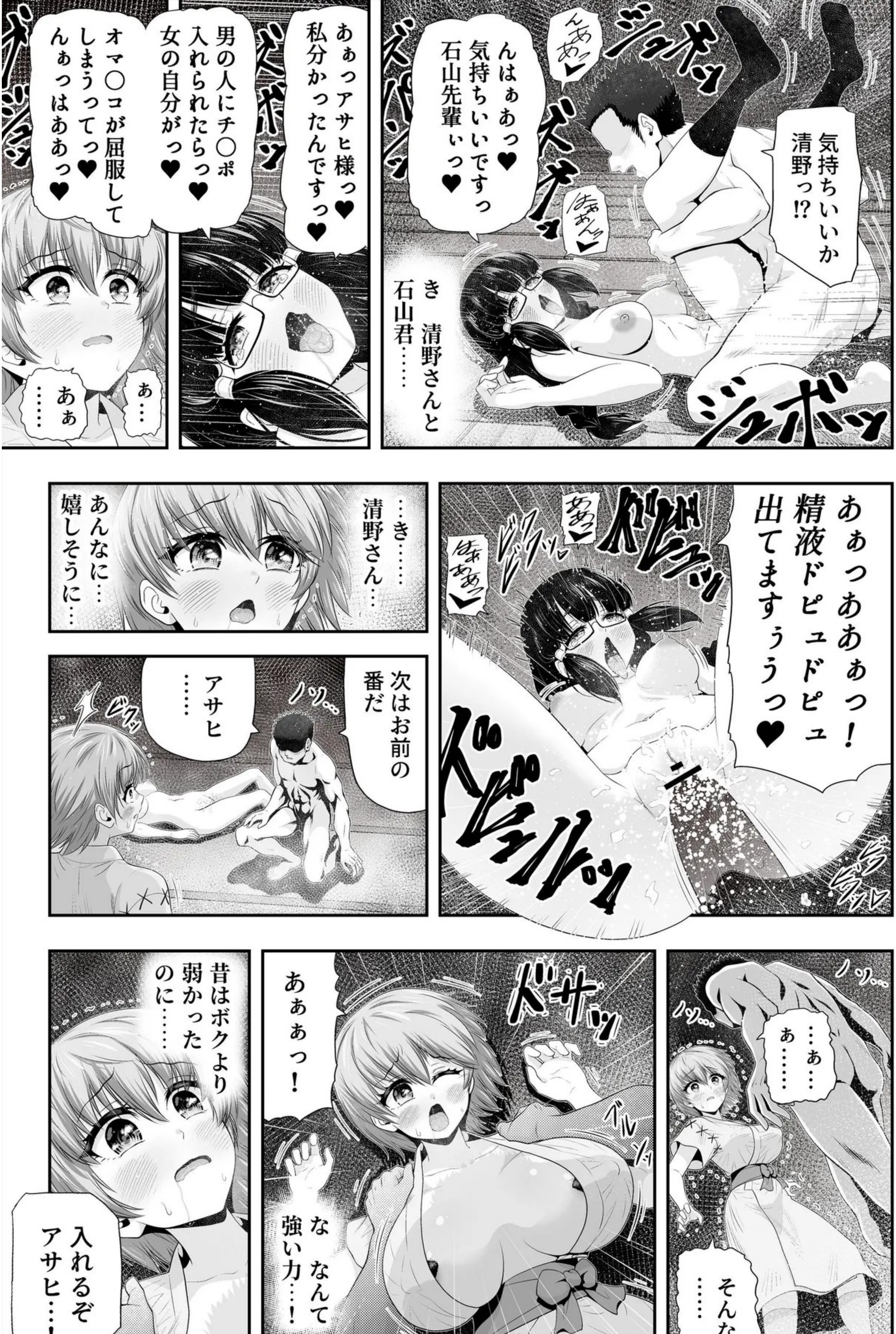

グチュッ
んほっ
グリュ
クニ
ムニ
モミ
クチャ
ああっ
ズッショッ
はぁあっ
グチャッ
ジュボッ
ああっ
凄いぃっ！
みんなに
見られながら
発散するの
気持ちいいぃっ!!
そうだ！
もっと欲望に
素直になれ！
もっと開放
させろ！
グチュ
ブジュ
グリュ
グチャ
グリ
ヌチャ
女の欲望を！
ああっ
あっ
んほっ
グチュ
ヌチョ
グチュ
ヌチャ
おっ…女のっ
欲望ぉっ……！
グチャ
んぁああっ！
ボクっ
もうっ
……！
グチュ
ヌチャ
イけ
アサヒ！
女の欲望の
ままに！
イクぅううううう
ううううっっ!!!
プシャ
ビクビクッ
ドビューッ
ドビュッ
ドビュルルッ

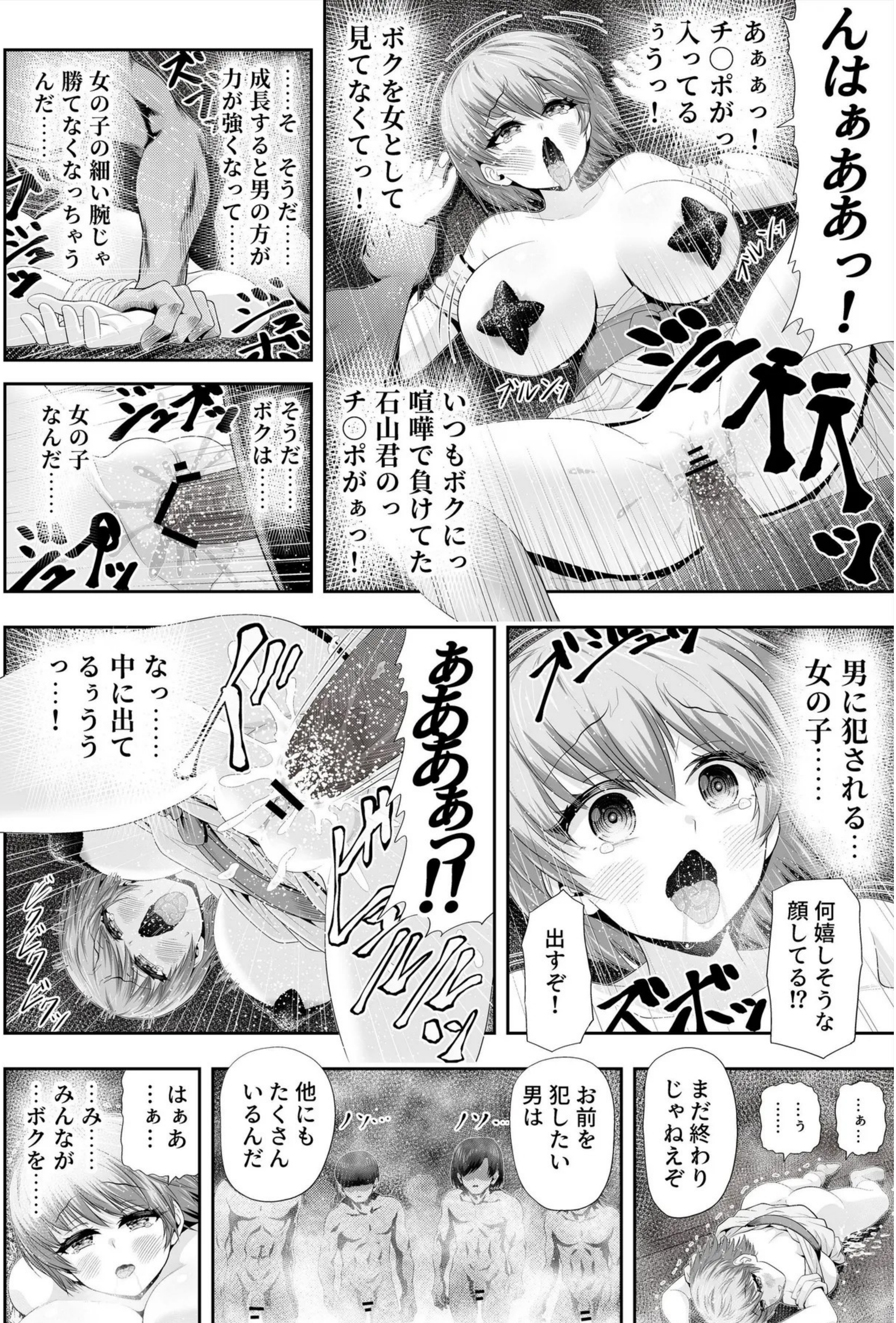

……あぁ……女の欲望を開放すれば……
こんなに気持ちよく……なれるんだ……
ビクンッ
ビクッ
……女の……
……欲望……
を……
――九日目
ボクらはいつでも『発散』するようになった……
欲望を開放し…ボクらは自由になれた……
――十日目
気持ちいい……
胸…オマ○コ…心…身体…全て気持ちいい……
気持ちいい…気持ちいい…気持ちいい…
気持ちいい……


スタ
スタ
えっ？陸上部の合宿の宿泊先分からないの？
……ああ 俺の代理で黒澤先生が引率したらしいが……
黒澤先生って誰？
俺はよく知らん…… 一度会った気もするが記憶がおぼろげで……
……他の先生も『黒澤先生』についての記憶が曖昧だった……
エリナも夏休みの始めから連絡が取れないし……
……あたしの周りで……
何かが起こってる……


…ん
……あれ？
エリナと清野さんは…？
ガチャ
遠くから声が……
大広間
この大広間からだ……
大広間
ヌチャ
はぁっ
ズブッ
んうっ
ジュプ
あっ
グチュッ
何故だろう…凄くドキドキする……
ズポッ
あはぁあっ
ズズ……


ジュプッ
んぅっ
チュプッ
あっ
ヌチュッ
んふっ
なあっ
ズブッ
ブズッ
ああっ
ジュブッ
あっ
ズプッ
はっ
ズニポッ
んほっ
あっ
ヌプッ
ああっ
パンッ
パンッ
ズボッ
ズジュッ
こ…
これは……
ズパンッ
皆で欲望を開放しているのよ♥
ズブッ
雄と雌の交わり……
ジュポッ
ズボッ
あんっ
これこそ最大の開放の姿よ♥
ズジュッ
ああっ
ビクッ
んあっ
ズボッ
なあっ
ジュボッ
雄と雌の…交わり…


気持ちいいか 清野っ!?
ジュボッ
んあぁあっ
ズボォッ
んはぁあっ♥ 気持ちいいですっ 石山先輩ぃっ♥
はぁあんっ
き 清野さんと 石山君……
ジュボッ
ズパンッ
あぁっアサヒ様っ♥ 私分かったんですっ♥
ズボッ
男の人にチ○ポ入れられたらっ♥ 女の自分がっ♥ オマ○コが屈服してしまうってっ♥ んぁっはあぁあっ♥
ズボッ
あ……
あぁ……
あぁっあぁぁっ! 精液ドピュドピュ出てますぅうっ♥
あぁっ
はぁああっ
ドビュルッ
ビクッビクッ
ドビュルルッ
ビクビク
…き…… 清野さん…… あんなに… 嬉しそうに……
次はお前の番だ
アサヒ……
ノソ…
ビクッ
ノソ…
ノソ…
…ぁ… あ……
そんな……
ドサッ
あぁぁあっ!
な なんて強い力……!
昔はボクより弱かったのに……
入れるぞ アサヒ……!

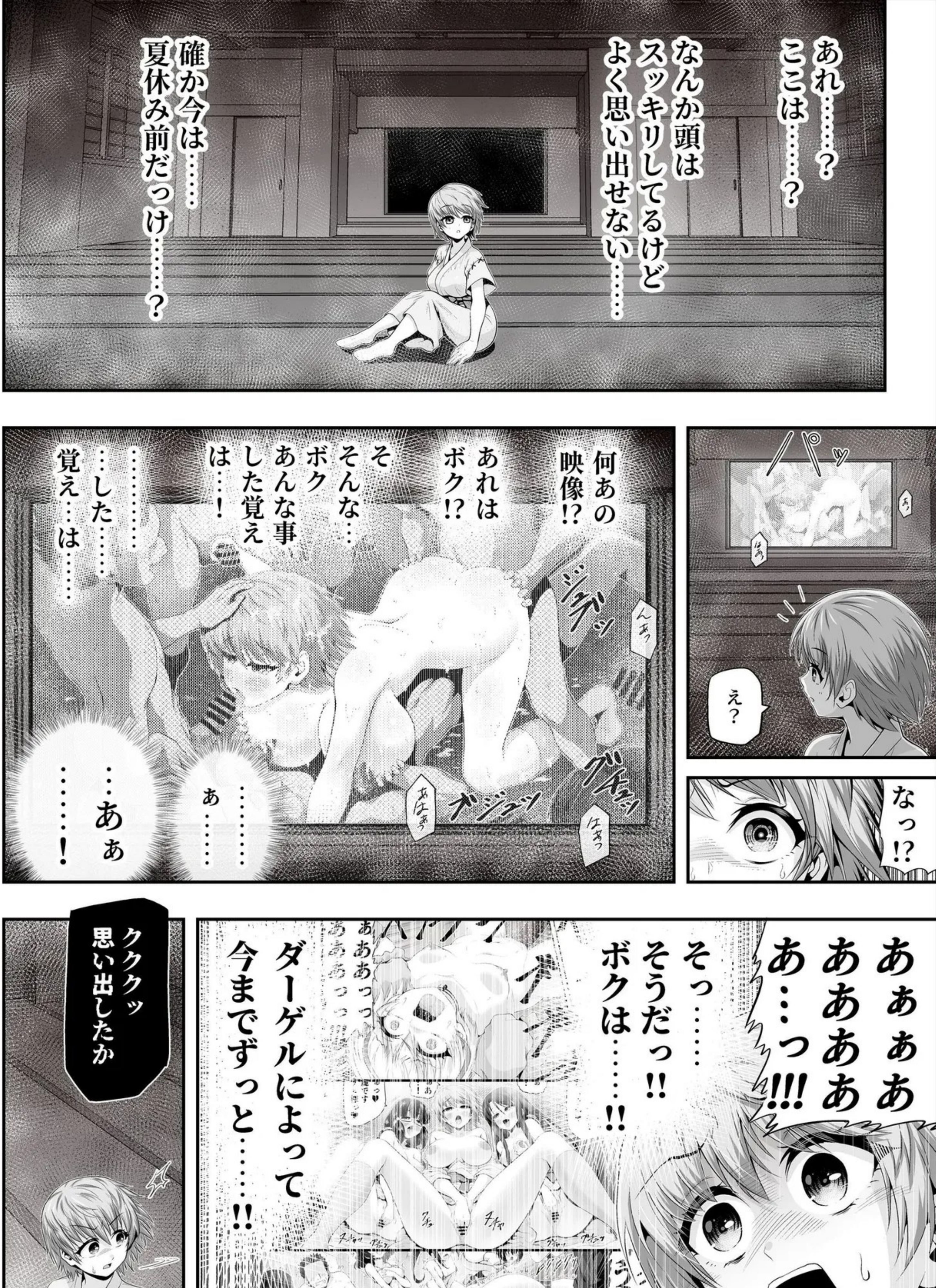

んはぁああっ！
あぁぁっ！チ○ポがっ入ってるぅうっ！
ボクを女として見てなくてっ！
ブルンッ
ジュチュンッ
ブルンッ
いつもボクにっ喧嘩で負けてた石山君のっチ○ポがぁっ！
……そ　そうだ……
成長すると男の方が力が強くなって……
女の子の細い腕じゃ勝てなくなっちゃうんだ……
ズン
ジュプッ
ジュポ
そうだ……ボクは……
女の子なんだ……
ジュボッ
ジュプッ
男に犯される…女の子……
何嬉しそうな顔してる⁉
出すぞ！
ズボッ
ああああっ!!
ドビュルルルッ
なっ……中に出てるぅううっ……！
ビクビク
…ぁ…
…う……
まだ終わりじゃねえぞ
お前を犯したい男は
ノシ…
ノシ…
他にもたくさんいるんだ
はぁあ…ぁ…
…み……みんなが…ボクを……

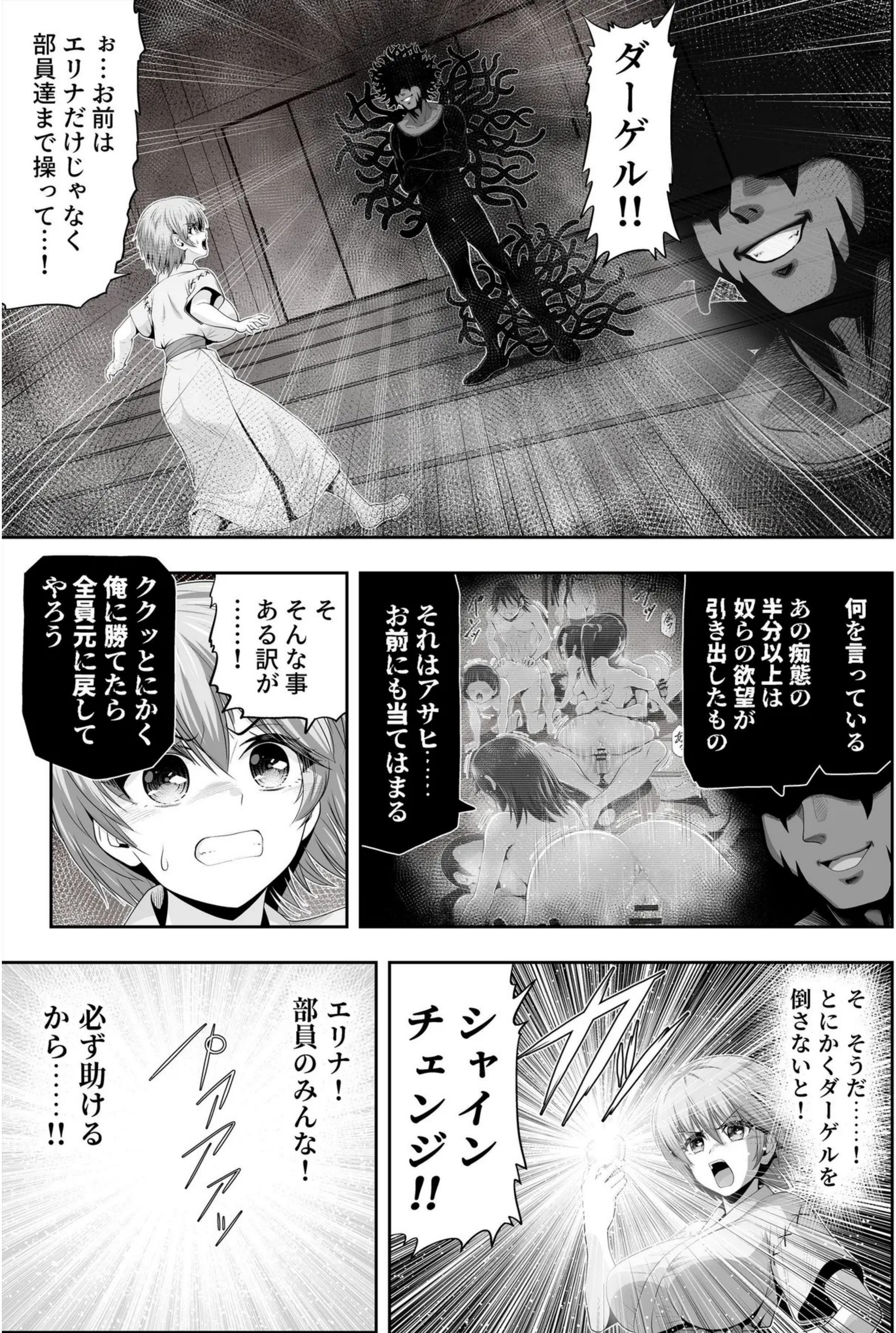
ボクは今……
男子達に犯されている……
オマ○コを…
ア○ルを…
口マ○コを…
ボクの全てが…
女の子として…
犯されてる……

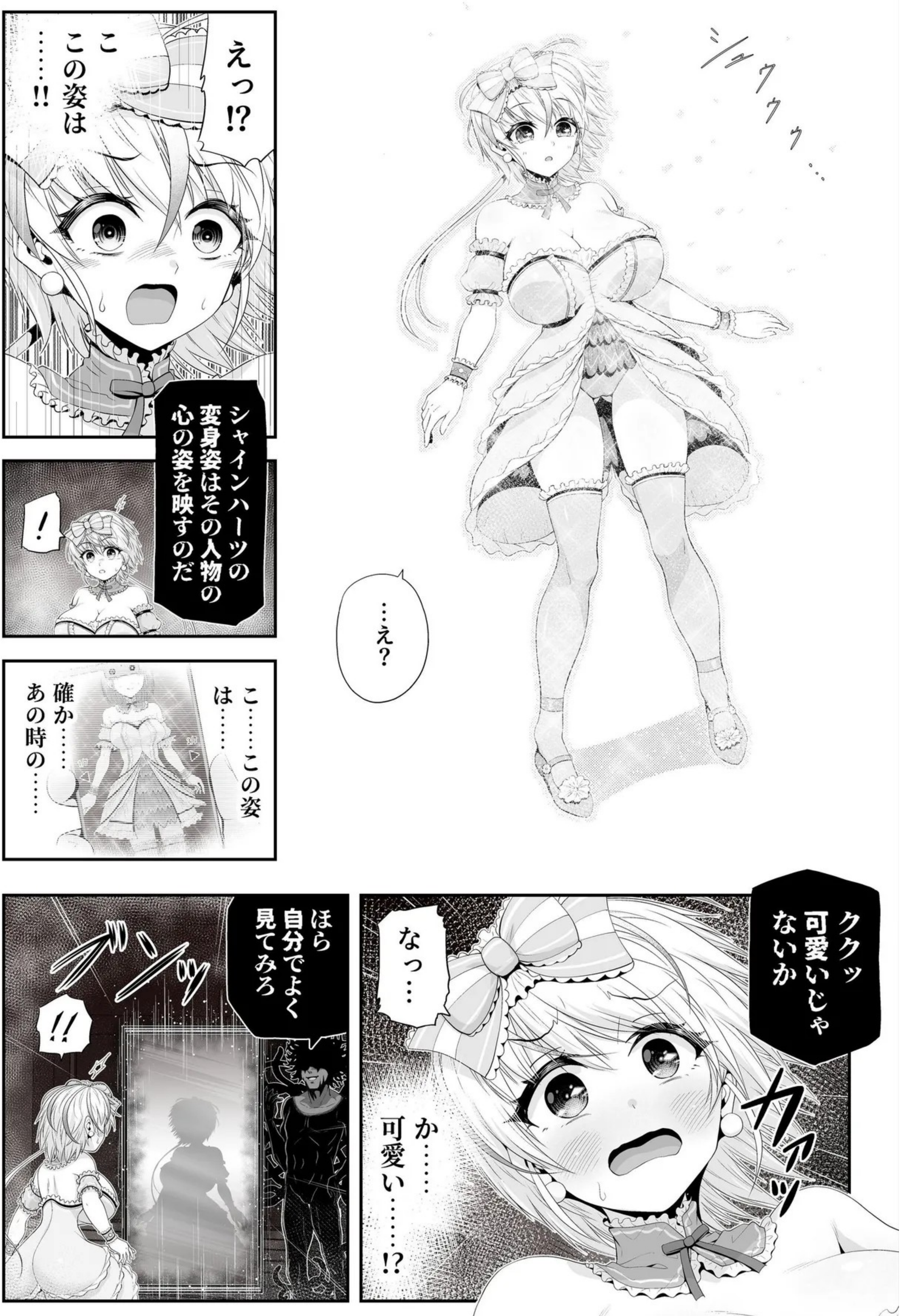
ボクは……『女の子』…なんだ……
あぁ……なんて……

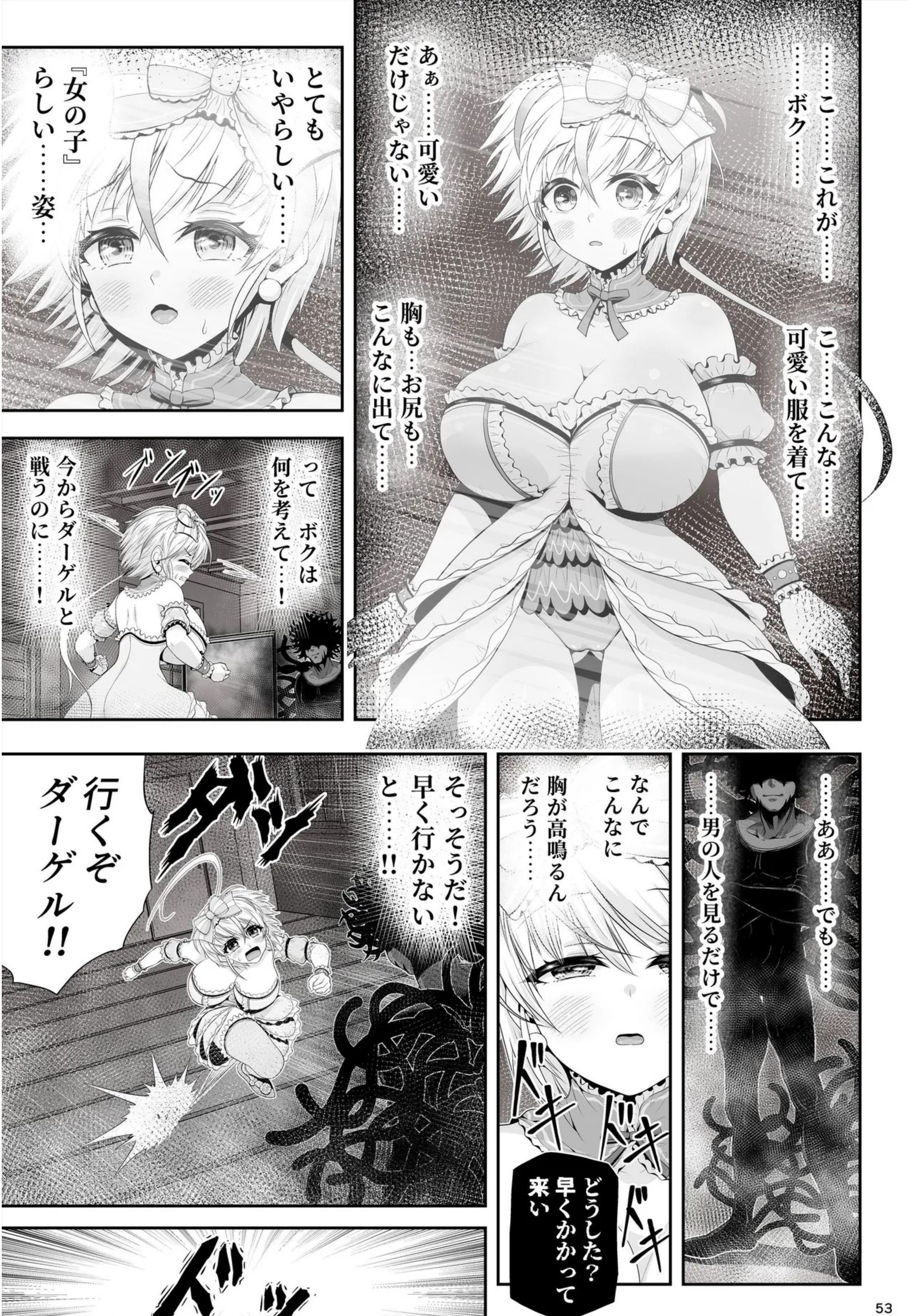
……ナンテ……嬉シインダロウ……

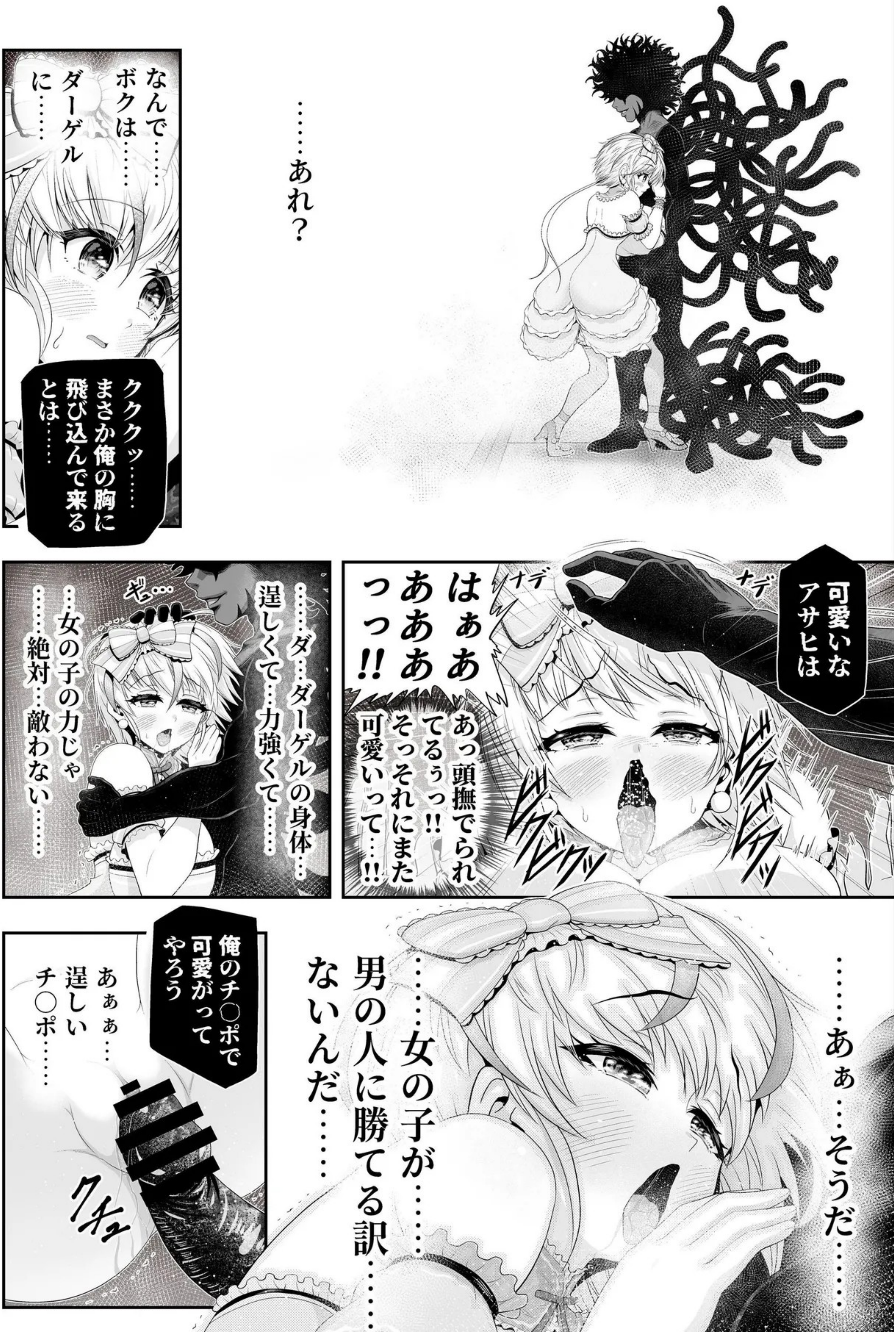
……ん…

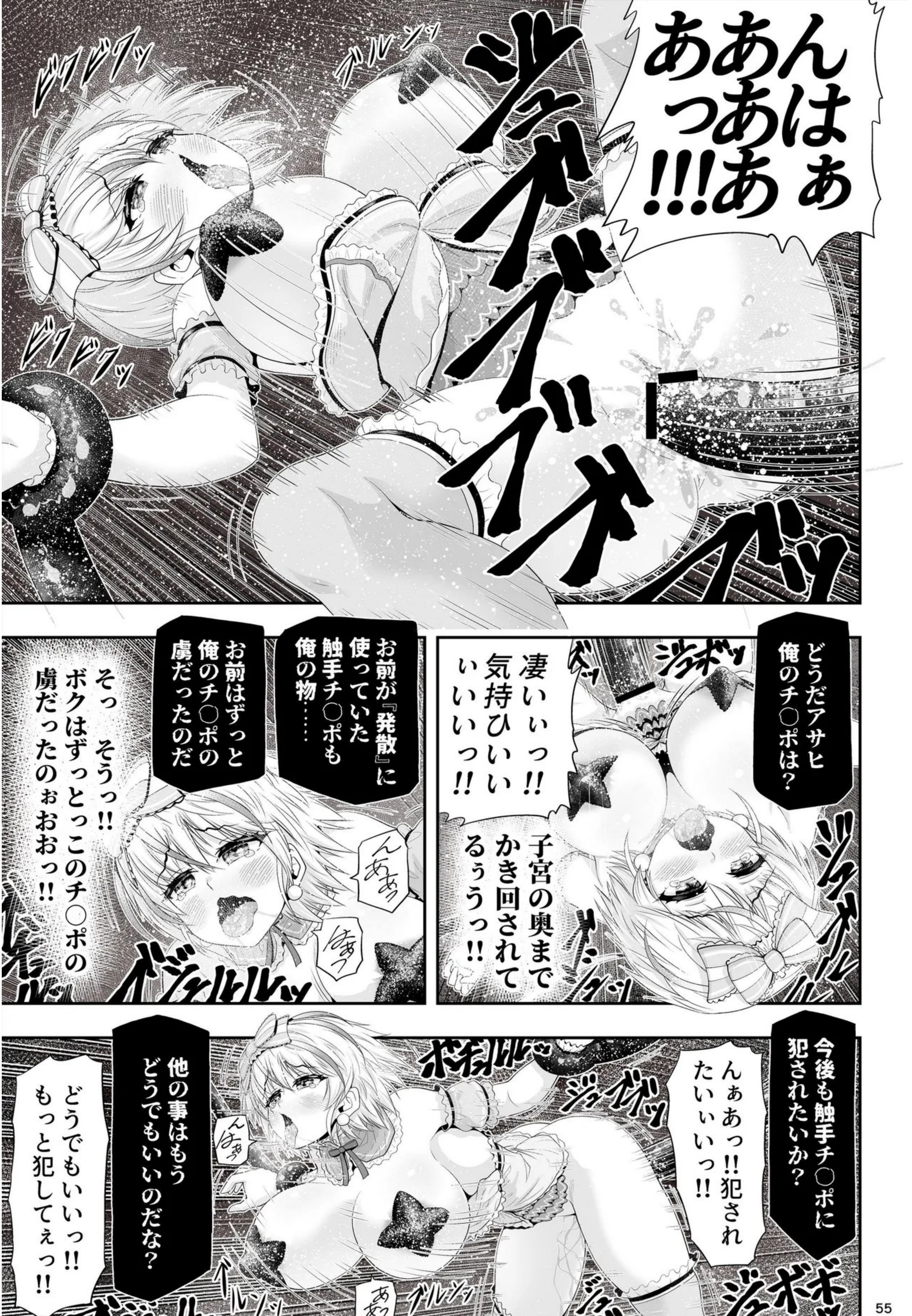

あれ……？
ここは……？
なんか頭は
スッキリしてるけど
よく思い出せない……
確か今は……
夏休み前だっけ……？
パッ
あっ
なあっ
え？
なっ!?
何あの
映像!?
あれは
ボク!?
そ
そんな…
ボク
あんな事
した覚え
は…！
………
…した……
覚え…は……
ジュブッ
んあっ
グチュッ
ブジュッ
あはあっ
……
あ……
…あぁ
……！
あぁぁあ
あああああ
あ…っ!!!
そっ……
そうだっ!!
ボクは……!!
ダーゲルによって
今までずっと……!!
ああああっ
うううう
うううっっ!!!
クククッ
思い出したか

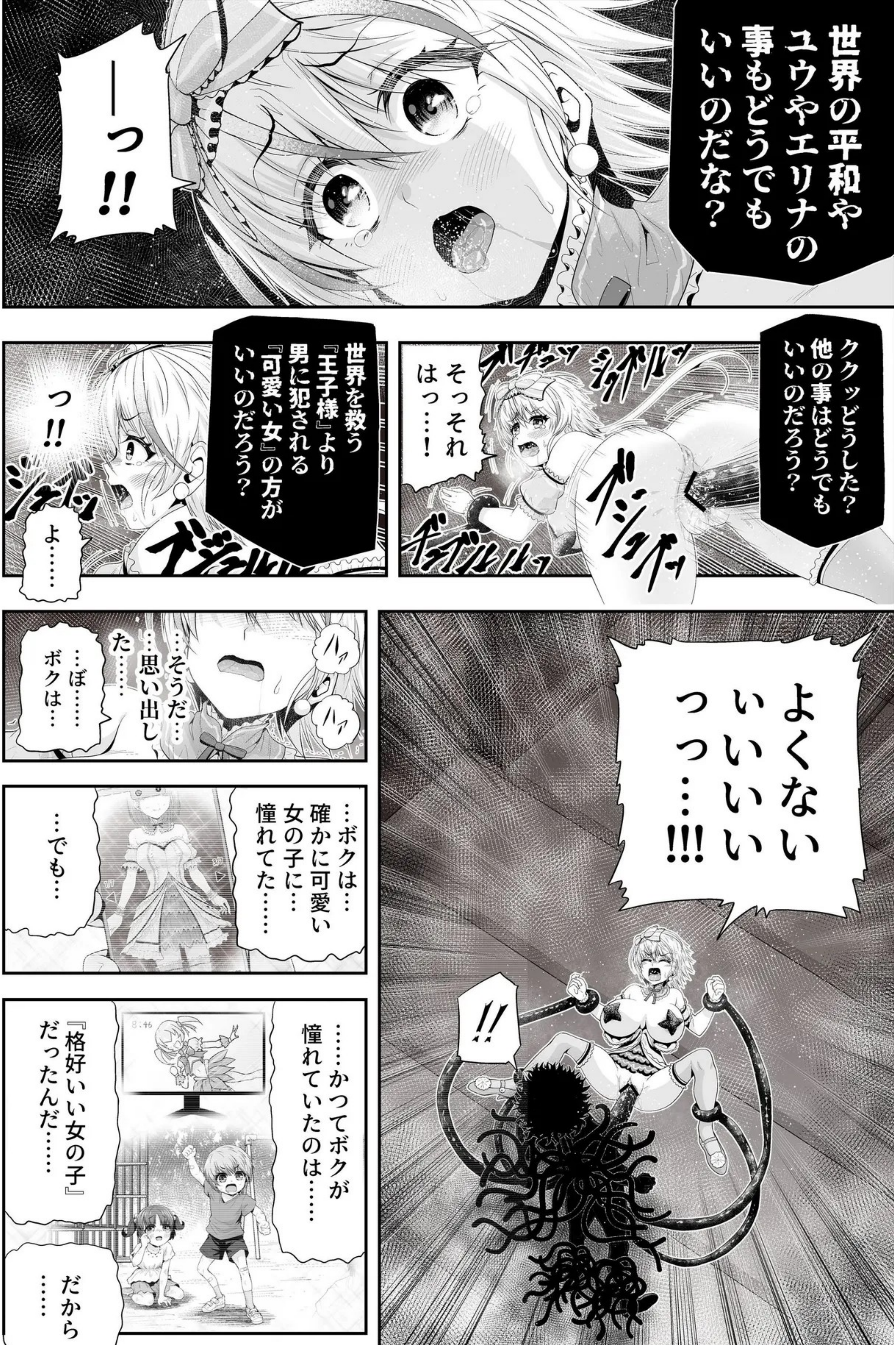

ダーゲル!!
ぉ…お前はエリナだけじゃなく部員達まで操って……!
何を言っているあの痴態の半分以上は奴らの欲望が引き出したもの
それはアサヒ……お前にも当てはまる
そ そんな事ある訳が……!
ククッとにかく俺に勝てたら全員元に戻してやろう
そ そうだ……! とにかくダーゲルを倒さないと!
シャインチェンジ!!
パァアアアッ
エリナ! 部員のみんな!
必ず助けるから……!!

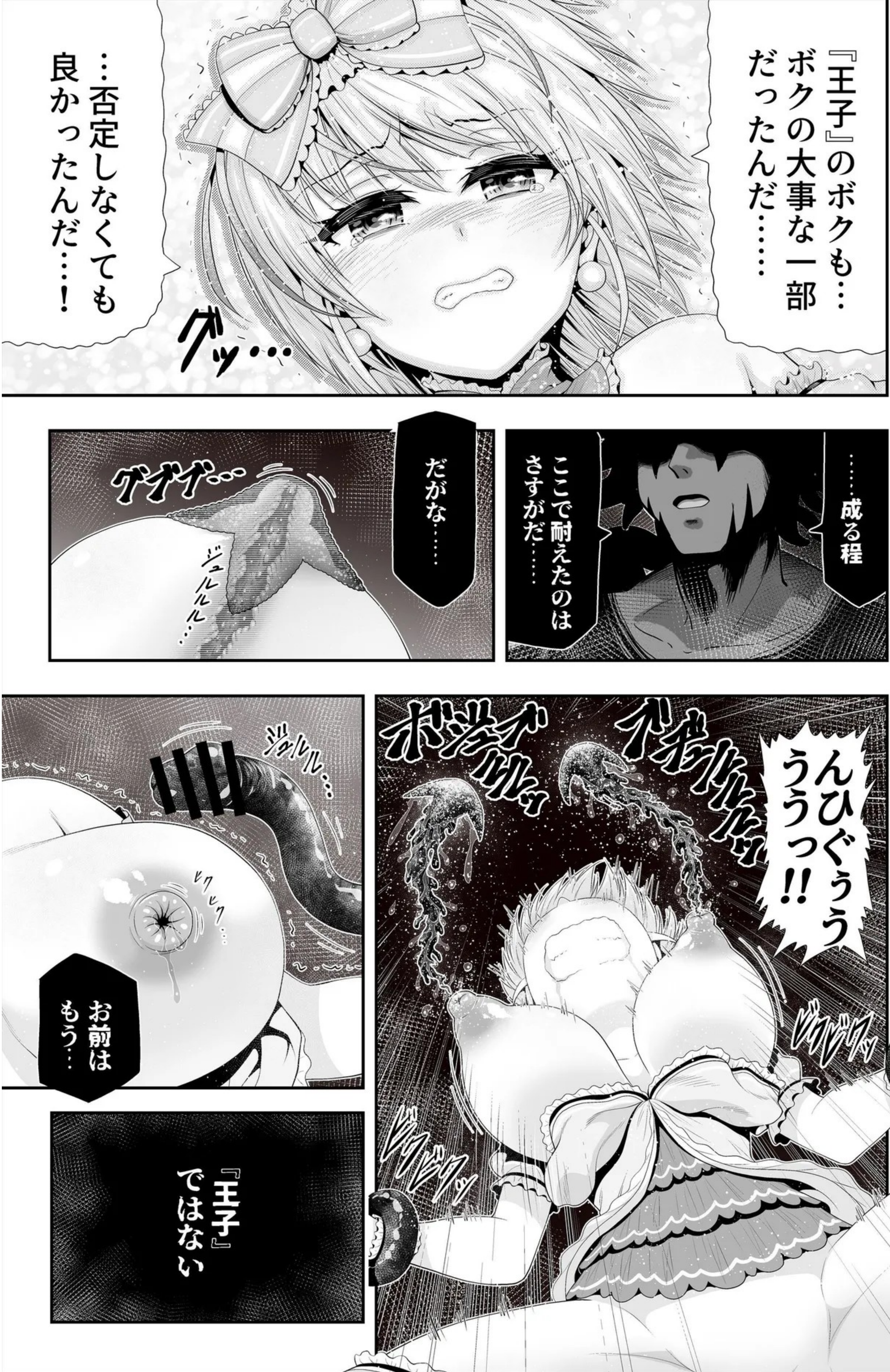

シュウウウウ…
…え？
えっ!?
こ この姿は……!!
シャインハーツの変身姿はその人物の心の姿を映すのだ
!
こ……この姿は……
確か……あの時の……
ククッ可愛いじゃないか
なっ…
か……可愛い……!?
カァァッ
ほら自分でよく見てみろ
ブゥンッ
!!


……こ……これが……
……ボク……
こ……こんな
可愛い服を着て……
あぁ……可愛い
だけじゃない……
胸も……お尻も……
こんなに出て……
とても
いやらしい……
『女の子』
らしい……姿……
って ボクは
何を考えて…！
今からダーゲルと
戦うのに……！
ブンブンッ
……ああ……でも……
……男の人を見るだけで……
なんで
こんなに
胸が高鳴るん
だろう……
ドキドキドキ
どうした？
早くかかって
来い
そっそうだ！
早く行かない
と……!!
ダッ
行くぞ
ダーゲル!!
ドッ


……あれ？
なんで……ボクは……ダーゲルに……
ククク ッ……まさか俺の胸に飛び込んで来るとは……
可愛いなアサヒは
ナデ
ナデ
はぁああっっ!!
あっ頭撫でられてるぅっ!! そっそれにまた可愛いって……!!
ビクビクッ
……ダ…ダーゲルの身体……逞しくて……力強くて……
……女の子の力じゃ……絶対……敵わない……
ギ…
……あぁ……そうだ……
……女の子が……男の人に勝てる訳ないんだ……
俺のチ○ポで可愛がってやろう
あぁぁ……逞しいチ○ポ……
クチュ

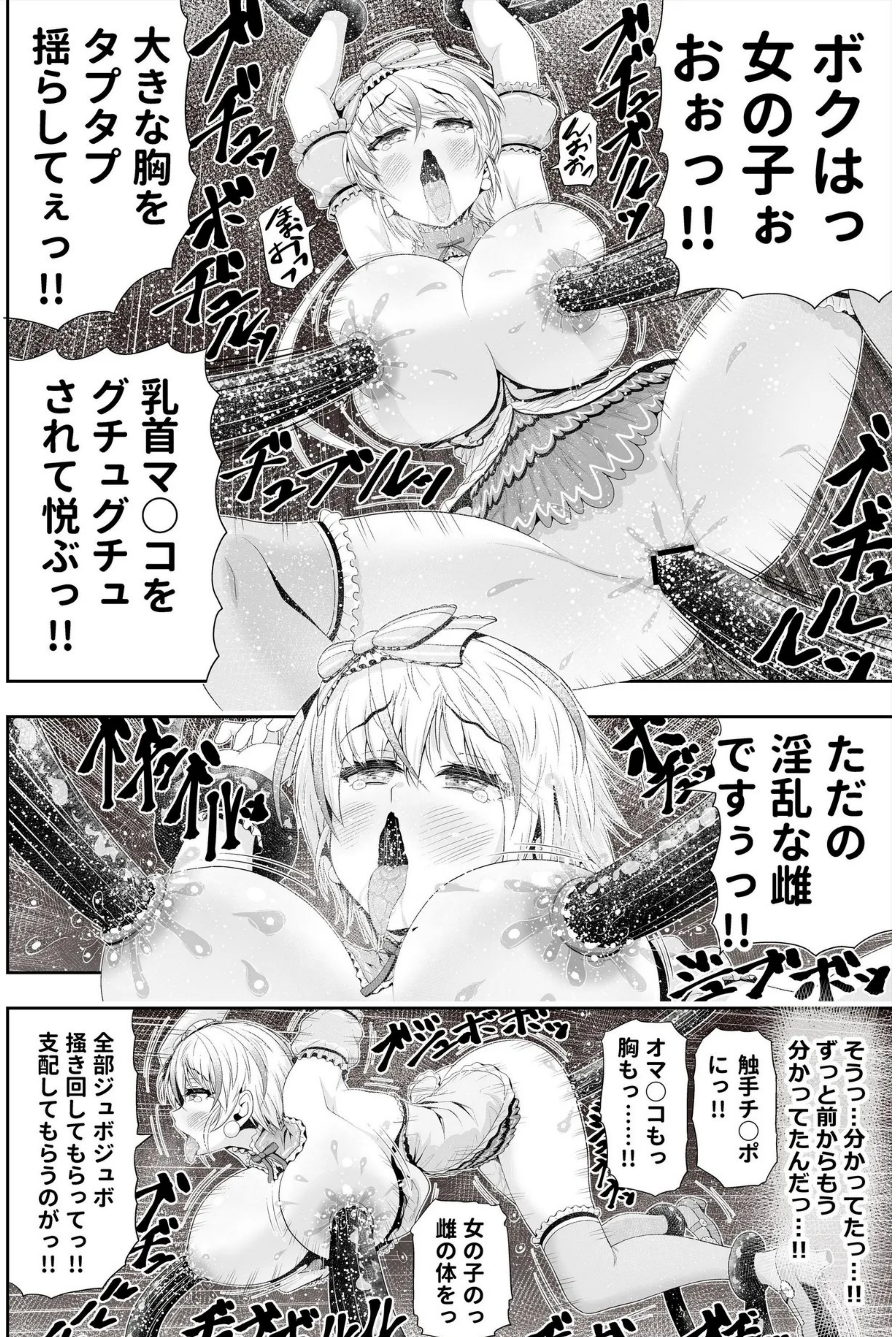

んはぁあああああっ!!!
ジュボブブブォ
ブビュッ
ブルンッ
ビクビクッ
ビクビクッ
どうだアサヒ俺のチ○ポは?
ジュボッ
凄いぃっ!! 気持ひいいいいいっ!!
子宮の奥までかき回されてるぅうっ!!
ジュボォ
お前が『発散』に使っていた触手チ○ポも俺の物……
お前はずっと俺のチ○ポの虜だったのだ
そっ そうっ!! ボクはずっとこのチ○ポの虜だったのぉおおっ!!
んあぁっ
はぁっ
ズジュルルルッ
今後も触手チ○ポに犯されたいか?
んぁあっ!!犯されたいぃいいっ!!
他の事はもうどうでもいいのだな?
どうでもいいいっ!! もっと犯してぇっ!!
んはぁっ
あぁっ
ズジュルルッ
ジュボッ
ジュボッ
ブルンッ
ブルンッ

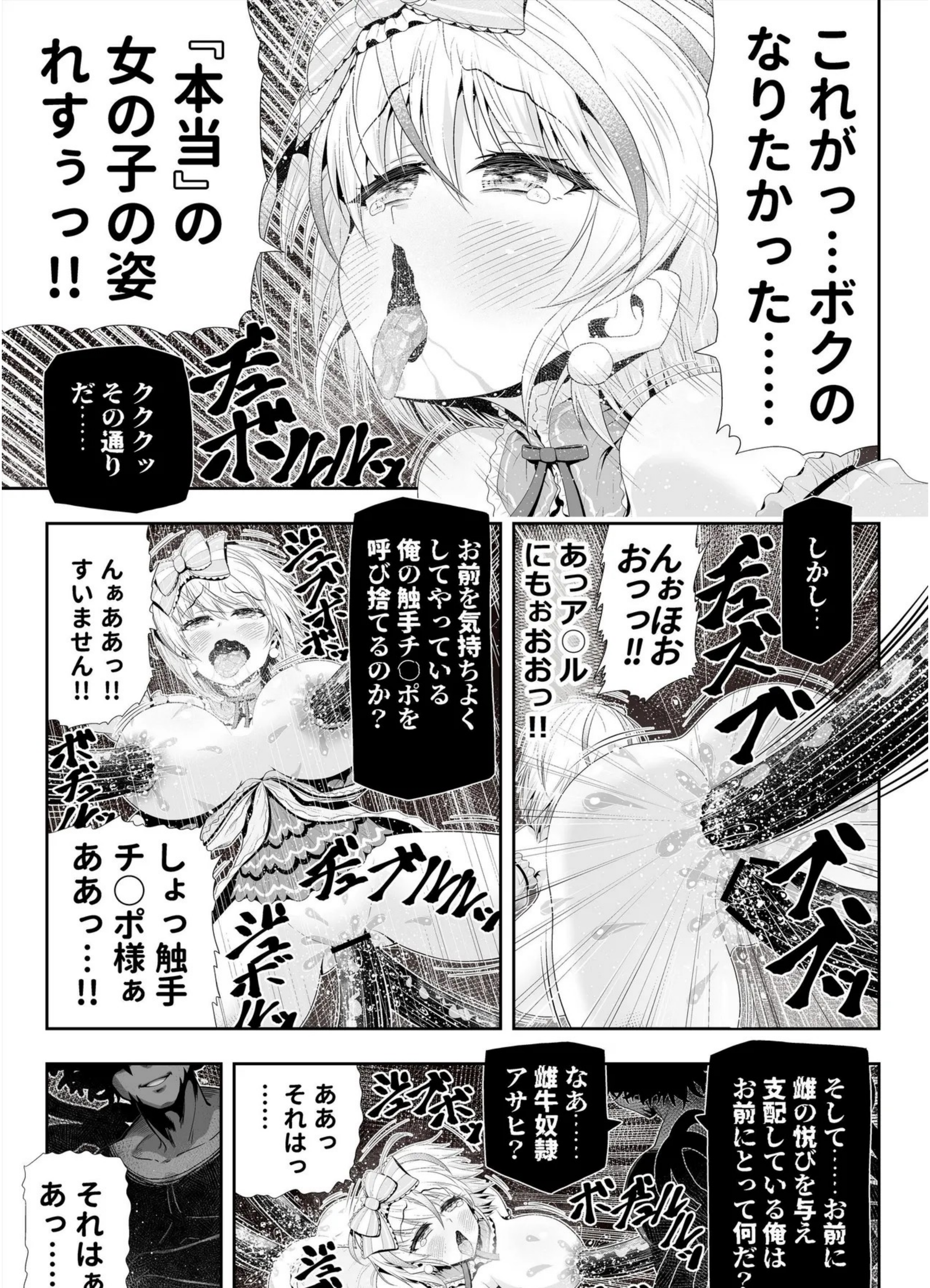

世界の平和やユウやエリナの事もどうでもいいのだな？
——っ!!
ククッどうした？他の事はどうでもいいのだろう？
そっそれはっ……！
世界を救う『王子様』より男に犯される『可愛い女』の方がいいのだろう？
っ!!
よ……
よくないいいいいっっ……!!!
!!
…そうだ…思い出した……
ハァ
ハァ
…ぼ……ボクは…
…ボクは…確かに可愛い女の子に…憧れてた……
…でも…
……かつてボクが憧れていたのは……
『格好いい女の子』だったんだ……
……だから

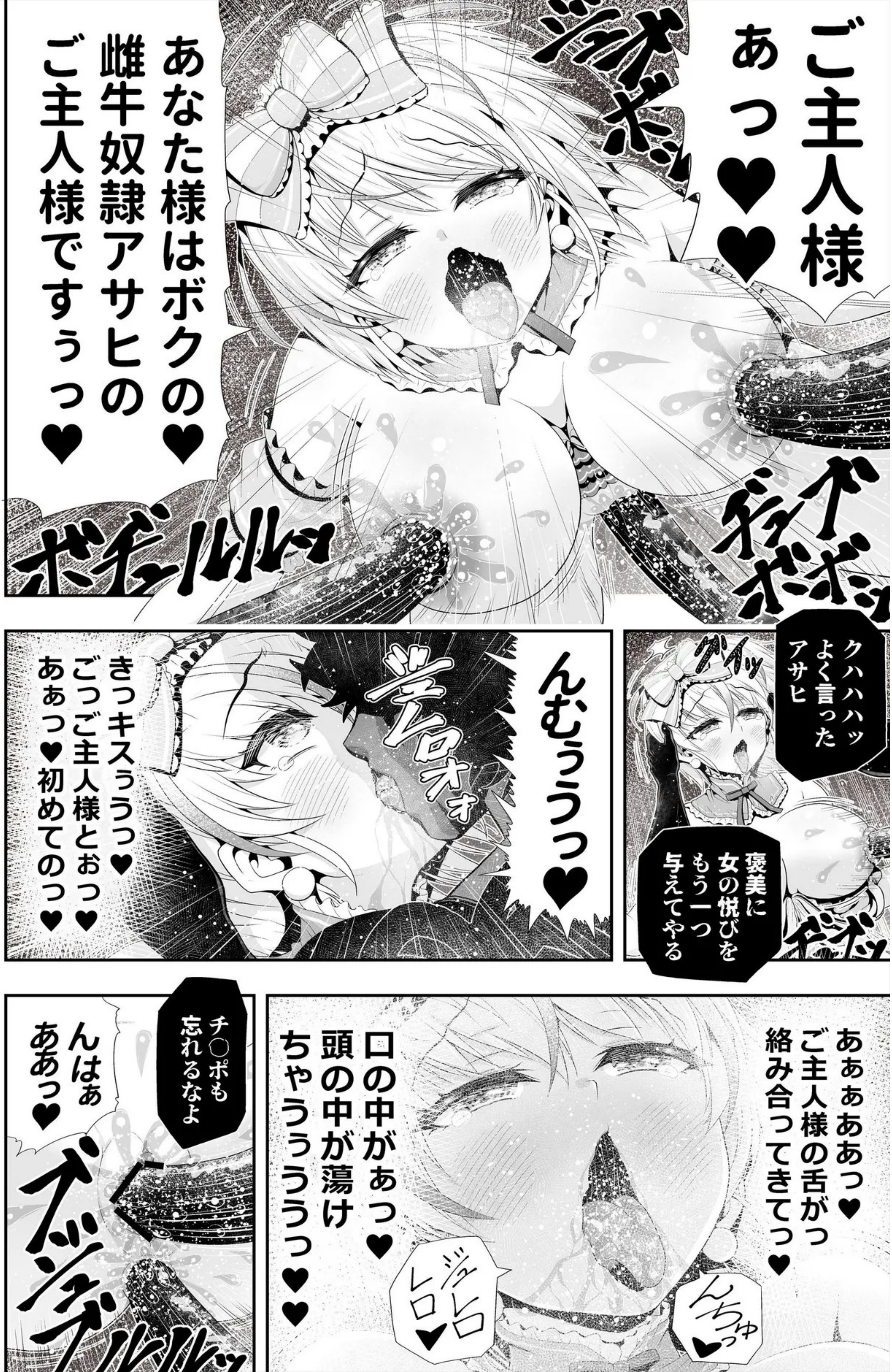

『王子』のボクも…ボクの大事な一部だったんだ……
…否定しなくても良かったんだ…！
グッ…
……成る程
ここで耐えたのはさすがだ……
だがな……
グオオ…
ジュルルル…
んひぐぅううぅっ!!
ボジュオルルルッ
ブボルルルルルッ
ビクビクッ
ビクビクッ
ジュルル…
ヒクヒク…
お前はもう…
『王子』ではない

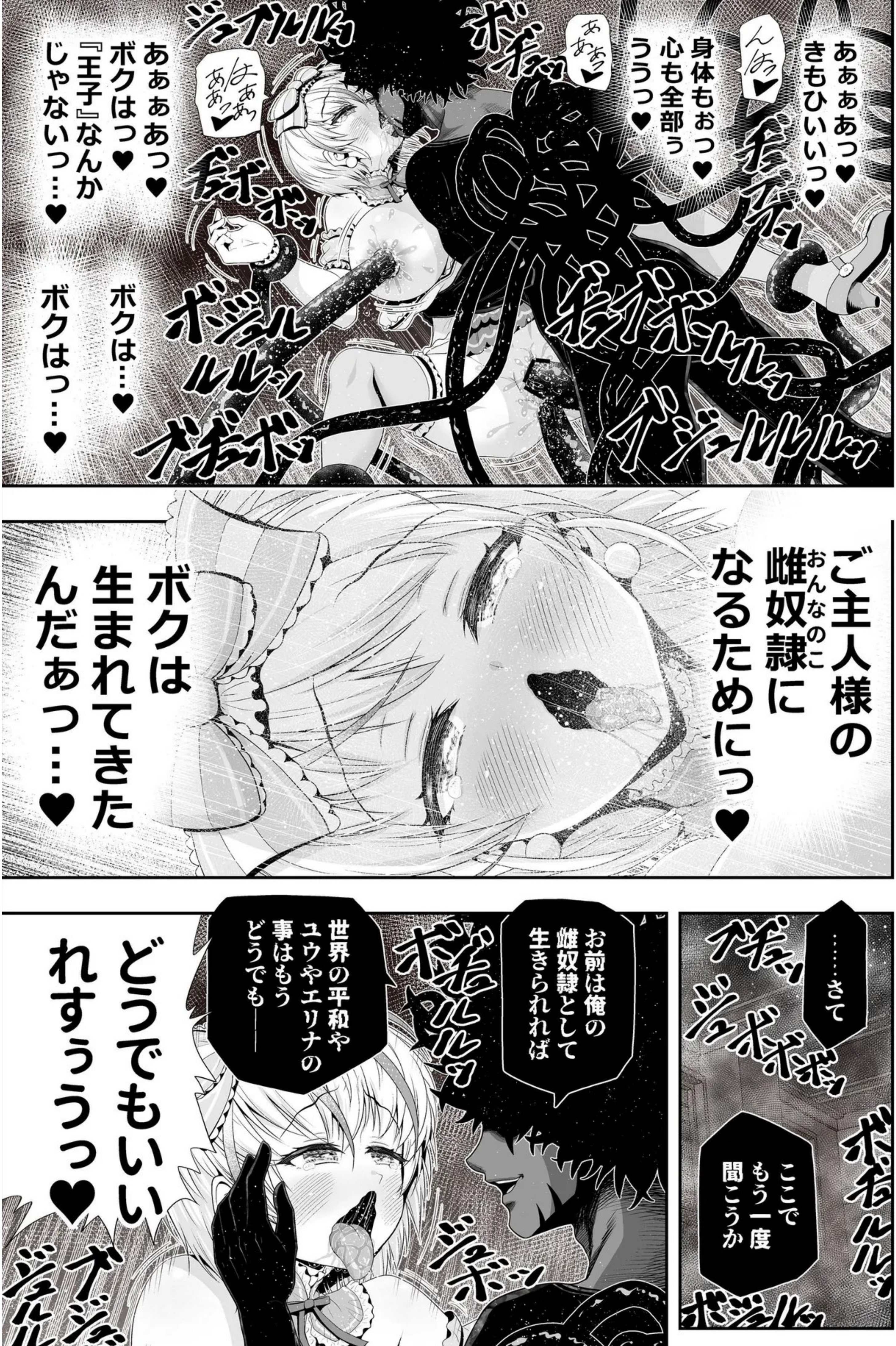
んぉおおお
おおおお
ジュオルルル
ビクビクビク
オズジュルルルルル
おおおおっ!!!
乳首マ○コは気持ちいいか？
んぉぉおっ!!
ほぉおおっ!!
ジュブルルルッ
ボヂュルルルッ
その快楽は触手で肉体改造した雌奴隷の『女』の身体だから味わえるのだ
おぉっ
ほぉおっ
めっ雌奴隷のっ……
おっ女の身体っだからっ……!!
ヂュボルルルルッ
しゅっしゅごいいぃいっ!!
乳首の中かき回されてっ!!
体中がっ気持ちよさとぉっ
悦びで満たされるぅっ!!
ズヂュボルルルッ
『女』の悦びと幸せに比べたら『王子』など児戯に等しい
今の自分の姿を見てみるがいい
ブンッ
ズヂュルルッ
ボジュルルルッ

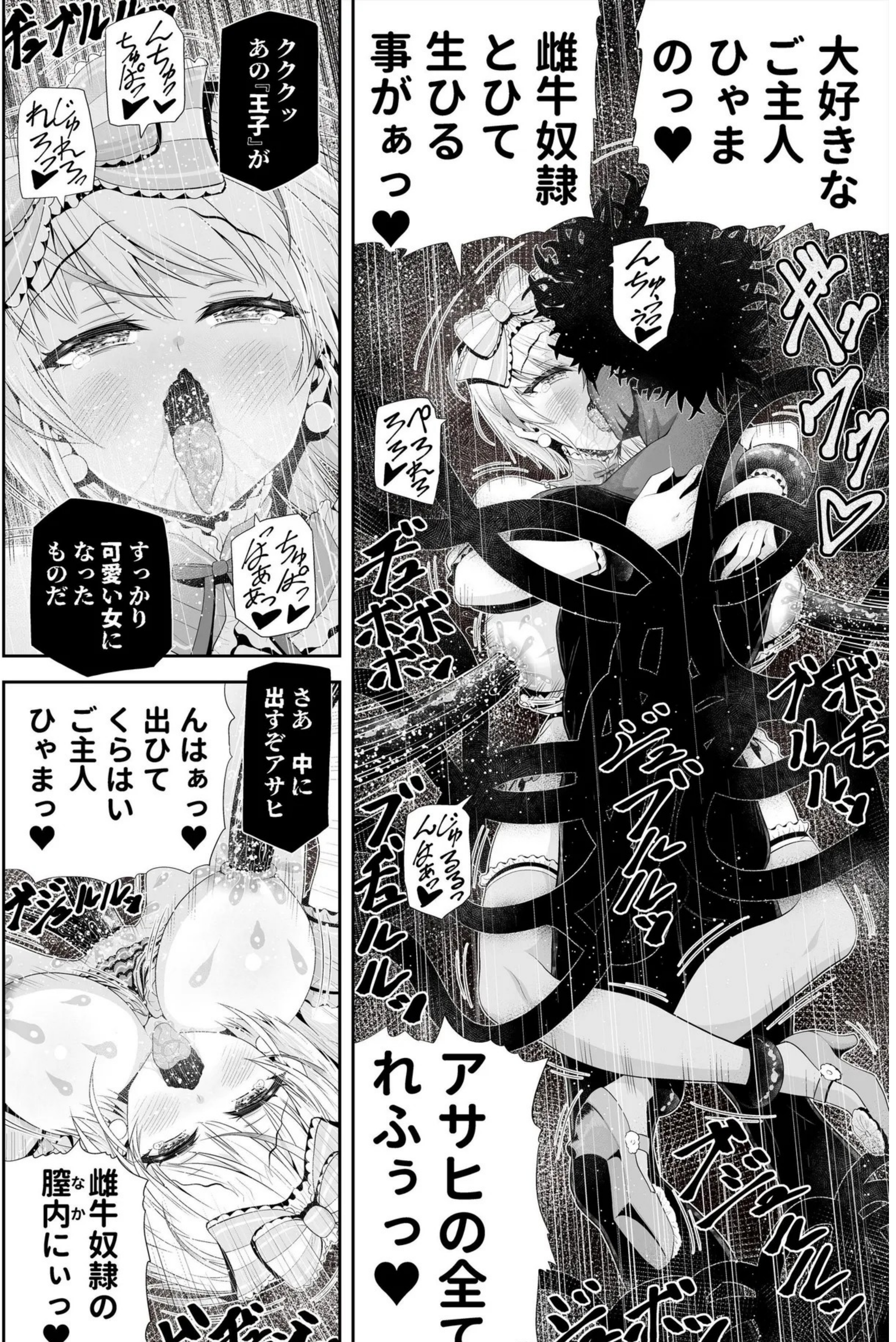
――っ!!
今のお前は何者だ？
ヌボルルルッ
ズボヌボルルルッ
『王子様』か？『正義の味方』か？
ぁああ…っ！
今のボクの姿っ……
なんてっ……
なんていやらしい姿なのっ……！
答えろアサヒ
お前は何者だ？
んぉおおっ！
ボクはっ……！
あぁぁっボクはっ……!!
ボクはぁあっ……!!

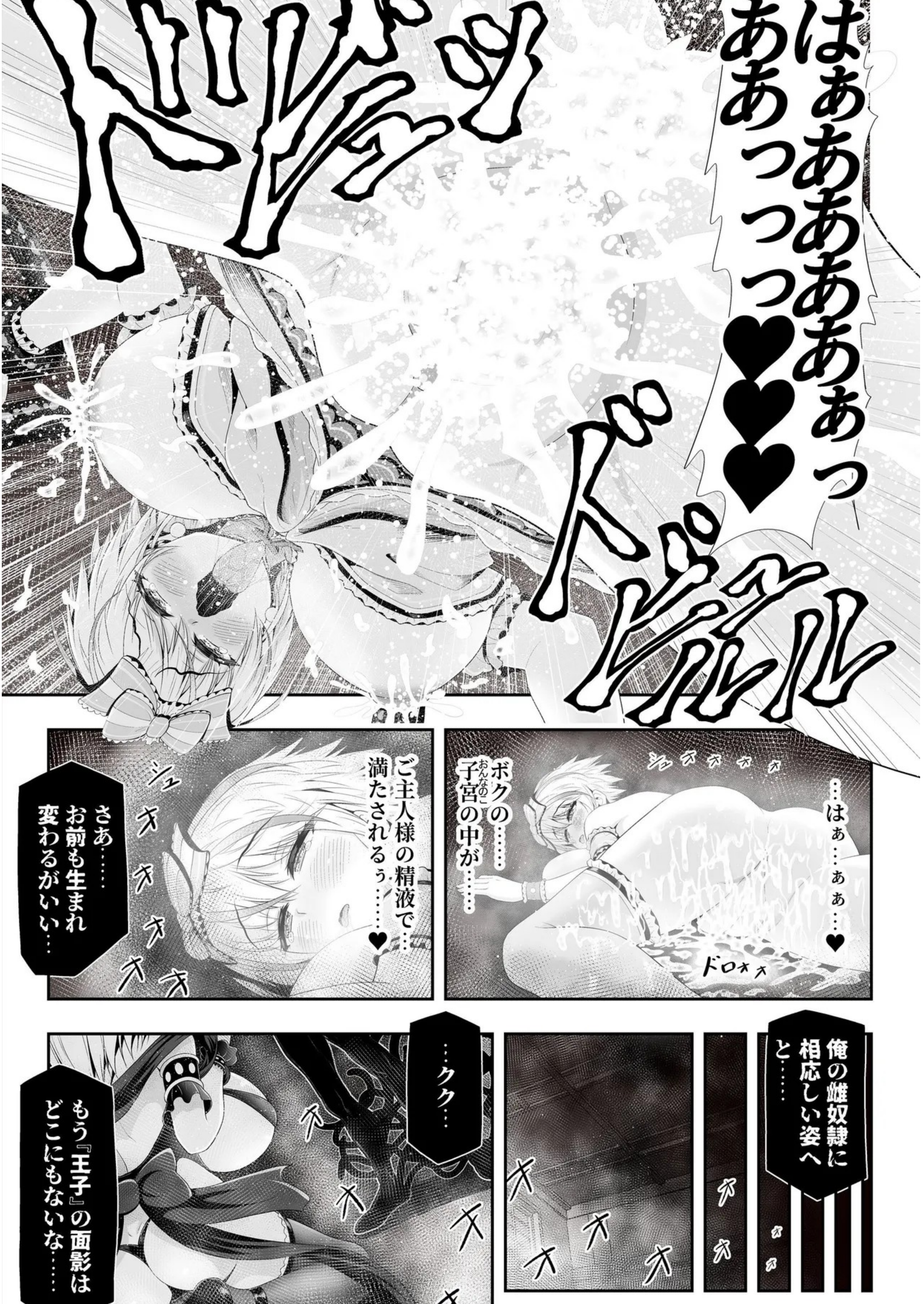

ボクはっ
女の子ぉ
おぉっ!!
ズチュルルッ
んおぉっ
ほぉおっっ
大きな胸を
タプタプ
揺らしてぇっ!!
ズヂュッ
ズボッ
ズチュルッ
乳首マ○コを
グチュグチュ
されて悦ぶっ!!
ヂュブルッ
ズチュルルッ
ただの
淫乱な雌
ですぅうっ!!
ジュブボッ
そうっ…分かってたっ…!!
ずっと前からもう
分かってたんだっ…!!
触手チ○ポ
にっ…!!
オマ○コもっ
胸もっ……!!
ズジュボボッ
全部ジュボジュボ
掻き回してもらってっ!!
支配してもらうのがっ!!
女の子のっ
雌の体をっ
ヂュボボルルッ
ヂュボッ
ズヂュッ

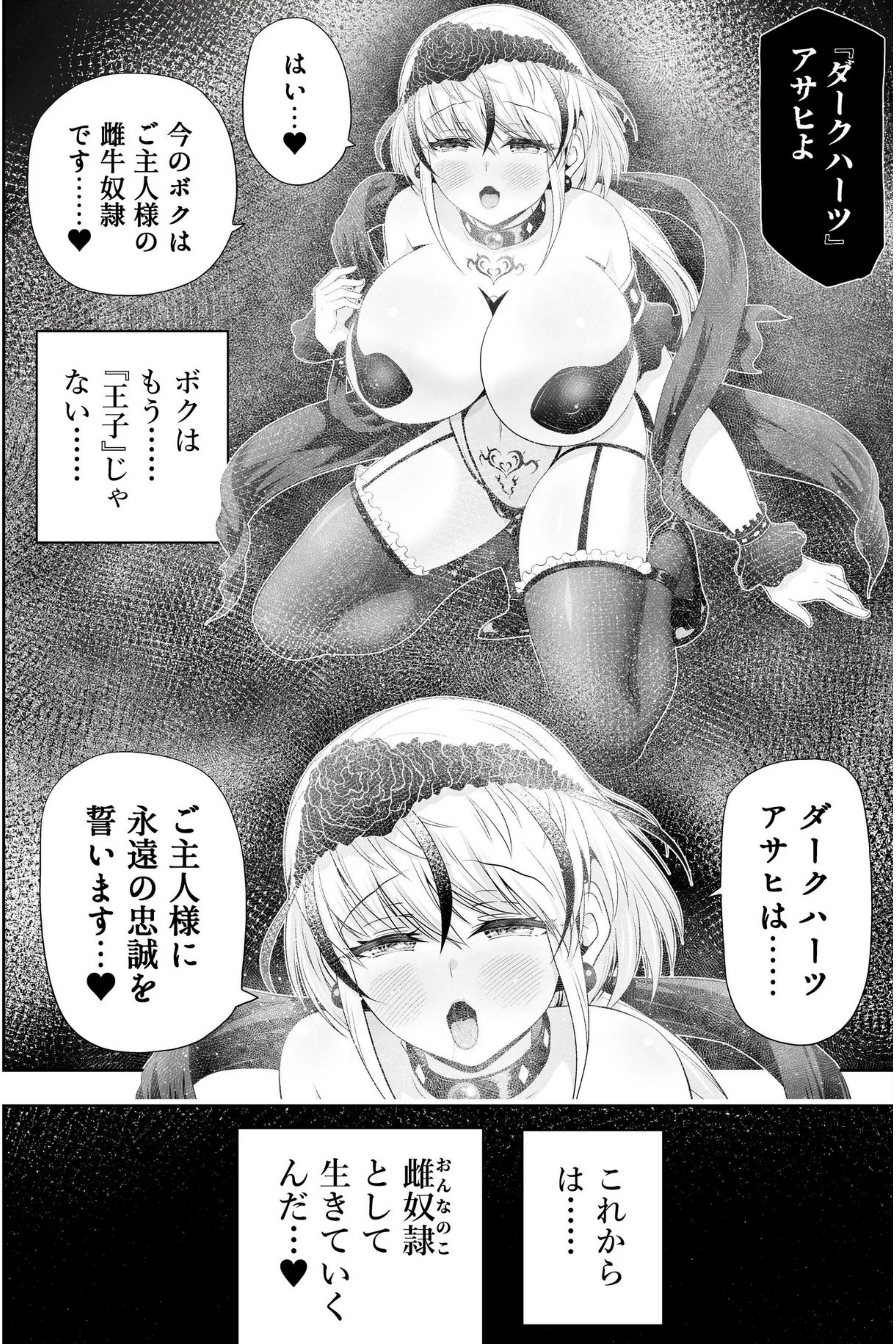

これがっ…ボクのなりたかった……
『本当』の女の子の姿れすぅっ!!
ズボルルルッ
クククッその通りだ……
しかし…
ズズブブ
んぉほおおっっ!!
あっア○ルにもぉおおおっ!!
ズブッ
お前を気持ちよくしてやっている俺の触手チ○ポを呼び捨てるのか？
ジュボボッ
んぁあああっ!! すいません!!
ボチュルッ
ズチュルルルッ
しょっ触手チ○ポ様ぁあぁあっ…!!
ジュボルッ
そして……お前に雌の悦びを与え支配している俺はお前にとって何だ？
なあ……雌牛奴隷アサヒ？
ジュボボッ
ああっそれはっ……
ボチュルルッ
ジュボボ
ズボボボ
ズチュルルッ
それはぁああっ……!!

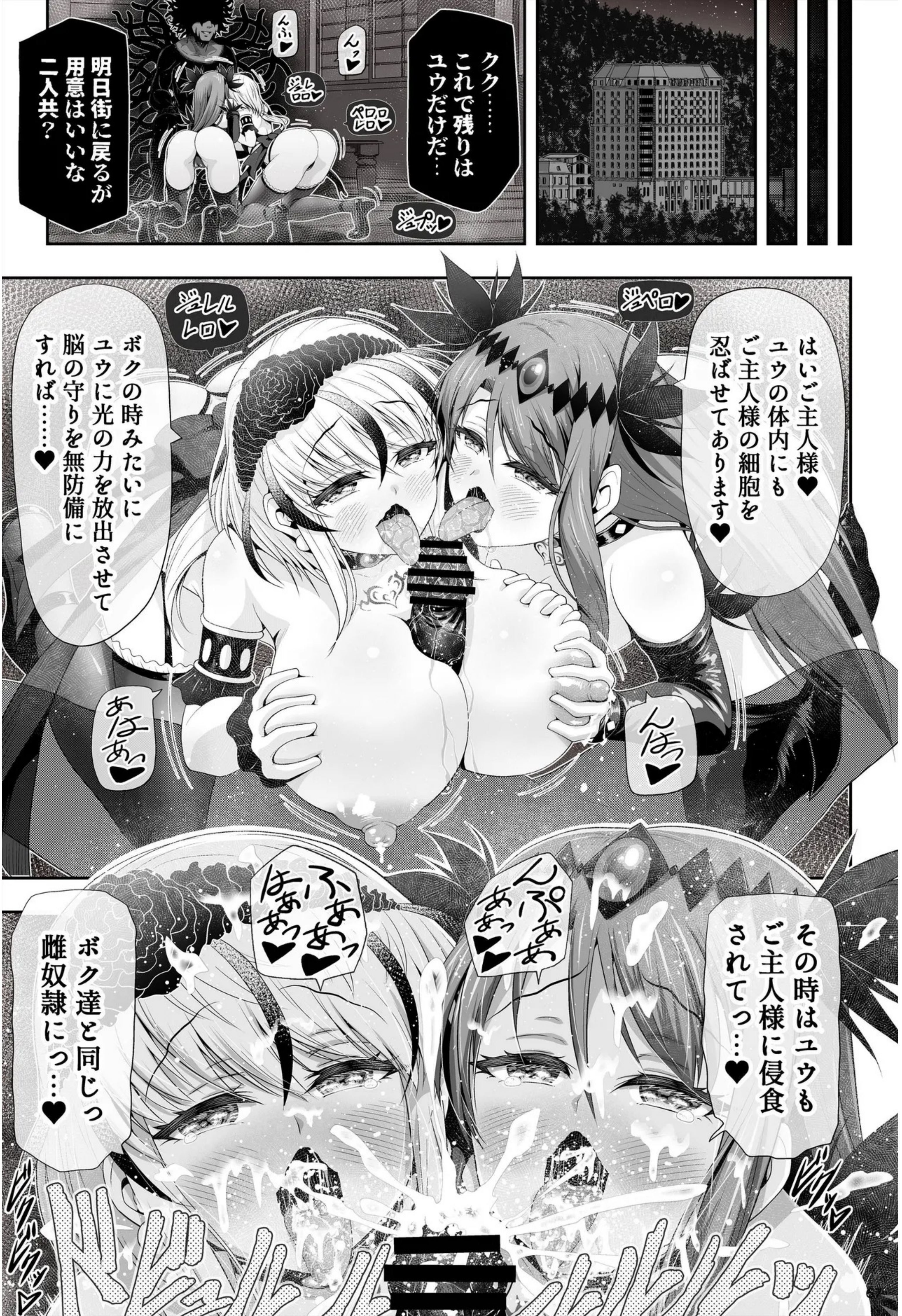

ご主人様あっ♥♥
ジュボボッ
あなた様はボクの♥
雌牛奴隷アサヒの♥
ご主人様ですぅぅっ♥
ギュポポッ
ボヂュルルッ
クハハハッ
よく言った
アサヒ
グイッ
褒美に
女の悦びを
もう一つ
与えてやる
んむぅぅうっ♥
ジュレロォォ
きっキスぅぅうっ♥
ごっご主人様とぉっ♥
あぁっ♥初めてのっ♥
あぁぁあぁっ♥
ご主人様の舌がっ
絡み合ってきてっ♥
口の中がぁっ♥
頭の中が蕩け
ちゃうううっ♥♥
んちゅっ♥
ジュレロレロ♥
チ○ポも
忘れるなよ
んはぁ
ああっ♥
ズジュブルルッ

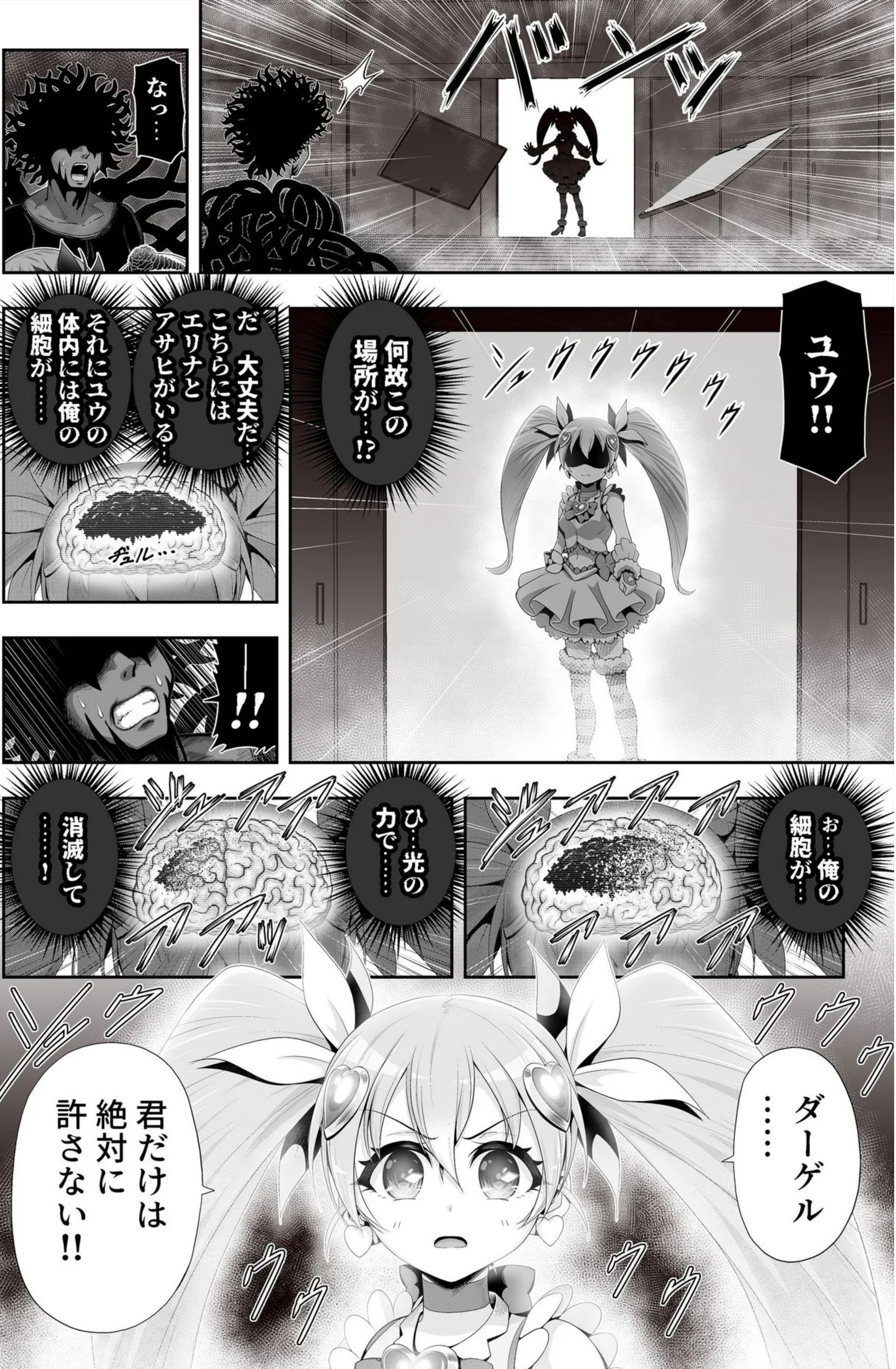

あぁぁあっ♥
きもひいいっ♥
んほっ♥
身体もぉっ♥
心も全部ぅ
ううっ♥
ああぁっ♥
ぁぁあっ
ぁああっ♥
ジュプルルルッ
ボチュッ
ボチュッ
ドボッ
ゴボッ
ボジュルルルッ
ズボボボッ
ゴボボボルルルッ
ズジュルルルルッ
あぁぁあっ♥
ボクはっ♥
『王子』なんか
じゃないっ…♥
ボクは…♥
ボクはっ…♥
ご主人様の
雌奴隷（おんなのこ）に
なるためにっ♥
ボクは
生まれてきた
んだぁっ…♥
……さて
ブチュッ
ジュボボボッ
ボチュルルッ
ボジュルッ
ここで
もう一度
聞こうか
お前は俺の
雌奴隷として
生きられれば
ボチュルルッ
世界の平和や
ユウやエリナの
事はもう
どうでも——
ジュボッ
どうでもいい
れすぅうっ♥
ズジュボッ
ジュルルッ


大好きなご主人ひゃまのっ♥
雌牛奴隷とひて生ひる事がぁっ♥
ギュウゥ♡
んちゅっっ♥
やろれろろ♥
ボビュルルッ
ジュブブルルッ
ゴボボッ
ブビュルルッ
じゅるるるっ んはぁっ♥
アサヒの全てれふぅっ♥
ボビュルルッ
ジュボッ
クククッ あの『王子』が
んちゅっっ ちゅぽっ♥
じゅれろろっ れろっ♥
ボビュルルッ
ちゅぽっ ぱぁあっ♥
すっかり可愛い女になったものだ
さあ 中に出すぞアサヒ
んはぁっ♥ 出ひてくらはい ご主人ひゃまっ♥
ボビュルルッ
雌牛奴隷の膣内（なか）にぃっ♥
ボビュルル


はぁああああぁっ
ああっっっ♥♥♥
ドビュッ
ドビュルル
…はぁ…ああ…♥
ボクの……子宮（おんなのこ）の中が……
シュオォォォォ
ドロォォ
ご主人様の精液で…満たされるぅ……♥
シュオォォォォォォ
さあ……お前も生まれ変わるがいい…
俺の雌奴隷に相応しい姿へと……
ォォォォ
オオオオオ
…クク…
もう『王子』の面影はどこにもないな……
オオオオ


『ダークハーツ』アサヒよ
はい……♥ 今のボクはご主人様の雌牛奴隷です……♥
ボクはもう……『王子』じゃない……
ダークハーツアサヒは……
ご主人様に永遠の忠誠を誓います…♥
これからは……
雌奴隷（おんなのこ）として生きていくんだ…♥


クク……
これで残りは
ユウだけだ…
んふ♥
んっ♥
ジュぷ♥
ペロロレロロ
ジュポッ♥
明日街に戻るが
用意はいいな
二人共？
ジュペロ♥
はいご主人様♥
ユウの体内にも
ご主人様の細胞を
忍ばせてあります♥
ジュレルレロ♥
ボクの時みたいに
ユウに光の力を放出させて
脳の守りを無防備に
すれば……♥
んほっ♥
あはあっ♥
その時はユウも
ご主人様に侵食
されてっ……♥
んぷあああっ♥
ふああっはああっ♥♥
ボク達と同じっ
雌奴隷にっ……♥
ドビュルルルルルルッ
ビクッ
ビクッ


バンッ
なっ…
ユウ!!
シュウウウウウウウウ
何故この場所が…!?
だ 大丈夫だ… こちらにはエリナとアサヒがいる…
それにユウの体内には俺の細胞が……
チュル…
――!!
お…俺の細胞が…
ジュアアアア
ひ…光の力で……
ジュアアアアアッ
消滅して……!
シュウウウウウウ
ダーゲル……
君だけは絶対に許さない!!

第三章へ
続く…

〜〜あとがき〜〜

どうも、サークル『エクリプス』のコーアンです。

この度は『魔法少女シャインハーツ第二章 〜藤間アサヒ〜』
をお買い上げいただきありがとうございます。

このアサヒというキャラは、
第一章の時点ではまだほとんどキャラ描写がされておらず
（『ボク』という一人称すら出ていませんでした）
第一章はエリナのキャラ描写が少なかったのもあり、
第二章のアサヒは結構丁寧に描写しました。

個人的にこういったボーイッシュ系のキャラは好きです。
イケメンから女の顔に変わる時のギャップが良いんですよね。

あと、Hシーンについては合宿の途中までは
凌辱漫画として少し物足りなかったかもしれません。
前回と方向性を少し変えてみた結果ですが中々難しいですね。
その辺りは第三章で挽回できればと思っています。

第三章では、ついに『陽ノ下ユウ』が雌奴隷に堕とされます。

何故、シャインハーツや闇の魔物が誕生したのか……？
陽ノ下ユウとシャインハーツ達の行く末は……？

次回作で完結の予定です。
是非、物語の最後まで見届けていただければと思います。

それでは次回作もよろしくお願いします。

2025年6月10日　コーアン

pixiv→https://www.pixiv.net/users/56162663
ニジエ→https://nijie.info/members.php?id=158345
Ci-en→https://ci-en.dlsite.com/creator/7151

連絡先：isyuuki@icloud.com